

遣ノ福田政記小林胖生牛島義雄三名ノ技師モ大倉組社員ノ
名義ニテ大倉側ノモノト十二月廿八日天津大倉組支店ニ於
テ落合フ筈就テハ往電第六一〇号護衛兵ノ件至急交渉ヲ了
セラレ結果電報アリ度シ又右一行護照發給方ニ付テハ在天
津總領事ト打合セ適宜措置セラレ度一行中大倉側ノ氏名ハ
天津同支店ニ就キ承知アリ度シ
本件一行派遣ノ成行大要至急天津ニ郵報アレ

四六三 十二月二十八日 加藤外務大臣ヨリ
在中国日置公使宛(電報)

新邱炭坑ヘノ滿鉄派遣技師中一名変更ノ件

第六三五号

往電第六二八号中福田政記ハ出張ヲ見合セ小沼得四郎之ニ
代ルコト、ナレリ護衛兵ノ件成行至急当方ニ電報シ天津ニ
郵報アリ度シ

四六四 十二月三十日 在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

新邱炭坑ヘノ出張技師ノ出發遲延ニ付護照及
護衛兵ノ請求ヲ見合セ居ル件

第八九一号

貴電第六三五号ニ関シテハ曩ニ大倉組天津支店長ヨリ一行
中ニハ是非共大新公司出願名義人周圭璋ヲ加フルコトハ農
商部派遣員ト現場ニ於ケル折衝上有利ナリト認メ其ノ旨上
海ヘ電報シタルニ同人ハ目下江西方面ヘ出張中ニテ一月十
日頃ナラテハ来京叶ハストノ趣ナルヲ以テ一行ノ出發日取
ハ同人著ノ上決定スヘシトノ旨申出アリ右ノ次第ニテ時日
ニ尚余裕アル今日取急キ護照及護衛兵ノ請求ヲナストキハ
外間ニ洩ルル結果無用ノ誤解ヲ惹起シ意外ノ故障ヲ生スル
虞ナキニアラスト存シタルニヨリ支店長トモ協議ノ上出發
期日確定迄請求方見合セ居ル次第ナリ

事項一四 中国革命党關係者ノ動静ニ関スル件

附 在本邦中国留学生問題

四六五 一月九日 在中国山座公使ヨリ
牧野外務大臣宛

上海居留地ニアル中国革命黨員ノ逮捕引渡方
ニ関スル外交部ノ要求ニ対シ外交団ヨリ回答
ノ件

公第四号 (一月十九日接受)

大正三年一月九日

在支那

特命全權公使 山座円次郎(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

上海居留地ニアル革命黨員ノ逮捕引渡方ニ関
スル外交部ノ要求ニ対シ外交団ヨリ回答ノ件

曩ニ何海鳴、林虎、李烈鈞及熊仁等革命黨員逮捕方ニ関ス
ル外交部屢次ノ要求並ニ之ニ対スル外交団ノ措置振ニ就テ
ハ客年十一月廿一日附機密第四〇四号往信ヲ以テ詳細報告
致タル通ニ有之候処十一月廿六日附ヲ以テ別紙甲号ヲ通
(原文及外交団英訳文添付) 外交部ヨリ首席公使ニ宛テ陳

一四 中国革命党關係者ノ動静ニ関スル件 四六五

其美一派ノ陰謀ニ関スル江蘇官憲ヨリノ報告ヲ齎ラシ之カ

逮捕引渡方在上海領事団ヘ訓令スル様依頼有之候ニ付外交
団ニ於テハ十二月十二日本件ヲ討議シタルニ各国公使共從
來保持セルト同様ノ意見即チ所謂犯人逮捕ノ上ハ会審衙門
ニ於テ預審シ其結果普通犯罪ナルコト確定ノ上ハ支那官憲
ニ引渡スヘク之ニ反シ政治犯人ナルニ於テハ海路退去セシ
ムヘシト云フニ一致セルカ今回ノ外交部来信ト云ヒ將又曩
キニ林虎、李烈鈞及熊仁逮捕引渡ニ関スル来信ト言ヒ其内
容ヲ窺フニ外交部ハ過般何海鳴事件ノ際外交団カ与ヘタル
逮捕引渡ニ関スル同意ノ真意ヲ誤解シ居リ恰カモ外交団ハ
既ニ何海鳴一派ヲ普通ノ重罪犯ト認メ居リ之カ逮捕ノ上ハ
直チニ支那側ニ引渡スコトヲ承諾シタルモノ、如ク了解シ
居ル様見受ケラル、ヲ以テ斯カル誤解ヲ一掃スル為メ犯人
ノ逮捕及引渡ニ関スル既定ノ手續ノ何タルヤニ付充分明瞭
ニ記載シ支那側ヲシテ將來誤解ナカラシメントノ希望ヲ以
テ外交部ニ回答スルコトニ決シ首席公使之カ案文起草方ヲ

担任シ今般別紙乙号ヲノ通作成シタルニ各国公使共之ヲ承認シタルヲ以テ一月七日附ヲ以テ外交部宛發送致候

尚大同民党首領及暗殺隊指揮官ノ二名過般上海居留地ニ於テ逮捕セラレ目下居留地警察ノ手ニアリ近々ノ中会審衙門ノ審判ニ附セラル、筈ノ処右ハ第二革命ニ關係アル著名ノ叛徒ナルニ付速ニ支那官憲ニ引渡アリ度旨、十二月廿三日附ヲ以テ別紙丙号英訳文ノ通申越有之候処首席公使ハ之ヲ回覽ニ附スルト同時ニ各国公使ニ於テ前掲一月七日附外交部宛回答案ニ同意セラル、ニ於テハ(當時同案回覽中)本件ニ就テモ右回答文ヲ用ヒテハ如何ト提議致候ニ付本使ハ之ニ同意致置候
右報告申進候也

本信写送附先 在上海總領事

註 別紙甲乙丙各号写省略

四六六 一月十日 牧野外務大臣ヨリ
在シンガポール藤井領事宛(電報)

李烈鈞新嘉坡向出発ニ付同人行動注意方訓令
ノ件

第二号

李烈鈞一月三日横浜出帆ノ仏国汽船 Paul Lecat ニテ貴地ニ向ケ出発シタル処右ハ貴地ニ於テ岑春煊ト会合シ何等画策スル目的ナルヤノ情報モアルニ付同人等ノ行動ニ注意シ参考トナルヘキ事実電報アリタシ

四六七 一月十日 牧野外務大臣ヨリ
在上海有吉及在香港今井總領事宛(電報)

李烈鈞新嘉坡向出発セルニ付同人行動注意方
訓令ノ件

在上海有吉總領事宛第二号
在香港今井總領事宛第二号

李烈鈞一月三日横浜出帆ノ仏国汽船(昨日上海ヲ出帆シタル筈) Paul Lecat ニテ香港迄ノ切符ヲ求メ新嘉坡ニ向ケ出発シタルカ貴地ニ下船スルヤモ計リ難キニ付同人ノ行動ニ注意シ何等参考トナルヘキ事実電報アリタシ

四六八 一月十三日 在香港今井總領事ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

李烈鈞ノ新嘉坡行ハ陳炯明等ト意思ノ疏通ヲ
計ル為ナル旨同人来談ノ件

第二号

(別紙)

長江一帯及福建省方面ノ警備ニ関シ前回報告以後ノ概況左ノ如ク中部支那ニ於ケル動乱茲ニ終局ヲ告グルニ至レリ

南京方面

其後支那兵ノ挙動靜穩ナリシニ依リ第三艦隊司令官ハ陸戦隊ヲ銃隊二ヶ小隊、砲隊一ヶ小隊野砲二門及機砲四門(陸戦隊ノ総人員准士官以下十二名下士卒百五十七名銃数百四十五、指揮官新高副長海軍少佐高倉正治)ニ減セシモ猶不時ノ變ヲ慮リ居留民ハ之ヲ領事官ニ集結シ置ケリ然ルニ其後暴行支那兵ノ処刑無事終結シ城内ノ状況漸ク平靜ニ帰シタルヲ以テ十月十六日居留民ヲ帰宅セシメ十一月六日再陸戦隊ヲ銃隊二ヶ小隊機砲四門ニ、同十二日更ニ之ヲ銃隊一ヶ小隊機砲二門ニ減シ十二月一日岩手對馬須磨ノ諸艦ヲ撤退スルニ至リ越エテ十二月末張勳麾下ノ兵漸次南京ヲ去リ張勳亦本年一月八日ヲ以テ南京ヲ去リ馮国璋代テ入城シ南京城内全ク靜謐ニ帰スルニ及ヒ一月十一日陸戦隊全部ヲ撤退セリ

四川省方面

其後重慶市内靜穩ニ帰シタルヲ以テ十月十一日陸戦隊ヲ

貴電第二号ニ関シ仏国汽船ニ乗込居ラサリシ李烈鈞ハ張繼ト共ニ丹後丸ニテ長崎ヨリ直行シ一月十二日当地著暫時上陸日本宿ニ休憩後折柄港内ニ在ル仏国汽船ニ横浜ヨリ乗込居タル李烈鈞ノ英語通訳宋某ト共ニ新嘉坡行ノ切符ヲ求メ一月十三日同地ニ赴ケリ深夜三名ハ秘密ニ本官ヲ訪問シ語ル所ニ依レハ其用向ハ彼南ニ在ル陳炯明岑春煊汪兆銘等ト面会シ意思ノ疏通ヲ計ル為ニシテ事ヲ挙クルハ二三年待ツノ外ナク二三ヶ月後ニハ日本ニ帰ル筈ナリト云ヘリ
在支公使ヘ転電セリ

四六九 一月十五日 齋藤海軍大臣ヨリ
牧野外務大臣宛

南京及重慶方面ノ動乱終局ニ付報告ノ件
(一月十六日接受)

大正三年一月十五日

海軍大臣男爵 齋 藤 実(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

長江一帯及福建省方面ノ警備ニ関シ前回報告以後ノ概況別

紙ノ通ニ候

右通牒ス

一四 中国革命党関係者ノ動靜ニ関スル件 四七〇
撤退セリ

四七〇 一月十六日 李家長崎県知事ヨリ
牧野外務大臣宛

第三次革命決行ノ風説ト亡命中国人ノ動靜ニ
関スル件

高秘特収第一五三号 (一月十九日接受)

大正三年一月十六日

長崎県知事 李家 隆 介

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

報告先(内相)

大連居住中ノ支那亡命者劉公等ノ一派ト本邦居住ノ亡命者連ト相通シ近々第三次革命ヲ決行セント企テ居レリトノ噂アリ当地在留亡命者ノ一般ニ対シ其動靜ヲ察スルニ柏文蔚ノ如キハ今遽ニ革命ノ旗ヲ挙ケントスルハ早計モ甚シキモノニシテ之カ計画ヲナスモノハ全ク非正当ノ分子耳到底成功ノ望ナシト称シ居レルモ十日夜已ニ李烈鈞ノ居所ヲ蹈晦セルアリ又十二日ニハ何海鳴ノ電報ニ依リ季雨霖劉英等カ下関ニ至リテ会见スルアリ尚東京地方ノ亡命者ニシテ当地ヲ經由シ上海ニ渡航セルモノノ如キハ頗ル多数ニ達セリ又

四七一 一月二十日 在シンガポール藤井領事ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

李烈鈞新嘉坡着、一ヶ月滞在ノ上日本ニ帰ル
予定ナル件

第三号

貴電第二号ニ関シ李烈鈞ハ日本人太田某ト称シ張繼及韓某ト共ニ一月十九日仏国汽船ニテ当地ニ著シ当地方革命党ノ中心人物タル林義順其他二三青年輩ノ出迎ヲ受ケタリ李ハ韓ヲ随ヘテ直ニ上陸シ本邦人ノ経営セル日出旅館ニ投シタルカ両三日滞在ノ上鐵路彼南ニ向ヒ岑春煊陳炯明及汪兆銘ヲ訪フヘク約一ヶ月滞在ノ上再ヒ日本ニ帰ル筈張ハ当地ニハ上陸セス其儘海路彼南ニ向ヒ一同ト会见シ二週間後次ノ便船ニテ汪ト共ニ巴里ニ赴ク予定トノコトナリ以上ハ張ト面識アルモノヲシテ夫トナク張ヨリ直接聞取ラシメタル事項ナリ想像スルニ李今回ノ渡来ハ或ハ主トシテ金策ノ為ニハアラサルカ但シ当地方一带ニ福州人及広東人ノ勢力最モ大ナル土地柄ナレハ彼等ト何等縁故ナキ李モ張モ直接ニハ何事ヲモナシ得サルヘシト思考ス委細公信

一四 中国革命党関係者ノ動靜ニ関スル件 四七一 四七二

七〇〇

本月十五日大連住劉公ヨリ当地ノ季雨霖劉英ノ兩名ニ宛テタル電報ニハ劉芸舟外一名ヲ天草丸ニテ大連出發セシムトアリ兎ニ角風雲急ナルヲ告クルモノノ如シ

革命ノ策源地ニ就テハ明カナラサルモ風説ニ依レハ大連ニ根拠ヲ置キ奉天附近ニ革命旗ヲ挙クルト同時ニ各省各所ニ峰起シテ一時ニ袁政府ヲ圧セントスルノ計画ナルカ如シ之ヲ幹旋スル日本人トシテ大連ニ金子克巳アリ東京ニ於ケル山田純三郎長崎ニ於ケル野中右一等常ニ金子ト聯絡ヲ取ル模様アリ昨年十一、二月ノ頃革命ノ計画トシテ金子ヨリ当地野中ニ対シ通信セシ書簡ハ其大要ヲ知り得ヘキモノアリ尤モ其ノ通信ノ計画ハ資金調達不能ナル為メ実行スルニ至ラスシテ了レリト云フ而シテ彼等ハ差当リ大連在留ノ亡命者ノ窮状ヲ救フヘキ費用トシテ約二千元ノ調達ヲ在京ノ陳其美ニ要求シ其結果昨年末ニ至リ千五百円ヲ送付シタル趣ナレハ焦眉ノ急ハ救ハレ得タリシナルヘキモ今後尚多数ノ生計費ヲ要スヘク其困難ノ状態ハ金子ノ通信ノ一端ニ於テモ想像シ得ラレ候別紙ハ秘密ノ間ニ内示ヲ得タル書簡ヲ写取リタルモノニ付御参考迄添付致置候右及報告候也

註 別紙書簡写省略

四七二 一月二十二日 警視庁ヨリ
外務省宛

大連ニ於ケル中国亡命者ノ奉天拳兵計画ニ関
スル情報通報ノ件

乙秘第一二四号 一月二十二日 (一月二十二日接受)

報告ニ関スル件

当庁ヨリ大連ヘ派遣セル者ヨリノ電報左ノ如シ

一月二十一日午後九時五十分着

大連亡命者ニ三派アリ其数八十四名外ニ宗社党ノ主ナル者拾余名アリ互ニ反目シ居リシガ第三次革命ノ近ツケル為メ頃日一致ノ行動ヲ採リ「張作霖」ノ部下ト合シ解氷ノ期ヲ俟チ先ツ奉天城ニ事ヲ挙ゲントスル計画ニテ滿洲諸方面ニ同志アリ当地ヨリ「陳其美」ニ發電セシハ右ノ計画ニ関シ協議ヲ要スル為メ「戴天仇」又ハ「陳其美」ノ來連ヲ求メタルモノニシテ去ル十五日当地ヨリ天草丸ニテ長崎ニ向ヘルハ「劉大同」ナリ当地革命党三派中ニテ勢力アル「劉大同」「一派五十名ハ「戴」「陳」「柏文蔚」「季雨霖」等ト深キ関係アリ東京方面ハ「戴」「陳」ニヨリ南清方面ハ多ク「柏」「季」等ニヨリ消息ヲ通セルモノノ如シ彼等ノ裏

七〇一

面ニハ長崎県人金子克巳ナル者アリ専ラ操縦ス金子ハ去ル十三日「ソンショウフ」ナル者ト共ニ奉天ニ密行シ「張作霖」ノ部下ト会シ活動地ノ地理ヲ視察シ来レリ尚ホ金子等ハ目下兵器ノ買入ニ奔走シツツアリトノ聞エアリ彼等ハ何レモ窮シ居リ十九日嘉義丸ニテ「ゴズイシウ」ナル者千円ヲ携ヘ東京ヨリ来リ三派ノ首領ニ九百円ヲ分配セリ彼等ハ第三次革命起ラサレハ終ニ馬賊ト変スルノ外ナカラン乎一同「戴天仇」「陳其美」ノ来連ヲ待チツ、アリ

四七三 一月二十四日 在シンガポール藤井領事ヨリ
牧野外務大臣宛

李烈鈞及張繼新嘉坡渡来後ノ行動ニ関シ報告

ノ件

機密第四号 (二月十六日接受)

大正三年一月二十四日

在新嘉坡

領事 藤 井 実(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

李烈鈞カ張繼及韓某ト共ニ一月十九日仏国郵便「ポール、ルカ」Paul Lecat 号ニテ当地ニ着シタル義ニ関シテハ貴

シト謂フ此張、汪両者ノ仏国行ハ張カ嘗テ汪ト共ニ巴里ニ住シ仏国人間ニ幾多ノ知人アルヨリ推スモ多分事実ナルヘシト思考セラル

汪兆銘ハ当地方ニ於テハ一般ニ汪精衛トシテ知ラル目下光華報ナル新聞ヲ經營シ自ラ之カ主筆タリ張ト共ニ最モ過激ナル革命思想ヲ有ス

聴ク所ニ依レハ李及其一味ノ者ハ亡命後其生計ニサヘ窮シオル趣ナリ然ルニ当方面ノ支那ノ商人ハ平素ハ其商取引ノ為ニ忙殺セラレツ、アルモ正月ノミハ一般ニ閑日月ヲ有スル由ナルヲ以テ李、張兩人ノ今回当地方ニ渡来セシハ支那ノ正月(元旦ハ本月二十五日)ヲ利用シテ有力者ト会見シ主トシテ金策ヲナサンカ為ナルヘシト考ヘラル

乍然当地方面ハ一般ニ福州人広東人ノ勢力強大ナル土地柄ニシテ湖北人タル李烈鈞モ直隸人タル張繼モ共ニ当地方ニハ全然縁故ナク從テ後援者モ少ナキノミナラス第一言語モ不通ナルカ故ニ其ノ渡来ノ目的ノ那邊ニアルニセヨ直接ニハ何等ノ活動ヲモナシ得サルヘシトノ事ナリ

然リ而シテ李張等ノ渡航ニ対シ当地官憲ハ彼等亡命客ニ対スル從來ノ方針同様別ニ何等ノ処置ヲモ取ル模様ナク極メ

電第二号ヲ以テ御訓令ノ次第ニ基キ早速翌二十日發拙電第三号ヲ以テ概要御報告申進置タル通ニ有之候処李ハ田村慎一郎ト称シ韓ハ平次郎ト名乗り他ノ一名ノ支那青年ハ野村久二郎ト偽称シテ埠頭ニ近キ下等日本旅館ナル日出旅館ニ投宿セリ而シテ李ノミハ当地ニ到着セシ十九日ノ夕刻林義順外一名ノ支那人ト共ニ何等ノ携帶品モナク自転車ニテ外出シタル儘二十三日夕刻ニ至ルモ帰宿セサルカ多分林義順ノ住居ニ赴キタルモノナルヘシ

林ハ広東人ニシテ当地方ニ於ケル革命党ノ中心人物ナリ当地ニ通美公司ナルモノヲ經營シ現ニ約百万弗ノ富ヲ擁ス第一革命當時ニ於テ急遽此富ヲ致シ爾来護謨及鳳梨ノ栽培ニ従事シツ、アリシカ第二革命ノ際ハ親ラ長江方面ニ至リテ之ニ参加セシ趣ナリ

李ハ茲一両日内ニハ韓其他ト共ニ鐵路彼南ニ赴キ海路彼南ニ向ヒタル張繼ト落合ヒテ岑春煊陳炯明及汪兆銘等ト同市馬來街二十一番ニ在ル革命党ノ俱樂部ニ於テ会見スル筈ニシテ李ハ約一ヶ月ノ後再本邦ニ帰向スル予定ナリト謂フ張ノ自ラ其知人ニ語ル所ニ依レハ彼南ニ於テ一同ト会見シタル上ニ週間後ノ次ノ便船ニテ汪兆銘ト共ニ仏国ニ向フヘ

テ自由放任ノ態度ヲ執リ其ノ来着ニ対シテモ一向関知セサルモノ、如ク見ユ

尚岑春煊ハ既ニ当地方ニ於テ相当ノ勢力ヲ扶殖シタル模様ナルモ事ヲ成シ得ルト云フ点ニ就キ当地方ニ於テ最モ信用アルハ陳炯明ナリトノコトナリ

右不取敢報告申進候 敬具

四七四 一月二十六日 佐藤関東都督府民政長官代理ヨリ
松井外務次官宛(電報)

陳其美戴天仇等大連到着ニ付嚴重視察中ノ件

秘第一四号

本日午后一時大連入港ノ台中丸ニテ支那革命黨員陳其美戴天仇朱執信ノ三名満鉄社員山田純三郎ト共ニ来着直チニ大連満鉄病院ニ入院嚴重視察中又各地方ト聯絡ヲトリ何カ計畫スル事ナキヲ保セラレサルニ付州外事務官及民政署長ニ電報シ嚴重視察方通達ス

四七五 一月二十七日 佐藤関東都督府民政長官代理ヨリ
松井外務次官宛

中国革命黨員陳其美等大連渡来後ノ動靜ニ関スル件

一四 中国革命党関係者ノ動静ニ関スル件 四七五

附屬書 一月二十七日大連民政署田中警視電話報告

陳其美等ノ言動ニ関スル件

附記 二月三日附大連出張ノ警視庁長谷川警部長報告

大連在留革命党員及宗社党員等ノ動静ニ関スル件

民高警秘収第六〇九号二

(二月二日接受)

大正三年一月二十七日

関東都督府民政長官代理 佐藤友熊(印)

外務次官 松井慶四郎殿

支那革命党員陳其美等来連ノ件一月廿六日秘第一四号ヲ以テ電報致置候処其後視察ノ状況別紙及報告候也

追テ本件北京公使ニモ通報済ニ有之候間申添候

(附屬書)

大連民政署田中警視電話報告

一月廿七日 午後一時受

陳其美等ノ言動ニ関スル件

去ル廿六日来連シタル革命党員陳等一行中ノ山田純三郎ノ漏シタル所ナリト云フヲ探聞スルニ左ノ如シ

一、今回陳等来連シタル用件ハ当地在住ノ革命党員等カ昨年来何レモ放浪の生活ヲ送り来リ昨今衣食ニ窮シ居ルモ

七〇四

ノ少カラス且頻ニ陳等ノ来連ヲ促カシ来レルヨリ彼等ヲ慰問旁当地ノ状態ヲ視察センカ為ニ外ナラス一行ノ当地滞在予定日数ハ約三週間ナリ

一、陳等カ在京中当地革命党員等ヨリ第三次革命計画ニ関シ東三省方面ハ何時ニテモ事ヲ挙クルニ容易ニシテ頗ル有望ナリトノ報告ニ接シタルコト再三ナルモ右ハ誇張の報告ニシテ陳ノ来連ヲ促スノ手段ニ外ナラスト認メ之等報告ニ対シテハ信ヲ置カス今回陳ノ来連等ニシテ滿洲方面ニ於テ事ヲ起ス計画ノ為ナルヘシト推測シ居ル向アルヤモ難計ト雖陳等ハ第三次革命計画ニ付テハ未タ時期ノ到来シ居ルモノト信シ居ラス徐ニ南北相呼応スルノ計画成リタル曉ニ於テ始メテ着手セントスルモノナルカ如シ一、孫逸仙ノ意見ニ依ルモ南方広東、雲南、広西等ノ各省ニ於テ実力ヲ養成シタル曉ニアラサレハ滿洲ニハ着手セサルノ方針ニシテ今輕々シク滿洲ニ於テ事ヲ挙グルカ如キハ却テ不利益ナルノミナラス徒ニ日本ニ対シ迷惑ヲ懸ケルノ結果ヲ生スヘキ虞アルヲ以テ深く輕率ヲ戒メ時期ノ到来ヲ待テ決行スル方針ヲ以テ計画シツ、アリ

一、陳ハ党員慰問ノ為メ若干ノ金員ヲ携帯シ来レリ右金員

ノ出所ハ孫逸仙ニアリ孫ハ中国興業株式会社トノ關係ヲ絶チ今回日本側ノ斡旋ニヨリ其所有株券金七万円ノ内四万円ノ払戻ヲ受ケ現金ヲ入手シタルニ付該金額ノ幾分ヲ携帶シタリ右四万円ハ各地ニ散在セル党員ニ対シ若干ツ、分配セサルヘカラサルヲ以テ当地ニ携帶シタルハ極メテ少額ナリ云々(或ハ五六千円ナランカト思料セラル)

(附記)

大連出張ノ警視庁長谷川警部長報告

乙秘第二八九号 二月三日

大連在留革命党員及宗社党員等ノ動静

大連在留革命党員並ニ宗社党員等ニ関スル既往ノ行動及最近ノ動静实地視察ノ結果左ノ如シ

革命党既往ノ行動

一客年支那革命騒乱ニ際シ當時上海ニ於ケル南軍ノ総司令官陳其美ハ東三省方面ヨリモ事ヲ挙ゲサセ相呼応シテ北軍ニ当ルベキ計画ヲ以テ腹心ノ部下周況ヲ大連ニ派シ同人ハ著連後陳其美ノ名ヲ以テ各地ノ同志及有力者ヲ説キ殊ニ奉天ヲ中心トシテ支那軍隊内ニ喰ヒ入り動モスレバ旗色鮮明ナラズトシテ世人ノ視線ヲ引キタル第二十七師

一四 中国革命党関係者ノ動静ニ関スル件 四七五

七〇五

団長張作霖ニ対シテ種々ナル手段ヲ以テ誘説シタルモ張ハ當時ノ戦況南軍ノ形勢振ハサルヲ看取シ容易ニ起ツコトヲ肯ゼズ兎角スル内陳其美ハ日本ヘ亡命シ其他ノ將士モ相前後シテ四散シ其一部ハ大連ニ亡命スルニ至レリ茲ニ於テ周況ノ一派ハ同地ニ於テ俄ニ優勢トナリ各方面トノ連絡其他ノ準備モ略ボ整ヒタルガ肝心ノ軍資金ナキ為メ周ハ後事ヲ籌夢岩ニ托シ金策ノ為メ上海ニ引上ゲタル儘来連スルニ至ラズ

一籌夢岩ハ周ガ上海ヨリ帶金再ビ来連スルヲ待チ受ケ居タルモ本人ハ資金ヲ得ザル為メ遂ニ来連セズ何レモ困難シ居タル折柄曩ニ第一革命ノ際一時上海ニ於テ財政総長ニ推サレ其後同地中華実業銀行ノ総辦タリシ沈漫雲(第二次革命戦ノ際軍資金五十万円ヲ支出セリト云フ)ナル者以前ノ關係上北軍ノ圧迫ニ堪ヘス大連ニ避難セル為メ籌夢岩等ハ同人ヲ説得シ応分ノ資金ヲ出サシムルコト、シヲ以テ市内山県通ニ平民社ナルモノヲ設ケ内密旗挙ノ計画ヲ為シ居タリ然ルニ當時既ニ南軍ハ各所ニ戦敗シ有力者ハ孰レモ日本其他ニ亡命スルニ至リタル為メ平民社ノ

一派モ他ト連絡全ク絶ヘ孤独ノ状態ニ陥リタルノミナラズ奉天ニ於ケル軍隊ノ警戒ハ一層嚴重トナリ到底策ノ施スヘキ余地ナク結局掠奪ヲ目的トシ我租借地及鉄道附属地ノ治安ヲ攪乱セルヲ以テ平民社ハ大正二年八月十六日其ノ解散ヲ命ゼラレタリ當時上海方面ヨリ大連ニ亡命スル革命黨員及宗社黨員ハ便船毎ニ其ノ数ヲ増シ一時ハ約二百名近クニ及ヒタリシモ南北両地方ノ秩序漸ク整頓スルニ從ヒ彼等ノ立場ハ益々至難トナレリ然レトモ其頃尚ホ某都督ハ中立ヲ宣言セリ或ハ李烈鈞ハ今尚ホ某処ニ在リテ奮戦シ且官軍ノ内応スルモノ少カラス云々等ノ流言浮説頻々トシテ来リタル為メ同地亡命中ノ黨員ハ今ニモ好機来ルヘシト信シ徒ニ空想ヲ懷テ時機ノ到来ヲ待チ居レルモ遂ニ袁政府ノ樹立ヲ見ルニ至リ碌々トシテ今日ニ至レリ

革命黨員最近ノ動靜

一大連革命黨員ニ三派アリ即チ劉芸舟(首領何海鳴) 甯夢岩(首領陳其美) 邱丕振(山東派)ノ徒トス而シテ從來各派意志疏通ヲ欠キ排擠ヲ事トシ居リシガ客臘ニ至リ在京各首領間ニ於テ第三次革命ノ計画成リ近ク事ヲ挙グベ

次革命ニシテ起ラザルカ將又在京首領ニ於テ彼等ニ相当生活ノ方法ヲ与ヘザル限リハ遂ニ馬賊ト變ズルノ外ナカルベキ模様ナリ

一劉芸舟(目下内地ニアリ) 甯夢岩ノ二派ハ数月前ヨリ密々東三省管内ニ於テ事ヲ起サンコトヲ計画シ時々同地ニ人ヲ派シ有力者ノ勧誘ニ力メシメ殊ニ張作霖部下ノ内応ヲ要トシ専ラ其方面ニ力ヲ尽シツ、アリ而シテ其同志ヲ有スル重ナル地方ハ復州、蓋平、營口、海城、莊河、大孤山、岫巖、奉天、鉄嶺、公主嶺、奉化県、海竜城、広甯、洮南、通化、輯安及竜岩浦等ニシテ之レ等同志ノ重ナル者ニハ陳其美ノ名ヲ以テ左ノ如キ委任状ヲ交附シアリトノ聞エアリ

(註 委任状図略)

一革命党ノ裏面ニハ多数ノ本邦人アリテ之レヲ操縦セルハ明カナル事実ナルガ大連革命党ノ裏面ニモ亦長崎県人金子克巳ナル者アリテ(元黄興ニ属シ漢陽没落後戴天仇及山田純三郎ト共ニ大連ニ来リ戴、山田上京後独リ居残り東京及長崎方面ノ同志ト氣脈ヲ通ジ専ラ彼等ノ操縦ニ努メ其離散ヲ防ギツ、アリ而シテ彼ノ内話ニ依レバ(廿五

シトノ消息ヲ耳ニスルヤ互ニ相反目スルノ不利ヲ悟リ期セズシテ漸々三派合同ノ姿ヲ呈シ大連能登町ニ陳其美ノ変名島田醇一ノ名義ヲ以テ一戸ヲ借受ケ之ヲ本部トシ諸方面ト声息ヲ通ジ何時ニテモ一令ノ下ニ結束シテ起タントシツ、アリ殊ニ邱丕振一派ハ旧正月ヲ利用シ郷里山東省ノ一角ニ兵ヲ挙ゲント焦心シ居ルモ連絡關係及軍資金ノ整ハザル等ニテ荏苒蹶起スルニ至ラズ又同地宗社党ハ微々トシテ振ハザルモ東三省地方ニハ同党ノ潛勢力侮ルベカラザルモノアルヲ以テ革命黨員等ハ之レト提携ノ手段ヲ講ジツ、アリテ頃日稍ヤ接近シ来リ革命黨員ニシテ東三省ニ事ヲ挙ゲンカ彼等ハ之レニ附和スルコト疑ヒナキモノノ如シ而シテ革命党ハ三派何レモ衣食ニ窮シ同志ノ助力ニ依リ僅ニ其日ヲ送ル状態ニ在リテ客月中旬東京方面ヨリ漸ク金二千円ノ送金ヲ得タルモ所謂焼石ニ水ノ如ク旬日ニシテ費消シ尽シ其後再三陳其美戴天仇等ニ送金ヲ迫レル結果去月十九日吳大州ナル者更ニ金一千円ヲ携ヘ東京ヨリ来着三派ノ領袖ニ金九百円ヲ分配シ僅ニ急ヲ救ヒツ、アリ從テ彼等ハ第三次革命ノ一日モ速カナラシコトヲ熱望(革命ハ掠奪ヲ意味ス)シ居リテ若シ第三

日夜某旗亭ニ於テ) 朝鮮ヲ擁護スルニ二箇師団若クハ三箇師団ヲ以テ足レリトスルガ如キハ愚モ亦甚ダシ仮ニ四箇師団、五箇師団ヲ置クトスルモ到底前途安心スベキニアラズ要ハ東三省ノ占領若クハ独立ニアリテ之レガ機ハ一日モ緩フスヘカラズ故ニ予ハ専心此事ニ努力シツ、アルモ奈何セシ首領間ニ於テ資金ノ整ハザル為メ手ヲ拱シテ只營々同志ノ離散ヲ防ギ機ノ至ルヲ待チツ、アリ長大息ノ至リニ堪ヘズ事ヲ挙グルハ今日ニアリ滿洲ニ於テ事ヲ起スハ今結氷ノ時機ニアリ此時ヲ失セバ又相当ノ期間ヲ待タザルベカラズ某々等(陳、戴等ヲ指ス) 愈々来ラントス若シ彼等ニシテ起ツコトヲ肯ゼザレバ予ハ止ヲ得ズ彼ヲシテ同志ノ始末ヲ為サシメ静ニ時ノ至ルヲ待タシノミ又曰ク今日滿洲ニ於テ事ヲ挙グルノ利ハ多々アルモ大要(一)結氷ノ為メ進退自由ナルコト(二)旧正月ナル為各地ノ農家大ニ富裕ナルコト(三)巡防隊等漸次廃サレ不平ヲ懷キ居ルコト(四)張作霖、袁ニ不平アリ或ル場合之ヲ味方トナスニ難カラサルコト(五)宗社党ノ呼応スルコト(六)蒙古王ノ或者ト連絡ヲ通ジ得ルコト等ナルガ予ハ大言壯語スルガ如キモ若シ馬賊的ノ行動ニ出デンカ決シテ資金ナキ

ヲ憂ヘズ只名聞ヲ如何セン故ニ首領者ヲシテ此際是非二、三十万円ノ資金ヲ調達セシメ南北呼応シテ第三次革命ヲ成就センコトヲ望ム云々

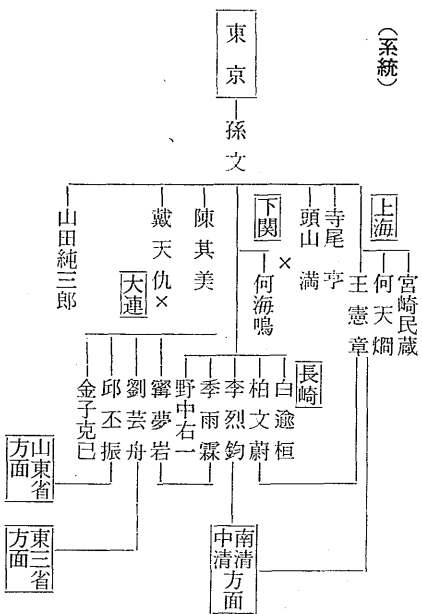
一陳其美(変名朱志新) 戴天仇(変名木村藤吉) 山田純三郎ノ三名ハ大阪商船会社汽船台中丸ニテ去月二十六日午後一時大連ニ来著直ニ満鉄病院ニ入りタルガ彼等来連ノ目的ナリトテ山田ノ内話スル所ニ依レバ(二十七日夜戴天仇、金子克巳、山田純三郎ノ三名ト某旗亭ニ会セル際) 大連革命黨員ヨリ孫及ビ我々ノ許ニ再三書信、電報又ハ人ヲ派シ革命ノ準備成レルヲ以テ一日モ速ニ事ヲ挙ゲンコトヲ強要セルモ其報告中間々信ヲ措クニ足ラザルモノアリ殊ニ孫ハ南方ノ準備整ハザル限リハ北方ニ於テ事ヲ挙ゲシメザル方針ニテ今ヤ著々之レガ準備中ニ属ス然レトモ大連革命黨員ヲ此儘ニ棄置ク時ハ遂ニ離散スルヲ免カレズ故ニ孫ノ命ヲ受ケ約三週間ノ予定ヲ以テ彼等ヲ慰撫旁実際ノ状況視察ノ為メ来レルモノニシテ一旦帰京孫ニ復命シタル上ニアラザレバ何事モ決定スルニ至ラザルベキカ尤モ予ハ満鉄ノ社用ヲ兼ね当地ヨリ直ニ上海ニ向フコト、ナルヤモ知レズ兎ニ角一兩日中旅順ニ至リ都督ニ会シ来連ノ真想ヲ内話スル積リナリ云々(都督夫

方ノ準備整フヲ待チ南北呼応シテ事ヲ挙ケントスルモノ、如シ

一革命党ガ第三次革命ヲ企ツルニ就キ尤モ苦痛トスル所ハ軍資ノ整ハザルニアリテ李烈鈞、張繼ノ新嘉坡ニ至レルモ右ノ為メナルガ同地ニ於テ好結果ヲ得ザレバ巴里ニ赴ク筈ナリト尚ホ同党ガ現今専ラ煽動ニ力メ居レルハ雲南方面ナリト云フ

一当地革命黨員ト各地黨員トノ連絡及系統ヲ記スレバ略ボ左記ノ如ク察セラル

(註 脈絡図略)



人ト山田ノ妻ハ親戚ナリト云フ) 又曰ク予等来連ニ就テハ同志中ニモ多額ノ金員ヲ携ヘ来レルモノ、如ク考ヘ居ル模様ナルモ実ハ貴下モ知ラル、如ク客臘中国興業株式会社ヨリ孫ノ手ニ三万六千余円ノ入金アリ孫ハ其内一万円ヲ某所ニ病臥セル実兄(在新嘉坡孫建謀) ニ贈リ残余ハ孫ノ入用ヲ差引キ同志ニ分配セルト予等ノ旅費ニ充ツルニ至レルモノニシテ予等ガ満鉄病院ニ入レルハ一ハ人目ヲ避クルニアルハ勿論ナルモ一ハ入用ヲ節セントスルニ外ナラズ云々(二十七日X光線ニテ身体検診ノ結果陳ハ左肺ニ二個ノ黒点ヲ存シ山田ハ肺炎ニ故障アルヲ認メ医師ハ一ヶ月以上入院ヲ要スト告ケタリ) 實際然ルガ如ク認メラル

一陳一行ノ来連スルヤ劉太同以下同志ノ輩続々詰掛ケ挙兵ヲ迫レルモ彼等ノ挙兵ヲ迫レル裏面ニハ軍資ヲ得ントスルコト明カナレバ陳等モ一同ニ対シ明答ヲ避ケ只僅ニ有力ナル同志ノ一人前記陳漫雲(目下上海中華商業銀行大連支店重役) ト会シ協議シツ、アリ(聞ク所ニ依レバ陳漫雲ニ対シ同地方ノ状況ヲ聴クト共ニ同人ヲシテ再ビ軍資ヲ支出セシメントスル手筈ナリト) 要之陳一行ノ来連シタルハ山田ノ談話セルガ如ク彼等同志ノ輕挙ヲ戒メ南

宗社黨員ノ動靜

一大連ニ於ケル宗社黨員トシテハ目下旅順ニ在ル肅親王ノ配下ニ属スルモノト地方無頼ノ徒ヨリ成ルモノトノ二種(氏名別紙ノ通り) ナルガ現今ハ兩派殆ンド合体ノ姿ニシテ肅親王派ニ属スル者ハ一昨年来同親王ノ顧問トモ云フベキ川島浪速ノ部下タル松本菊熊、川島武ノ指揮ノ下ニ根拠地ヲ奉天ニ置キ馬賊ノ頭目トシテ彼等ノ間ニ名ヲ知ラレタル左憲章ナル者其首領トナリ各地ノ無頼漢ヲ使喚シ事ヲ挙ゲント画策中奉天支那官憲ノ知ル処トナリ警戒益々嚴重トナレル折柄彼等ハ軍資ニ充ツル為メ奉天我ガ附属地内ニ於テ軍用紙幣ノ發行ヲ企テタルヨリ我ガ官憲ノ為メ同附属地外ニ退去ヲ命ゼラレ総テノ計画ニ齟齬ヲ来タシ左憲章ハ一時大連ニ来往シタルモ其後ト雖モ彼ハ飽マデ初念ヲ達スベク日本人側ニ在リテハ在奉天松本菊熊、川島武、在安東辻本市蔵、中牟田伊三郎、遠山英彦、支那人トシテ馬賊ノ頭目在長春千梅川、在公主嶺東洋楽、斉子軒及ビ在鳳凰城鮑化南等ト氣脈ヲ通ジ多数ノ部下ヲ糾合シ一方ハ安東ニ於テ他ハ復州方面ヨリ事ヲ挙グベク既ニ準備完整シタル際大正二年某日我ガ官憲ノ為

メ突然解散ヲ命セラレ已ムナク各領袖ハ他日ヲ期シテ解散シ左憲章ハ其途次支那客棧ニ投宿中支那官憲ノ放チタル刺客ノ為メ暗殺セラレタリ爾來彼等ハ支那官憲ノ搜查益々嚴重トナリタルト其首領暗殺セラレタル結果各地ノ黨員ハ孰レモ声ヲ潜メ只管時期ノ到来ヲ待チツ、アリ一無頼漢派ハ元海賊ノ頭目タリシ(目下大連敷島町居住)顔興旺及ビ張潤三ナル者生計不如意ノ結果復州方面ニ於テ何事カ計画ノ折柄曩ニ第一革命ノ際関外軍總司令官藍天蔚ノ部下ガ芝罘ニ於テ突然解散ヲ命ゼラレ夫々婦郷スルコト、ナリタルモ當時支那政府ハ財政不如意ノ為メ充分ノ手当ハ勿論月々ノ俸給サヘモ満足ニ支払ハズ其ノ解散ハ強制的ナリシ為メ旅団長閻九官(復州ノ者)以下兵卒ニ至ルマデ孰レモ不服ヲ唱ヘ芝罘ニ於テ不穩ノ行動ニ出デシヲ閻九官ハ漸クニシテ取静メ解散兵ノ全部ハ閻引率ノ下ニ大連ニ來リタル上解散シタリ而シテ將校ハ孰レモ同地ニ止マリ政府ノ措置ニ対シ憤慨シ此際閻九官ヲ首領トシ名ヲ宗社党ニ藉リ事ヲ挙グルコトニ一決シ顔、張ノ兩名モ之ニ賛同シ内々兵卒募集ノ準備ニ着手シタルガ大正二年四月中我ガ官憲ヨリ解散ヲ命セラレ大連ヲ退散

メタリ)殊ニ革命党ヨリ曩キニ提携スベシトノ協議ニ預リ素ヨリ主義ニ於テハ革命党ト氷炭相容レザルノ關係ヲ有スルモ現政府ニ對抗スルト云フ点ニ於テ其目的ヲ同フスル為メ茲ニ彼我提携スルハ相互ノ為メ利益ナルヲ覺リタルモノ、如ク昨今兩者ノ重立者ハ漸次接近シツ、アリ

(以上)

四七六 一月二十八日

小池政務局長ヨリ
安樂警視總監
岡警保局長 宛

在本邦亡命中国人名簿送付ノ件

附屬書 右名簿

附記 主要亡命者動静ニ関スル警視庁報告ノ件(一)乃至

(二)

安樂警視總監 機密送第七号

岡警保局長 機密送第一三号

最近当省ニテ作成セル重ナル亡命支那人名簿一通御参考迄及御送付候尚右ハ不備ノ点モ尠カラズ候ニ付御心付ノ廉ハ御回示相成度候也

(附屬書)

在本邦亡命支那人名簿(大正三年一月廿日調)

一四 中国革命党関係者ノ動静ニ関スル件 四七六

シ其各地ニ潜伏内密同志ト氣脈ヲ通ジ時機ヲ窺ヒ居リタル折柄同年七月同黨員孫長興ナル者復州ヨリ突然二旋ノ黃旗ヲ翻シ数十名ノ部下ヲ率ヒテ起チ一時ハ無頼漢ノ之ニ附和雷同スル者少ナカラザリシモ何分訓練ナキ鳥合ノ衆トシテ間モナク追撃隊ノ為メ全然失敗ニ帰シタリ當時孫長興ノ考案トシテハ自分先ヅ蹶起セバ顔及張ハ勿論其ノ他ノ同志モ必ズ応援スルモノト信ジ居タルモノ、如シ然ルニ顔張等ハ時機未ダ早シトシ之ヲ援ケザリシ為メ脆クモ敗レ其後孫長興ハ大連ニ遁レ再挙ノ氣力ナク顔方ニ塾居シ唯同志ノ起タンコトヲ待チ居タルガ同年九月皮子窩地方ニ於ケル首領閻九官ハ其自宅ニ於テ支那官憲ノ放チタル刺客ニ暗殺セラレタル為メ彼等一派ハ一大打撃ヲ蒙リ爾來士氣振ハズ何レモ戰々兢々タル折柄又モヤ孫長興モ大連小崗子ニ於テ同人ノ部下ニ殺害セラレタリ爾來宗社党ハ勢力全ク地ヲ払ハントスル形勢ナリシニ客年十二月升允ノ大連ニ來リ在旅順肅親王ニ会见シ尚ホ青島ニ到リ恭親王トモ熟議ノ上不日革命党ト提携シ事ヲ挙グベシトノ噂アリ稍ヤ生氣付クニ至リタルモノ、如シ(肅親王ハ升允ニ会见ノ際無謀ノ挙ニ出ヅルナカラシムコトヲ戒

姓名	偽名	前職	現住所	備考
黃興	岡本義一		芝区高輪南町五三	
孫逸仙			赤坂区靈南坂町二	
胡漢民	(林)仲理	廣東都督	七海妻猪勇彦方	
張繼	姜白	參議院議長	赤坂区伝馬町二ノ	
李烈鈞	吉田清風	江西都督	七旭館	一月三日李烈鈞ト共ニ香港ニ向ヘリトノコトナリ
柏文蔚	朱華斌	安徽都督	芝区白金今里町八	
胡瑛		參議院議長	九(出)後同宅ハ	
譚人鳳	林泉逸	川漢鐵道督辦	一旦引払ヘリト云	
熊克武	陳頤豐	四川省師團長	長崎市南山手町一	
鈕永建	(林)耕心	吳淞砲台司令	四谷区霞ヶ岡五五	
周震麟	週為在	參議院議長	福岡県筑紫郡太宰府町字久保	
居正	劉子静	參議院議長	本郷附近	
田桐	田子勤	衆議院議長	六麻布区本村町一四	一月十五日長崎テ赴キ数日ニシテ東上ス
劉英		衆議院議長	芝区二本榎町二ノ	
楊時潔		衆議院議長	三六陸奥正義方	
			東京府下大塚東鴨村二二〇九天健学社内伝桐方	
			府下巢鴨附近	
			長崎市	
			神田区仲猿楽町一	
			四安田方	

白逾恒	衆議院議員	長崎市南山手町	
取鶴生	九江鎮守使	本郷区森川町一	
唐 蟒	湖南省師團長	本郷区森川町一	
何成潞	江蘇討袁軍秘書	神田区錦町一ノ一	
魏潔吾	書	今城館	
黄愷元	田中竜	江蘇討袁軍参謀長	同
林 虎	柳家漢	江西省旅団長	京橋区金六町一〇
金佐之	関 声	南京都督府参謀	西沢旅館
方声濤	(高橋誠一)	江西省旅団長	赤坂区伝馬町二七
	(富永菊夫)		
何子琦	田口吉八	江西省旅団長	大正二年十月十日頃東京ニ在リタルガ十二月九日「エンブレ」ヲブ、ジャパニル号ニテ上海ニ向フ
陳其美	令官	上海討袁軍司令官	
何海鳴	(郭正濤)	南京討袁軍司令官	麴町区紀尾井町三陸恵生方
李平書	江蘇民政総長	在京	下関新地町宮ノ下
季雨霖	高永亟	湖北省師團長	長崎市南山手町一七
李書城	関 達	江蘇討袁軍諮議官	神田区錦町一ノ一今城館或ハ黄興宅ニ在リトモ云フ
戴天仇	島田正一	孫文ノ秘書	赤坂区青山南町五ノ四五山田方或ハ鈕永建ト同居トモ云フ

何天燭	林桃芳	在京	
王孝鎮	石田福二	南京第十六旅団長	大分県別府米道旅館
熊 仁	熊博雲	民権報記者	十一月十三日長崎ニ来ル
管 鵬			十二月二十二日三週間ノ予定ニテ東上ス
劉廷漢	陳 輝	民令官	長崎市新地十番
宋嘉樹			大正二年九月麴町区飯田町二ノ四七望遠館ニ在リタルガ同卅日長崎ニ向フ
陸惠生	孫文ノ秘書		神田区今川小路二ノ一〇
詹大悲			麴町区紀尾井町三一
王憲章	(何海鳴)	南京討袁軍参謀長	在京
俞応麓	長	江西省軍務司	
張堯卿	王華三	江蘇都督タリ	神田区北神保町一上野館
陳 強	(陳守愚)	湖南省軍務司次長	在京
彭程滿	江蘇省民政長代理		
沈漫雲			大連

劉芸舟	大連	一月十七日天草丸ニテ下ノ関ニ来ル
魏斯炅	江西省財政司長	上海又ハ日本ニ在リト云フ

(附 記)

主要亡命者動静ニ関スル警視庁報告ノ件(一)

乃至(七)

(一)

乙秘第一七八一号 十二月廿日

(大正二年十二月二十二日接受)

孫文ノ動静

一、昨十九日午前十一時廿分大連敷島町四十七番地ノ一劉某ヨリ封書一通到着

一、午後一時四十分山田純三郎、同二時陳其美同二時二十分菊池良一來訪三名共孫ト談話中同二時三十五分劉德沢、殷文海ノ兩名來訪セシヲ以テ右談話ヲ中止シ孫ハ陳及劉、殷ノ三名ヲ拉シテ別室ニ入り密談ヲナシ劉、殷ノ兩名ハ午後三時四十分退出セリ

一、午後三時五十分宋嘉樹來訪前記ノ山田、菊池、陳其美等モ加ハリ會談ノ上宋ハ同四時卅分、山田、菊池ノ

一四 中国革命党関係者ノ動静ニ関スル件 四七六

兩名ハ同五時退出セリ

一、午後四時十分岑楼來訪同四時三十分陳其美ト共ニ退出ス

一、午後五時三十分戴天仇、鈕永建、馬素ノ三名來訪會談中同六時廿分田桐來訪直ニ會談席ニ加ハリ戴、鈕、馬ノ三名ハ同七時四十分、田ハ同十時十分退出セリ

(二)

甲秘第二〇九号 (大正二年十二月二十六日接受)

亡命支那人ノ動静

亡命支那人譚人鳳(本月十九日附、福岡県通報支那人林泉逸)ハ去ル十九日午後八時新橋着入京牛込区市ケ谷富久町百十一番地今井長十郎方ニ一泊翌廿日ヨリ麴町区下二番町七十四番地回生病院ニ入院中ナルガ出京ノ目的ハ第一次革命ノ際卅万円ヲ本邦人ヨリ借入レ置ケル件ニ付其仲介者ナル同国人左仲遠(変名陳濤)ニ面会ノ為メナリシニ左仲遠ハ目下福岡市ニ滞在中ノ由ニテ明廿六日譚ハ久原仲東及長田実ト共ニ帰福ノ予定ナリト云フ

右及通報候也

大正二年十二月廿五日

警視總監 安 楽 兼 道

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

申報先 内、外相

神奈川、兵庫、京都、大坂、

山口、福岡、長崎

(三)

乙秘第一八四四号 十二月廿八日

(大正二年十二月二十九日接受)

支那亡命客ノ動靜

亡命客ノ計画其後何等進行ノ形迹ナシ

在長崎ノ柏文蔚十五日入京孫、李等ト会合直ニ引返セリ

何海鳴十七日出発妻女出迎ノ為メ下関ニ赴ク李及同伴先是

何ノ秘書范庭新、福田保太郎ト共ニ九州ニ赴キ何ノ西下ヲ

待ツ

何、馬関ニ下リ門司ノ毛里保太郎、小倉ノ藏内治郎作、友

枝梅次郎、博多ノ佐久間秀吉等ト会シ金策ヲ依頼シタルニ

来春ニ至ラバ十萬円位ノ金ハ成算アルヲ以テ暫時馬関ニ滯

在スル方得策ナルヲ説キテ仮寓ヲ下関新地町宮ノ下(元勝

田中将邸)ニ借入レ毛里、当分ノ間一切ヲ引受クルコト、

ナレリ

李及ハ兩三日前帰京ス

下関ナル何ノ宅ニハ目下何夫妻、范、上田某、福田保太郎アリ

何ハ柏文蔚西下ノ際連絡船内ニテ会见右ハ他用ニテ九州ニ下リ居リシ許又銘今朝何ノ伝言ヲ齎シ来リテノ談話ナリ

在京ノ巨頭間ニハ何等ノ進行モナシ

胡瑛ハ先日來早稲田大学聴講生トシテ通学セリ顧問末永節トハ意見ノ衝突ニテ廿日頃末永ノ方ヨリ絶縁セリ

(四)

乙秘第二三号 一月八日

(二月八日接受)

孫文其他ニ関スル件

孫文ガ去ル四日千駄ヶ谷穩田ナル飯野吉三郎ヲ訪問セシハ

(五日内報)年賀ノ為メナリシガ其際孫ハ飯野ニ対シ本年

ハ方針ヲ替ヘント思フ貴意如何トノ事ナリシヨリ飯野ハ貴

下ガ方針ヲ替ヘント云ハル、ハ革命ノ事カト反問セシニ然

リト答弁セシヲ以テ飯野ハ懇々革命ノ不利ヲ説キ今暫ラク

隠忍シ靜ニ時ノ至ルヲ待ツベシト説キシ結果当日ハ其儘立

去リ越テ六日(七日内報)再ビ飯野ヲ訪ヒ自分ハ貴論ニ背キ頗ル不

(五)

孫ノ秘書タリシ某氏ノ談

孫ハ飯野吉三郎ヲ信仰シテ彼ニ近キシモノニ非ス飯野ハ精

神団ノ主催者トシテ且ツ陸軍部内ニモ有力ノ所ニ知己アル

ヲ以テ之ヲ利用シ容易ニ武器ノ私下ヲ受ケム為ナリ然ルニ

孫ニ於テハ私下ノ資金ヲ得ルコト能ハサルト飯野カ充分ニ

動キ得サルコトヨリ愈々今回飯野ト手ヲ切り最初取換ハセ

シ誓書(支那ノ外交財政ニ関スル事項ハ先ツ以テ精神団ニ

諮ルヲ要ス云々)ヲ返却セシメタルモノナリ孫ハ今回第三

次革命ノ挙ヲ企ルモ資金ヲ他国ヨリ仰キタルコトナシ尤モ

南洋ノ「ボルネオ」「スマトラ」地方ニハ革命俱樂部ナル

モノアリテ孫ハ之ト氣脉ヲ通シ居レリ故ニ万已ムヲ得サル

場合ニハ該俱樂部員ヲシテ或ハ出資セシムルヲ得ベシト信

スルモ今回ハ出資ノ模様ナシ

今回ノ挙ニ付孫ニ対シ確ニ成算ノ見込アルヤ否ヤヲ糺シタ

ルニ孫ハ曰ク大丈夫ナリ安心セヨト尚ホ亡命者中自分ニモ

同行ヲ勸ムル者アレトモ余ハ敢テ行クヲ欲セサルナリ今回

ノ挙ニ就テハ支那浪人組ハ与リ居ラス孫ハ浪人組ノ全ク頼

ムニ足ラサルコトヲ悟リ其秘密ヲ明カサス加之自分ニ対シ

本意ナガラ同志ノ犠牲トナラザルヲ得ザル立場ニ立至リシ

ヲ以テ近クハ一、二週間内遠クハ二ヶ月以内ニ貴地ヲ退去

スルニ至ルベク從テ貴下ニ対スル誓約(大正二年九月十三日附ヲ

約書ニシテ其内容ハ支那ノ為メ外交及經濟上ノ事務ニ付外國(日本ヲ除ク)

ト交渉スル場合ハ先以テ日本國又ハ精神団ノ代表者ト相談スベシ云々)モ孫一

個ノ誓約ニ過ギザルヲ以テ取消スノ止ムヲ得ザルニ至レリ

ト述べ退出セリト云フ而シテ当日飯野方ニ多数ノ来客アリ

シハ飯野ヨリ招待セシモノニシテ其重ナル者ハ外松男、河

野広中ノ二名ナリ

客臘廿八日大連能登町二七劉大同ヨリ陳其美ニ宛「コチラ

ノコトマトマツタシマダサンスグクルヨウタノムヘンマ

ツ」トノ電報アリシモ陳ハ返電セザリシニ卅一日再ビ劉及

「ソンジウモウ」「ネンモイン」「リウゲンユウ」ノ四名

ヨリ陳ニ対シ「コチラノコトタシカニソロイタイツコクセ

ンキンチンサンハヤククルコトヲタノムヘンマツ」トノ電

報アリシ為陳ハ孫黃等重ナル同志ト協議ノ上去ル二日張繼

燕天仇ノ二名ヲ大連ニ派遣セリ(島田ハ陳ノ妾名)

馬素ハ客臘卅一日香港ニ向ヘリ

去ル三日横浜ヲ発シタル李烈鈞ハ新嘉坡ニ向ヒタルモノナ

リト云フ

一四 中国革命党関係者ノ動靜ニ関スル件 四七六

テサヘ近頃ハ充分ニ秘密ヲ打チ明ケサル態度ヲ示セリ之ハ過日宮崎滔天カ何カ孫ニ対シ不信用ノ廉アリシガ如ク夫レヨリ孫ハ日本人ヲ疑フノミナラス日本政府ヲ非常ニ怨ミ政府ハ保護ノ名ノ下ニ警察官ヲ以テ亡命者一行ニ束縛ヲ加ヘ居レリ故ニ日本ヲ去ルノ日ニハ深キ注意ヲ払ヒ警官ノ視線ヲ脱シ密カニ立チ去ルノ要アリト

支那革命ノ好時機ハ秋ノ收穫時若ハ陰曆十二月前後カ最も適當ノ時機トナシ居ルニヨリ来月中旬頃ニハ何等カノ變動ヲ看ルベシ

現今支那十八省ニ在ル秘密結社ハ暗ニ革命ヲ熱望シ居レリ其中約五ヶ所ハ最も熱心ニ張り詰メタル革命ノ空氣アリ李烈鈞ハ先ニ行キ最も適當ノ場所ヲ選定シ此処ヨリ密ニ孫ヲ呼ビ寄セル目算ナリ孫一タヒ到ラハ恰モ「ナポレオン」来レリテフ勢ニテ兵力、資力共ニ充実スヘキ計画ヲナシツ、アリ

黃興ハ支那革命派ニ最も惡シク今回ノ挙ニモ多ク与リ居ラス黃興自身モ亦自ラ渡清スルカ如キアラハ却テ革命派ノ為メニ危難ヲ免レサルベキヲ覺リ渡清ノ意ナキモノ、如シ

(六)

ハ之レヲ燈セバ万事解決スヘク勿論支那人ニテハ可能ナルヤモ難計ケレハ爰ニ仮裝の支那人ノ現出スルヤモ保シ難シ云々ト

二、孫文ノ宿主海妻猪勇彦ガ過日鶴沼ニ旅行中ノ頭山、寺尾ヲ訪問セル際頭山ハ海妻ニ対シ其内衷ハ暗殺セラル、ヤモ計リ難シ云々(一月八日内報)ト語リタリト又前記梅屋ノ談ヲ忖度スルニ孫一派ヨリ北京ニ刺客ヲ派遣スルニアラザルカト

(七)

乙秘第四八号 一月十二日 (一月十三日接受)

黃興ノ動靜

一、十一日午後九時二十五分犬養毅、美和作次郎、古島一雄、頭山滿、瀬越憲作、林徳蔵、小川平吉、柴田麟次郎、章勤士同伴辞去ス

一、同十時五分萱野長知辞去ス

一、十二日午前十時名古屋高等学校生徒李人傑來訪ス数日滞在スル趣ナリ

一、十二日午前十一時五十五分章行廠來訪面談シ午後三時四十分辞去ス

一四 中国革命党関係者ノ動靜ニ関スル件 四七七

七一六

乙秘第四一号 一月十二日 (一月十三日接受)

孫文ノ動靜

昨十一日孫文ノ動靜左ノ如シ

一、午後零時二十分梅屋庄吉ノ案内ニテ印度人「バラカツラ」外一人波多野春房ト共ニ來訪孫ト会谈ニ時十分退出
一、同四時范光啓、李緒昌來訪孫ト会谈五時二十分退出
一、同五時十分陳承志、鄧鏗來訪孫ト会谈七時二十分退出
一、同五時二十分阮復、丁士杰來訪(談話ニ参加)六時十分退出

一、同九時二十分米國桑港及長崎ヨリ封書各一通到來

附記

一、前記梅屋庄吉ハ昨日孫訪問ノ際或者ニ対シ左ノ談ヲ為セリ

今回印度人「バラカツラ」ヲ孫文ニ紹介シタルハ第三次革命ニ要スル軍費ノ幾分ヲ補助セシメンガ為ナリ云々所謂支那浪人ナルモノニモ実ニ困リ居レリ真ニ亡命者ニ対シ厚意ヲ以テ迎ヘル者尠ク直ニ自己ノ懷ヲ肥スコトニ汲々タルモノニシテ之レニハ孫モ閉口シ居ルモノ、如シ何ニハ兎ニ角ク目下ノ問題ハ袁世凱一人ナレ

一、正午居正來訪面談午後三時三十分辞去ス

一、午后三時林坤載來訪面談セリ

一、午後三時四十分俞詠瞻來訪面談セリ

四七七 一月三十一日 在蘇州池永領事館事務代理ヨリ
牧野外務大臣宛

邦人旅館投宿ノ中国人問題ニ関スル件

政機密公第二号 (二月十日接受)

大正三年一月三十一日

在蘇州日本領事館

事務代理 池 永 林 一(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

革命陰謀事件ニ関シ支那官憲ヘ照会ノ件

当地本邦租界内本邦旅館月廼家ニ符節、曾貫吾、張克明等潛ミ居ル旨ヲ以テ拏捕スベキコト並ニ本邦旅館月廼家及平井澂水等処罰方本月十六日附ヲ以テ当地楊交渉員ヨリ別紙甲号ノ通り照会致來リ候処右符節等ハ現ニ同旅館内ニ潜伏シ居ラザルハ勿論末タ曾テ宿泊セシメタルコト無之(尤モ宿帳ニヨレハ客年十二月二十一日支那人三名宿泊シタルコトアルモ異姓ニシテ何等怪シムヘキ挙動ナカリシト尚ホ同

七一七

旅館ハ料理屋兼業ナルヲ以テ時々内外人ノ遊客アルモ姓名ヲ記憶セザルモ恠ムベキ挙動アリタルモノナシト、客年十二月三十一日邦人(赤星次平ナラン)外支那人三名宿泊セントセシモ年末年始ニ際セルヲ以テ宿泊ヲ拒絶セリト)趣就而ハ条約ニ照シ犯罪者トシテ引渡スコト能ハザルノミナラズ是迄支那側ヨリ犯罪人引渡ヲ請求シタルコトモ無之從ツテ日本旅館月廼家ハ処罰スルニ足ル罪跡ナク平井激水ハ本月五日附政機密公第一号ヲ以テ報告申進置候通り革命関係者ト密会セントセシ形跡アリシモ既ニ上海總領事館ニ於テ在留禁止セラレ居レルモ是ハ当地在留者ニ無之ヲ以テ在留者ニアラザル旨ヲ回答致置候

然ルニ近來邦人ノ革命事件ニ関係シ本邦租界内ニ機關部ヲ設クルノ風評アルガ上ニ今回交渉員ノ照会文中ニモ殊ニ本邦租界内ニ匪徒ノ潜伏シ居ル様申越候間謠言ハ兎ニ角公文中ニ租界内ニ潜伏シ居ル旨ヲ声明スルニ至リテハ之レガ嚴ニ抗議ヲ申込ミ置クニアラザレバ將來日支人ノ感情上面白カラサル現象ヲ來スナラント慮リ回答文中ニ此点ニ重キヲ措キ照会致置候尚ホ右ノ点ニ関シ嚴ニ抗議ヲ申込ムト同時ニ回答文中筆頭ニ当館ノ取締ニ関シテハ日夜苦心怠ラズ公

附屬書 二月二日附大連民政所長ヨリ関東都督宛報告

陳其美一行ノ言動ニ関スル件

民高警秘収第七五二号ノ一 (二月九日接受)

大正三年二月四日

関東都督男爵 福島 安正(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

陳其美等ノ言動ニ関スル件

曩ニ陳其美等ノ渡來ニ付テハ其言動嚴密觀察中ニ候処尚大連民政所長ヲシテ本人ニ対シ大連ヲ策源地トシテ革命等ニ関スル計画ヲナスヘカラサル旨嚴達セシメ候処別紙写ノ通同民政所長ヨリ報告有之候条御了知相成度此段及報告候也

(附屬書)

大正三年二月二日

大連民政所長報告

都督宛

陳其美一行ノ言動ニ関スル件

曩ニ閣下ヨリ陳其美ニ対スル注意方御内示ノ件ハ

一、警務係長ヨリ示達致置候処小官モ一応面接致シ置ク方便宜ト思料候ニ付本日会见致候答ノ処陳其美ハ昨日來宛

平ナル旨ヲ陳述致置キ以テ先方ノ疑念ヲ解キ終リニ臨ミテ時節柄支那官憲ノ邦人居住家屋商店船舶内及租界内等ニ猥リニ侵入スルコトアランヤヲ慮リ此点ニ於テモ追述致置候次第ニ有之候処未タ別紙乙号照会文ニ対シ何等ノ回答無之候モ本月五日附政機密公第一号ヲ以テ報告申進候通り客年末革命事件ニ邦人ノ関係セシ形跡モ有之シコトモ有之候間右抗議ニ対シ深ク追窮スルニ於テハ却テ世人ノ謠言ヲ盛ンナラシメ不利益ヲ來スヤモ不計候コト、相考ヘ右ニ関シ先方ノ誤解ヲ自覺セシヲ相認メタル節ハ更ニ追窮セサル考ヘニ有之候モ右為念一応及報告候間御査閱相成候様致度此段申進候 敬具

追テ別紙本邦租界並ニ月廼家所在ノ地位ニ関スル地圖御参考迄御添付申進候

送附先 北京公使 上海總領事

註 別紙甲、乙両号及租界圖省略

四七八 二月四日 福島関東都督ヨリ 牧野外務大臣宛

中国革命黨員陳其美等大連渡來後ノ動靜続報ノ件

熱ノ為他トノ面談ヲ避ケ居ル次第ニ付本日代人トシテ戴天仇出頭致候ニ付小官ヨリ篤ト諭達致候処了承ノ旨ヲ述ヘ尚左ノ如ク陳述致候

一、吾々今回來連シタルハ当地及奉天方面ニハ多数ノ同志アリ衣食ニ窮シ居ル趣ヲ以テ旧年末ニ際シ在京ノ首領者ノ許ニ電報又ハ書面ヲ以テ頻々ト救済方申越シタルニ付其情況視察旁來連シタルモノナリ在京首領者ニ於テモ目下ノ処自己ノ生計ニスラ不如意ノ狀態ニ付各地ニ在ル同志ヲ救済スル余力ナキモ其ノ儘ニ放任シ置クコトモ情誼上忍ヒサル処ナルヲ以テ之ヲ慰問シ一面実地ノ狀況ヲ視察ノ要モアリ又当地若狹町居住沈縵雲トハ陳其美モ自分モ多少親戚關係アリテ同人ハ近ク南洋方面ニ行クトノ報告モアリタルニ付同人ニモ一応面会シ置ク必要アルヲ以テ約二週間乃至三週間ノ予定ヲ以テ來連シタル次第ナリ一、第三次革命ニ就テ或ハ世間種々ノ説ヲ為スモノアレ共自下ノ狀態ニテハ未タ其時期ニアラサルノミナラス又之ニ要スル充分ノ軍資金モ有セス殊ニ弊国民ハ第一革命ニ引続キ第二革命騒乱ノ為メ民間ニ於テモ頗ル疲弊シ居レハ今暫ク民力ヲ休養セシムル必要アルコトヲモ認メ居レ

リ

一、目下弊国ハ御承知ノ如ク独リ政治の方面ニ革命ヲ要スルノミナラス教育ニモ実業ニモ其他各方面共總テ革命ヲ要ス而シテ我国民ノ中ニハ外国ヘ留学シタル少数ノ者ト自国ニ在リ漢学ヲ修メタル一部ノ者ノ外甚タ教育ニ乏シクシテ共和政治ノ真意義ヲ解スルモノ、如キハ曉星モ嘗ナラス故ニ革命ナルモノハ単ニ武力ニ頼ミテノミ行ハルヘキニアラサルヲ以テ武力以外ニ於テ大ニ画策ヲ要スルモノアルヲ認ム尤モ今日ノ処吾々同志中ニハ自国ニ歸リテ事ヲ為シ得サルモノノミニハ非サルモ外国ニ在リテ種々ノ仕事ヲ為スノ却テ便宜ナルヲ認ムル事情ナキニアラス而シテ其第一着トシテ目下貴国ニ亡命シ居ル数百人ノ者ハ多クハ相当ノ教育モアリ前途望ミアル青年多キニ居ルヲ以テ是等ノ者ニ必要ナル智識ヲ与ヘ他日帰国後ハ夫々適當ノ任務ニ充テシムル考ヲ以テ今回東京ニ二個ノ学校ヲ設ケタリ

其一ツハ青年士官ニ対シ軍事的教育ヲ施シ他ハ前議員、知事又ハ新聞記者等ノ者ニ政治的教育ヲ授ケントスルニ在リ而シテ前者ハ生徒百余名アリ昨日ヨリ大森ニ於テ授

サザルニ付御安心ヲ乞フ云々

以上ノ通ニシテ其言必シモ一時ヲ糊塗セントスルモノトハ認メ難ク候ヘ共尚嚴重視察中

右及報告候也

四七九 二月五日

在中国山座公使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

國務總理兼財政總長熊希齡ノ辭職ニ関スル風

説報告ノ件

第一〇七号

内閣制度変更ノ議アルニ關聯シ熊希齡辭職ノ噂先般來益々高マリ來レルコトハ新聞電報等ニテ既ニ御承知ノ通ナルガ当館探報者カ從來比較的正確ナル消息ヲ伝フルヲ常トスル總統府秘書某ヨリ内閣スル所ニ依レハ熊ハ既ニ財政總長辭職ヲ申出テ袁世凱ノ留任勸告ヲ聴カサルニ付多分一週間内ニ辭職ヲ聞届ルヘク周自齊暫ク財政總長代理ヲ命セララルヘシ熊ハ続テ總理ヲモ辭職スヘキニ付袁世凱ハ暫ク現内閣ノ一員ヲシテ代理セシムヘシ云々尚國務員中熊ト進退ヲ共ニスルモノハナカルヘシトノコトナルモ此点ハ素ヨリアテナラス御参考迄

一四 中国革命党関係者ノ動靜ニ関スル件 四七九 四八〇

業ヲ開始シタル旨ノ電報ニ接シタリ後者ハ寺尾博士副島博士等ノ後援ニ頼リ法政大学ノ校舍ノ一部ヲ借り受ケ是又不日授業ヲ開始ノ予定ニシテ是等ハ主ニ行政組織ノ研究ニ従事セシムルノ考ナリ

一、吾々同志ハ素ヨリ袁ヲ憎ムニアラス国家ヲ愛スルノ余リ已ムナク曩ニ革命戰ヲ起シタル次第ニテ今第三次事ヲ起サント欲スレハ強チ不可能ニアラサルモ国家百年ノ安泰ヲ計ル上ニ於テ前述ノ通先ツ民力ヲ養フノ要アリ然ルニ第二次革命戰ノ創痍未タ癒セサル此際事ヲ挙クルカ如キハ徒ラニ益々民力ヲ枯渴セシムルノミニテ国家ノ不為ナレハ決シテ輕々シク事ヲ挙クルカ如キハ同志ノ採ラサル処ナリ殊ニ吾々同志中ニハ北方人ヨリモ南方ノ者多ク北方即東三省方面ヨリ事ヲ挙クル様ナレハ寧ロ南方ニ於テスルノ容易ナルニ如カス即チ南方ニ曾テ吾同志ノ指揮ノ下ニ在リタル兵員約五万乃至十萬位存在セリ唯現在ノ指揮者カ我同志ニアラスト云フニ過キス

一、只今御懇篤ナル御示達ノ趣ハ謹テ拝承セリ吾々同志カ貴国ニ亡命トシ過分ノ優遇ヲ蒙リ居ル事ハ感謝ニ堪ヘサル処ニシテ此上貴国ニ対シ迷惑トナル様ノ事ハ決シテ致

四八〇 二月五日

福島關東都督ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

陳其美ニ行大連渡來ノ目的等ニ関スル件

第二二号

陳其美等一行ノ大連ニ來リシハ同志ヲ解散セシムルニアリ彼等ハ金穀兵器人物ナク且我監視下ニアリテ到底何事ヲモ為スコト能ハサルヲ熟知ス張作霖等トノ聯絡ナシ当地ニ來リシ警部ノ報告中ニハ事実ニ反スルコトアリ到底短時日ニ於テ滿洲ノ複雑ナル情況ヲ知悉スルコト難シ当方面ノ治安維持ニ付テハ政府ノ御趣意ヲ奉シ嚴重ニ監視及処置シツ、アリ御安心ヲ請フ

四八一 二月七日

在中国山座公使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

熊希齡ノ財政總長辭表提出ノ原因報告ノ件

第一一五号

往電第一〇七号ニ関シ小田切ガ二月七日張弧ヨリ聞ク所ニ依レハ熊希齡ノ財政總長辭職ハ陸軍側トノ衝突ニ原因セルモノニシテ要スルニ陸軍側ハ軍備擴張ノ為メ益々經費ヲ要求シ熊ハ財政ノ現状如何ニシテモ支出ノ途ナシト主張シ遂

四八一

ニ辞表ヲ提出スルニ至レルモノニシテ後任ハ多分周自齊タルヘシ又國務總理ニ関シテハ熊ハ總統内閣制ノ決定ヲ待ツハ好マシカラサルニ付今ニ於テ辭職シタシト申出居ルモ袁世凱ハ總統内閣制ニハ自分モ未タ同意シタル次第ニモアラネバトテ慰留シツ、アリ云々

四八二 二月七日 在安東吉田領事ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

安東附近革命党ノ動靜ニ関シ報告ノ件

第八号

予テ白馬地方(新義州ヨリ約五里)薄、山内、中村等及若干ノ浮浪支那人アリテ何等ノ不穩ノ企ヲ懷クヤノ噂アリ注意中ノ処機密第六号貴信所載ノ金子克巳等カ大連王雲峯其ノ他陳其美一派支那人約百名ト共ニ銃器ヲモ用意シ今日迄ニ新義州及其附近ニ竄入シ明七日頃安東ヲ襲ヒテ一派ノ資金ヲ掠奪調達セントノ趣過日來都督府ヨリ電報アリ嚴ニ監視中ノ処右金子ハ愈々今夕其ノ一味ノ支那人ト共ニ新義州ニ入込ミ其徒党ニハ多少「ピストル」等ノ用意アルコト確實ナリト認メラル然ル所義州警務部及新義州警察署ノ取締ハ何故カ甚タ緩慢ニシテ要領ヲ得ス之レヲ種々ノ情況ニ徴

四八四 二月七日 牧野外務大臣ヨリ
在安東吉田領事宛(電報)

安東附近中国革命党取締協力方朝鮮總督府ヘ

照会シタル件

第七号

貴電第八号之趣朝鮮總督府ニ転電シ嚴重取締方至急手配スル様照会セリ

四八五 二月七日 在天津佐藤少将ヨリ
長谷川參謀總長、楠瀬陸軍大臣各宛(電報)

革命党ノ動靜ニ関スル在日中国公使館ヨリ大

總統宛密電要領報告ノ件

革命党ノ動靜ニ関シ在日本支那公使館ヨリ大總統ニ達シタル密電ノ要領左ノ如シ但シ一月三十一日着電ノモノト察セラル

一月二十五日長崎ニ於テ多数乱黨員ノ秘密集会ヲ開カントスル情況ヲ探知セシニ陳其美、劉芸舟、戴天仇等ハ大連ニ向ケ出發シ関外ニ於テ又張繼、李烈鈞等ハ在彼南汪兆銘等

一四 中国革命党関係者ノ動靜ニ関スル件 四八四 四八五

スルニ安東掠奪ノ企ハ多少事実カトモ存セラレ又右噂ニ止マルトスルモ金子並ニ其ノ一味ノ存在ハ不穩ノ情況ヲ生スル原因ニ付キ義州警務部ニ於テ本官ト十分聯絡ヲ取り在新義州金子王雲峯一味及在白馬薄以下ノ日支人ヲ拘束シ適宜退散セシムル様朝鮮總督府ニ対シ直チニ嚴重御照会相成リタシ尚又御交渉次第本官心得迄ニ電報ヲ乞フ

四八三 二月七日 在安東吉田領事ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

安東附近革命党ノ動靜總報ノ件

第九号

往電第八号ニ関シ金子等ハ陳其美一派ノ滿洲ニ於ケル運動費調達ノ為ニ昨今安東ヲ目指シテ当地方ニ入り込ミ來リ其徒四五十名ノ支那人ヲ新義州附近ニ散居セシメ白馬附近ノ十余ノ浮浪日支人トモ氣脈ヲ通シ機會ヲ窺フ所一味ノ王雲峯來ラズシテ当地巡防兵ヲ動カス能ハズ我官憲ノ取締亦嚴ヲ加フルガ為メ遂ニ其ノ企ハ中止ノ已ムナキニ至レリトノ情報ヲ得タリ四圍ノ狀況ニ徴スルニ彼等ハ能ク事ヲ為シ得ズト存ス当地方ガ屢々浮浪輩ニ目指サル、ハ朝鮮ノ地ニ接

ト合シ雲南ヨリ事ヲ挙クヘク企図ノ下ニ出発シ其他李書城等ハ揚子江一帶ニ潛行シテ白狼匪ト結ヒ各処ニ小動乱ヲ起シ内外順応シテ北京政府ノ頼ムニ足ラサルヲ知ラシメ政府ノ窮境ニ陥リタル機ニ乗シ在日本乱党本部ハ一斉ニ中原ニ事ヲ挙ケントスルモノト察セラル其軍用金ノ調達ハ彼南及ヒ「ジャバ」地方ノ出稼支那人ニ依レルナラン云々右ニツキ袁總統ハ警戒ヲ嚴ニスヘク關係各自ヘ電命セリト(欄外註記)

「新聞掲載ヲ禁ズ」
註 佐藤陸軍少将ハ中国駐屯軍司令官佐藤鋼次郎ナリ

四八六 二月八日 在中国山座公使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

祭天祀孔實施及信教自由ノ大總統令發布ノ件

第一一八号

過日來物議ヲ醸シ居リタル祭天祀孔共ニ實施ノコトニ決定セル旨二月七日付大總統令ヲ以テ發布セラル、ト同時ニ別ノ大總統令ヲ發シ国教ヲ指定セサルコト及聖賢ヲ祭ルコトハ宗教問題ニ關係ナク共和政体トモ牴触セサルコト并ニ信教ハ自由ナルコトヲ声明セリ

四八六

四八七 二月八日 在安東吉田領事ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

安東ノ中国革命党関係邦人退去ノ旨報告ノ件

第一〇号

前電ノ金子等ハ其ノ計画ノ実行不能ヲ悟リ且本官ヨリ長居セバ処分スヘキヲ暗示セルヨリ本日午前発汽車ニテ一味四五輩ト奉天ニ向ヒ其徒ハ尚ホ新義州側ニ存在スベキモ漸次退散スヘキ管同地警察ハ一味支那人丈ニ対シ其ノ管外ニ退去スヘキ命令ヲ伝ヘタルモノ、如シ本件之ニテ一段落ト存セラル、ニ付今夕九時ヨリ漸次当地ノ警戒ヲ緩ムル手筈ナリ

四八八 二月九日 小池政務局長ヨリ
岡警保局長宛

白狼ト革命党ト氣脈ヲ通シ居ルヤノ説アルニ

付同党亡命者ノ行動ニ注意アリタキ件

政機密送第一六号

白狼匪ト在本邦支那亡命者ノ行動ニ関スル件
支那河南省ニ根拠ヲ有スル白狼匪ハ昨今ニ至リ其勢急ニ猖獗トナリ遂ニ安徽省ニ侵入シタルノミナラス天主教宣教師

居レリ又領事ノ報告ニ依レハ白馬ニ多数ノ浮浪者在住シ金子等ト聯絡アル如ク云フモ領事ノ浮浪者ト目スル同地在住ノ薄等ハ在住中嘗テ不穩ノ行動ナク無論金子等トハ没交渉ナリ尚関東都督府ニテハ昨年来盛ニ在留禁止処分ヲナス結果朝鮮ニ入込ムモノアルモ当方ニ於テ不良行為ナキ限りハ之ヲ処分スル途ナシ若シ領事ニ於テ処分ヲ要スルモノアラハ罪証ヲ挙ゲテ共助法ニヨリ交渉アレハ可ナリ
領事ハ現ニ自己ノ手元ニ金子等ノ浮浪者入込アルニ拘ラス恰モ朝鮮側ニ入込ミ居ル如ク声言シ而モ朝鮮側警察ノ取締振ヲ云々スルハ甚タ迷惑千万ナリ要スルニ領事ハ金子及王雲峯ノ一味ガ新義州ニ入込タリトシテ斯ノ如ク他ヲ疑フ如キ報告ヲナスニ至リタルハ支那官辺ノ諜報ヲ丸呑ミニシ事実ヲ確メサル結果ト思料ス

四九〇 二月十日 在中国山座公使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

熊希齡ノ財政總長辭職兼令報告ノ件

第一二三号

二月九日附大總統令ヲ以テ熊希齡ノ財政總長辭職ヲ聞届ケ周自齊ヲ署理財政總長兼陸軍總長代理ニ任シ朱啓鈴ニ交通

一四 中国革命党関係者ノ動靜ニ関スル件 四九〇 四九一

ヲ殺害シタル為メ外人間ニモ不少注意ヲ喚起シ居リ且該匪徒ハ革命党ト氣脈ヲ通シ居ルヤノ説アリ又二名ノ本邦人モ一時之ニ加担シタリトノ情報モ有之候処目下本邦ニアル支那亡命者ニシテ万一此際右匪徒ト聯絡ヲ保チ何等企図スル様ノ事アリテハ対支外交上頗ル面白カラサル次第ニ付今後亡命者ノ行動取締上右ノ点ニ付キ十分御注意相煩度依命此段及御照会候也

四八九 二月九日 山県朝鮮總督府政務總監ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

中国革命党關係金子等ノ朝鮮流入等ノ事実ナ

キ旨回電ノ件

第一号

貴電第二号ノ件ニ関シ取調タル所警務總長ヨリ下ノ通報告アリ御諒承ヲ請フ

金子等一派ノ行動ニ付嚴重搜索セシメタル所金子等ハ朝鮮側ニ入込ミタル事實毫モナシ金子ハ三日大連ヨリ安東ニ来リテ某日本人方ニ滞在セリ而シテ金子カ安東ニ来リタルハ安東支那町ヲ襲ヒ金員ヲ掠奪スル目的ニテ支那人約五十名(「モーゼル」銃五〇ヲ有スト)ヲ現ニ安東ニ入込マシメ

總長代理ヲ兼ネシムル辭令公布セラル

四九一 二月十三日 在中国山座公使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

熊希齡國務總理辭職孫外交總長國務總理代理

兼任兼令ノ件

第一三三号

熊希齡再度ノ辭職ヲ聽届ケ孫外交總長ニ兼任國務總理代理ヲ命スル旨二月十二日附大總統令ヲ以テ發布セリ

四九二 二月十三日 伊藤滿鉄副總裁ヨリ
外務省宛

陳其美等ノ大連渡来ニ関シ張奉天都督談話ノ

件

二月十三日 (二月十八日接受)

伊藤滿鉄副總裁ヨリ送付

前略

張都督曰ク陳其美戴天仇等ノ徒カ数日前日本ヨリ大連ニ着シ目下医院内ニ静養中ナルコトハ既ニ逸早ク聞知シ居レリ彼レノ来滿ハ果シテ如何ナル目的ト計畫アルヤ不明ナルモ現在ノ狀況ニ於テハ到底何事ヲモ為シ能ハサルヲ確信ス近

来新同盟会再興シ暗ニ各地ニ於テ党与ヲ糾合シツ、アリトノ警報アリタレトモ是亦何等勢力ノ見ルヘキナシ既ニ勢力ナク資力ナシ大局上變動ヲ起サ、ルハ勿論更ニ意トスルニ足ラス唯匪賊ノ徒或ハ名ヲ革命党ニ或ハ破壊党宗社党ニ藉リ以テ窮策ヲ案シ小暴動ヲ起スヤノ情報頻々トシテ報告アリスノ如キハ無辜ノ人民ニ危害ヲ加ヘ地方ノ治安ヲ乱スモノニシテ余ノ責任トシテハ之カ防庄ノ手段ヲ講セサル可ラス既ニ各地軍警ニ嚴重警戒ヲ命シタレハ或ハ彼等ノ企画モ水泡ニ帰スヘシト信ス這次陳其美ノ来滿ニ付キテハ実ハ大總統ヨリアラユル手段ヲ用イテ彼レヲ拿捕スヘキ密電ニ接シ居レリ云々

(都督ハ更ニ声ヲ潜メ陳カ大連ヲ離レ近ク奉天地方ニ来ルコトナキヤ又彼レヲ捕フル良策ナキヤト囁キタリ依テ陳ノ来滿説ヲ聞クモ其確實ナルヲ知ラス從ツテ彼レノ行動ニ付キテハ何等聞知セスト答ヘ置ケリ)

四九三 二月十四日

在中國山座公使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

孫宝琦國務總理代理任命経緯報告ノ件

第一四〇号

在漢口

総領事代理 高橋 新治(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

上海ニ於ケル新政府顛覆陰謀機關タル新同盟会ノ支部当地方ニモ設立セラレ密カニ事ヲ舉クルノ目的ヲ以テ内々運動セル徒アリ為ニ武昌官憲ニ於テハ本年一月以来同地警察庁ヲシテ非常線ヲ張り是等党与ノ搜索ニ努メタル結果本月一日武昌計級營、森昌信局ニ於テ右陰謀ノ張本人車繼斌、李柏壤ノ二名ヲ捕縛シ続イテ彼等兩人ノ住所ヲ検挙ノ上謀乱委任状及秘密文書等有力ナル証拠物件ヲ発見シタリ車繼斌等ノ自白ニ因レバ車繼斌ハ上海新同盟会長貨公俠ヨリ孫文ノ委任状ヲ得テ武漢聯絡総員鄂省革命軍籌辦処長トナリ李柏壤ハ武漢招待員トナリ陰曆正月十五日以後武漢ノ地ニ於テ事ヲ舉ケ同時ニ孫文、黃興、李烈鈞、季雨霖等ハ上海ヨリ人ヲ派シ河南ニ於テ白狼ト聯絡シ大挙シテ一大革命軍ヲ起サントシタルモノ、如シ尚又武昌及漢陽ノ兩地ニ於テ同陰謀機關十個所検挙ノ結果吳子英以下八名並ヒテ徐家富以下五名ヲ捕縛シ方漢卿等二名モ亦嫌疑犯トシテ縛ニ就キ一同陸軍審判処ニ於テ取調ヲ受ケ車繼斌以下十名ハ陰謀ノ事

一四 中國革命党関係者ノ動靜ニ関スル件 四九六

例ノ總統府秘書ノ談トシテ探訪者ノ報ニ依レハ袁世凱ハ段祺瑞ノ帰京迄熊希齡ノ辭職ヲ聞届ケサル積ナリシモ段ハ白狼討伐ノ為暫ク河南ヲ去ル能ハサル事情アルニ付國務院會議ノ結果河南都督(陸軍総長本任ハ元ノ通)ニ任スルコトニ決定シ且段ノ稟議ニ基キ孫宝琦ニ國務總理ヲ命シタルモノナリ

又「スタンダード」石油会社トノ石油契約ハ梁士詒專ラ其局ニ当リ居タル由云々

四九四 二月十六日

李家長崎県知事ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

上海ニ向ヒタル青柳某ハ張堯卿ト判明ノ件

本日当地出帆ノ近江丸ニテ青柳喜平(三五)ト称シ上海ニ向ヒシ者アリ右ハ亡命者張堯卿ト判明ス委細文

四九五 二月十七日

在漢口高橋総領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛

武昌ニ於ケル新同盟会員ノ陰謀事件暴露処刑

ニ関シ報告ノ件

公信第八四号

(二月二十六日接受)

大正三年二月十七日

実顕著ナルノ故ヲ以テ本月十三日早朝武昌得勝廟前ニ於テ斬決セラレタリ又残余ノ徒党罪狀稍輕キモノハ監禁セラレ罪狀更ニ疑ハシキモノハ何レモ保釈セラレタリ今回陰謀ノ徒党ハ概シテ第一革命當時ノ退伍軍人ニシテ季雨霖ノ与党ニ属シ前ノ第八師団ノ解散兵等ト暗ニ氣脈ヲ通シ居レリト云フ段都督ハ本事件ニ関シ去ル十四日附長文ノ諭告文ヲ發シ其末文ヲ以陰謀ニ与シ逆証ヲ得タルモノモ此際自首スルカ又ハ逆証ヲ破棄シ前非ヲ悔悟スルモノハ悉ク罪ヲ問ハザルモ若シ未タ旧惡ヲ捨テス将来尚不軌ヲ図ラントスルモノハ之ヲ誅殺シ毫モ仮借スル処ナシト云ヘリ尚武昌政府ハ本件發生以来右新同盟会ノ与党殲滅ノ為メ全力ヲ尽シ警戒ヲ加ヘ居レリ

右及報告候 敬具

写送付先 山座公使

四九六 二月十八日

南福岡県知事ヨリ
牧野外務大臣宛

福岡滞在中ノ中国亡命者ノ動靜ニ関スル件

高秘第一二八八号

(二月二十一日接受)

大正三年二月十八日

福岡県知事 南 弘(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

既報ノ通り革命戦死者追弔会ノ為メ来福シタル亡命者及再来シタル何海鳴、潘鼎新、劉芸舟並ニ本月十二日熊本ヨリ来リタル王介凡等ノ動静視察ノ結果左ノ如シ

一何海鳴等ハ玄洋社長進藤喜平太同社員津田幾次郎等ニ対シ自分ハ近来大連地方ニ帰国スヘキ旨頻リニ同志ノ催促ヲ受ケ居ルモ今直チニ之レニ応スル能ハサルヲ以テ二三ケ月中ニ大連ニ帰り第三革命ノ旗竿ヲ為サントノ希望ヲ有スル旨ヲ談シ暗ニ金策ヲ依頼シタルモ進藤等ハ革命ヲ行フカ如キ多額ノ金額ハ容易ニ応シ難キモ目下ノ境遇ハ同情ニ価スルモノアルニヨリ生計費救済トシテ五十円ヲ与ヘ且同席者タル佐賀銀行員古賀大島深川等ヨリ揮毫料トシテ五十円其他追弔会香典百円余合計貳百円内外ヲ与ヘタルモ軍資金及大連帰国ノ件ハ何等決スル処ナク立別レタリ

二何海鳴潘鼎新ノ兩名ハ本月十四日再ヒ来福水茶屋常盤館ニ兼テ滞在中ナル劉芸舟王介凡及日本人福田安太郎玄洋社員津田幾次郎古賀莊兵衛並ニ礦業家中野徳次郎等ト会

翌十六日午後六時博多発帰關シタルヲ以テ何レモ山口県ヘ電話引継ヲ為セリ

申通報先 内外相総監 山口長崎県知事

四九七 二月二十日 在中国山座公使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

梁啓超等閣員辭職ニ伴フ新聞員報告ノ件

第一五九号

梁啓超汪大燮辭職聞届ケラレ章宗祥司法総長ニ嚴修教育総長ニ任セラレ嚴修著任迄蔡儒楷教育総長臨時代理ヲ命セラ
ルルコトニ決定セリ

四九八 二月二十一日 李家長崎県知事ヨリ
原内務牧野外務両大臣宛

長崎ニ於ケル中国亡命者ト邦人トノ陰謀計画

ニ関スル件

高秘特収第五一〇号 (二月二十四日接受)

大正三年二月二十一日

長崎県知事 李家隆 介

内務大臣 原 敬殿

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

一四 中国革命党関係者ノ動静ニ関スル件 四九七 四九八

合密談ヲ凝シタルカ今其内容ヲ聞クニ

(イ)何海鳴ハ中野ニ対シ県下礦業家ニ軍資ノ相談ヲナシタルモ中野ハ以前ニ於テハ革命軍資ノ幾分ヲ投シ相当尽力セシ事アリシモ今ハ其当時トハ大ニ事情ヲ異ニシ革命ニ援助スルガ如キ大ヒニ考慮ヲ要スル問題ニシテ即答ノ限リニアラサルモ生計費ノ補助トシテ幾分ノ金策ヲナスヘキ意ヲ漏ラシタリ

(ロ)翌十五日右一行ハ来福中ナル礦業家安川敬一郎ニ対シ挙兵ノ相談ヲナシタルカ安川ハ当時支那ノ現状ニ照シ兵ヲ挙ケントスルトキハ是非共日本ヨリ軍器ノ輸入ヲ為サハルヘカラス日本政府ハ四困ノ事情ニ鑑ミ今之レヲ援助セントスルカ如キハ至難ノ事ニ属スルヲ以テ輕々兵ヲ挙クルカ如キハ却テ犬死ノ不幸ニ終ルベシトテ暗ニ反対ノ意ヲ表シ尚亡命者目下ノ境遇ハ同情ニ堪ヘサルヲ以テ金策ノ件ハ他日同志ト協議ノ上何トカ取計フベシト答ヘタリト云フ

以上ノ通りニシテ潘鼎新王介凡ノ兩名ハ遠賀那若松町吉田磯吉ニ会见ノ為メ本月十五日同地ヘ赴キタルモ本人不在ノ為メ直チニ下ノ関ニ至リ何海鳴劉芸舟福田保太郎ノ三人モ

警 視 総 監 殿

山口、福岡、静岡、

愛知、島根、各県知事殿

二月十八日付高秘第一二八七号ヲ以テ福岡(貴)県ノ内報ニ係ル当地在住ノ支那亡命者張堯卿(目下上海渡航中)カ北京ノ王某ト密会シ又長崎在住ノ日本人大久保、古川、其他二三輩ト何事カ計画シ或ハ支那通用紙幣ヲ偽造シ居ルニアラサルカ柏文蔚亦共謀シ居ルニアラサルカ疑念ヲ懷ケル同志アリ云々ノ件ニ就キ内査ヲ遂クルニ王某ト密会ノ事実ハ明カナラス又日本人大久保トアルハ多年支那ニ在リタル大久保豊彦又古川ハ古川清ナラント想像セラレ候目下兩名共当地ニ在住セル模様ナシ同人等ヲ知レル者ノ談ニ依レハ大久保ハ目下上海若クハ大連方面ニ又古川ハ大連若クハ奉天地方ニアルナラントノコトナリ一面ニハ大久保ハ一月二十六日上海ヨリ入港ノ山城丸ニテ帰朝シタルヤノ噂モアリ当地上陸客名簿ニ照シ調査スルモ該当ノモノナシ随テ兩名共当地ニ於テ張堯卿ト会见セシ模様ヲ認メス又柏文蔚カ共謀云々ノ点ハ柏ノ人格行動ニ徴スルモ虚妄ニ過キサルヘク思考セラル殊ニ張堯卿ニ対スル当地在住亡命者ノ疑念ハ衰

一四 中国革命党関係者ノ動靜ニ関スル件 四九九

派ト款ヲ通シ居ルニアラサルカニアリ柏文蔚ノ如キ平素張ト親交セル模様ナシ尤モ柏宅ニ居住セル陳策ハ張ト交情厚キカ如キモ未タ張ト共ニ事ヲ計画セル事実ハ発見セス尚着々内偵中ニ有之候

大久保及古川ノ人格ニ付聞ク所ニ依レハ何レモ品性下劣ニシテ古川ノ如キハ曾テ支那政府ニ於テ懸賞搜索中ノ白逾桓ヲ売り三千兩ヲ取りテ逃走シタルコトアリ又大久保ハ時々発作スル狂者ニシテ同志間ト常ニ口論ノ絶ヘサルモノナリト云フ同人ハ愛知県名古屋市出生ノ趣ニテ年令四十五六(一面ニハ静岡県出生ナリト云フ)又古川ハ島根県隠岐島生本年四十一才ナリト云フ何レモ原籍地ニ於テ調査セハ其所在ハ判明スヘク思考セラレ候

以上ノ次第ニシテ同人等カ当地ニ於テ張堯卿ト会見ノ事実ハ認メ難キノミナラス支那紙幣偽造ノ点ニ就テモ未タ何等ノ端緒ヲ発見セス精々内偵中ニハ候得共一応及報告(内報)置候也

四九九 二月二十六日 在漢口高橋總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛

本邦人動乱煽動ノ噂ニ関シ報告ノ件

在九江 外務書記生 八木元八

在漢口總領事代理 高橋新治殿

日本人動乱煽動ノ噂ニ関スル件

李烈鈞日本ヲ去リテ支那ニ向ヒタリトノ報及数十名ノ日本人李ニ雇ハレテ長江筋ニ入込ミタリトノ噂ハ曩ニ当地方ニ於テ新聞電報トシテ伝ハリタル処ナルガ今般小官使用支那人ノ牒報ニヨレバ当地軍隊幹部ニ於テハ林虎再ビ事ヲ挙クル為メ窃カニ広東ヲ經テ贛州ニ向ヒタリトノ報ニ接シ居ル際今般李部下ノ日本人当地ニ来リ黃白ヲ散シテ兵士ヲ煽動シ居ルモノアリトテ嚴重探查中ナリト云ヘリ

右噂ハ旧来李烈鈞ニ附随シ居リシ新田德兵衛部下一名ト共ニ過般民国銀行紙幣数千弗ヲ携帯シテ窃カニ当地ニ来リ之レヲ兌換シタル事実アリ鎮守使ノ探偵之レヲ探知シテ訛伝シタルモノナラント思考セラレ候

新田ハ当地ニ於テハ何等怪ム可キ行動ナク小官ニ対シテハ今後革命派トノ關係ヲ絶チ上海ニ於テ商業ヲ営ム決心ナリト云ヒ又当地本邦商トモ取引上ノ協議ヲナシタル模様ナルガ其真意ハ計ラレズ候尚同人ハ目下上航貴地ニ赴キ居リ候右及報告候也

一四 中国革命党関係者ノ動靜ニ関スル件 五〇〇 五〇一

七三〇

附屬書

二月二十二日附在九江八木書記生ヨリ高橋總領事代理宛機密第八号写
同右件

機密第二四号

(三月七日接受)

大正三年二月廿六日

在漢口

總領事代理 高橋 新治(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

本件ニ関シ在九江八木書記生ヨリ別紙写ノ通り報告有之候ニ付右茲ニ差進候間御査閱相成度尚ホ同報告末段新田德兵衛ノ件ニ関シ当館ニテ取調タル処同人等ハ本月十三日来漢シ同十五日迄滞在シ同日上海ヘ向ケ下江致シ其滯漢中ノ行動ニ付テハ別段怪ムベキ点無之候条右様御承知相成度此段別紙相添ヘ及報告候 敬具

写送付先在支那公使及ヒ有吉總領事

(附屬書)

写

機密第八号

大正三年二月二十二日

五〇〇 二月二十八日 在シンガポール藤井領事ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

汪兆銘、張繼、李烈鈞渡歐ノ模様ナル件

第七号

彼南ニ於テ支那革命黨員ト会見セシモノヨリノ情報ニ依レハ汪兆銘ハ張繼ノ著後一月二十日頃妻女ヲ伴ヒ張繼ハ二月三日孰レモ同地出發巴里ニ向ヒ李烈鈞ハ二月十四日汽車ニテ同地著二月二十日ノ仏国汽船ニテ歐洲ニ向ヒタル由多分巴里ニ赴キタルナラントノコトナリ右李烈鈞ノ巴里行ニ関シテハ当地国民党機關新聞ノ記者モ同様ノコトヲ語レリトノ趣ナレハ多分事実ナルヘシト推察ス

五〇一 三月二日 在天津窪田總領事ヨリ
牧野外務大臣宛

中国第三革命ノ計画ニ関シ報告ノ件

附屬書

二月二十七日附在濟南森岡書記生ヨリ窪田總領事宛機密第一三号写
同右件

機密第一六号

大正三年三月二日

(三月九日接受)

七三一

在天津 総領事 窪田文三(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

二月二十七日附森岡書記生發機密第一三号写巻通

支那第三革命運動ニ関シ報告ノ件

本件報告先 山座公使

(附屬書)

写

機密第一三号

大正三年二月二十七日

在濟南

外務書記生 森岡 正平

在天津

総領事 窪田文三殿

支那第三革命運動ニ関シ報告ノ件

本件ニ関シ某革命党支那人ガ当地高等師範学校豊田教習ニ
内話シタル談話ノ要領左記ノ通り及報告候間御査閲相成度
此段申進候 敬具

孫文李烈鈞陳其美戴天仇等ハ第二次革命失敗以來到底再
起ノ見込ナキヲ看取シ時局ノ推移ニ放任シテ共ニ思フ国

事ニ絶チ悠々自家ノ修養ニ潜念セント決心シタルニ端ナ
ク衰カ昨冬霹靂一声国民党ヲ解散シ次テ命令一下国会ノ
取消ヲ行フニ及ンデ彼等亡命ノ国士ハ憤怨骨髓ニ徹シ遂
ニ素志ヲ翻シテ第三次革命ニ訴ヘ重テ討袁ノ実ヲ挙ゲン
ト企テ前キニ陳其美孫文李烈鈞ノ三名ニテ運動費五十万
元ヲ籌出シ(黃興ハ南京蹉跌以來同志間ノ人氣宜シカラ
ズト云フ)本部ヲ東京ニ置キ支部ヲ大連青島芝罘上海漢
口広東ノ各地ニ設ケ所在第一次革命以來ノ純革命黨員ヲ
糾合シテ熱心ニ秘密運動ヲ開始シ居レリ今其計画ヲ述ヘ
ンニ東三省ノ馬賊河南ノ白狼匪ヲ煽動シテ機会ヲ窺ヒ南
北ヨリ一挙京津ヲ衝キ一方山東山西ノ軍隊ヲ買取シテ袁
軍ノ東進西向ヲ防止セシメ同時ニ武昌広東山海ノ各地ニ
兵ヲ起シテ袁ヲシテ降ヲ軍門ニ乞ハシメントスルモノニ
シテ現ニ陳其美ハ滿洲ニアリテ一意馬賊トノ連絡ニ腐心
シ故吳祿貞部下某管帶官外同土数名ハ目下身ヲ白狼軍ニ
投シテ煽動至ラサル無ク已ニ計画ニ第一指ヲ染メタルヲ
以テ今後局面ノ転変蓋シ意想ノ外ニアラン当山東ニ於テ
モ今春來青島芝罘上海各支部ヨリ黨員続々侵入シテ内密
運動中ナリト雖モ由來第五師ハ袁ノ最モ信頼スル軍隊ニ

大正三年三月八日

在安東

領事 吉田 茂(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

陳其美一派ノ行動ニ関スル件

シテ運動ノ困難思半ハニ過キタルノミナラズ官憲ノ警戒
頗ル厳ニ探查実ニ至ラサルナク過日臨清ニ於テハ同志七
名逮捕斬刑ニ処セラレ芝罘ニ於テハ黨員山東高等師範卒
業生孫某拿縛セラル、アリ今又濟南ニ於テモ關係者高等
師範学生方遠照趙金章山東軍官養生所生王鴻策法政学校
学生王榮卿ノ四名軍法ニ照ラシ銃殺ニ遭ヒ一味ノ苦心名
状スベカラサルモノアリ之ヲ要スルニ袁ハ武断專制ヲ以
テ一時ヲ糊塗セリト雖モ排袁ノ暗流ハ滔々トシテ志士青
年学生ノ間ニ漲リ其ノ怒濤狂浪トナツテ全国ヲ騰涌スル
ノ日思フ遠キニアラサルベシ云々

五〇二 三月八日 在安東吉田領事ヨリ
牧野外務大臣宛

安東附近ヲ退去セル革命党關係中国人及邦人

其後ノ行動ニ関スル件

附屬書一

朝鮮定州及龜城南方ニ於ケル革命党關係中国
人及邦人ノ行動統報写

二

嶺美駅、白馬駅方面ニ於ケル革命党關係中国
人及邦人ノ行動ニ関スル中国側情報写(一)

(二)

機密公信第一八号

(三月十七日接受)

一四 中国革命党關係者ノ動静ニ関スル件 五〇二

金子克巳及其一味ノ行動ニ関シテハ客月十六日附機密公信
第一二号ヲ以テ及御報告置候処金子ハ大連ニ一旦帰着後陳
其美一派ノ首領株蓐夢岩王雲峰等ト密議シ客月二十二日彼
等一味三十余名ノ支那人及ヒ早崎貞雄村上定次ト共ニ大連
ヨリ雇船開運丸ニ乗シ同二十七日朝鮮鎮南浦ト鴨綠江口ト
ノ中間ニ位スル身弥島附近ニ上陸シ定州ニ向ヒタル模様ア
リ一面王雲峰ハ定州ニ先発ノ金子一派ト落合フ目的ヲ以テ
一味ノ謝宝軒及ヒ宋魁五ト共ニ客月二十六日大連ヲ発シ当
地方ニ向ヒタル趣情報ニ接到致候ニ付本官ハ鷄冠山警務支
署長ニ命シ安奉線列車ニ就キ右三名ヲ物色セシメ一応取調
ノ上當警察署ニ送越サセ目下尚ホ吟味中又蓐夢岩ハ部下
一名ト共ニ本月六日大連ヨリ奉天ニ到リ同地ニ先着ノ一味
金万和外三名ト來往謀議セル処前述王雲峰等ノ引致ヲ聞知
シ当地ヲ經過シテ朝鮮地方ニ至ルノ予定ノ計画ヲ變更シテ

再ヒ大連ニ引還セル趣ニ有之候

右ニ基キ当方ヨリ探查ノ為メ定州及ヒ亀城方面ニ派遣セル者ノ報告ニ拠レハ定州ニハ廿一名亀城ノ南方南市ニハ二十一名ノ浮浪日支人滞在セル模様ニテ開運丸一隊ノモノト被推測候（別紙甲号「革命黨員ノ行動ニ関スル統報」写参照）尚ホ支那側ノ調査ニ依レハ邦人月成勲ハ嶺美駅附近ニ居リ薄益昌ハ白馬ニ止リ鮑化南ハ此間ヲ往来致居リ而シテ右三名ノ指揮下ニ在ル不逞ノ徒楊臻清吳兆義等二百余名邦人約三十余名ハ白馬駅ヲ距ルコト四十清里ノ山麓ニ滞留セル趣ニ有之（別紙乙号並丙号支那側情報写参照）右情報ハ稍誇大ニ失セサトモ被思料候

以上在滿各警務署及当館警察探知ノ事実等ニ依リ日支浮浪輩ノ大連其他ノ地方ヨリ移転シテ定州附近ニ集リ来リ一方ニハ南滿ノ一味ト氣脉相通シ尚ホ何等カ企図スル処有哉ノ行動致居候行跡ハ顯然ノ処義州警務部及新義州警察署側ハ単ニ新義州若クハ白馬地方ノ如キ当地ニ接近ノ場所ヨリ若干ノ距離ニ遠慮セシメタルノミニテ当館ヘ通報ハ無論別段ノ取締ヲモ為サ、ルモノ、如クニ有之候陳其美一派ノ徒カ其在滿党与ノ解散費ニ窮居候ハ事実ナル処朝鮮定州附近ノ

本年二月二十六七日頃何レヨリカ漂然渡来シ一定ノ職業ナク徒食シ居レリ銃器携帯ノ有無ハ不明ナリ

右定州館ニ滞在セル日支人八名ハ二月二十三日夜帆船ニテ大連ヲ出發セシ早崎貞雄ノ一行ニアラサルヤト思料セラル

二、定州南門鮮人某方ニ革命黨員ト認ムヘキ支那人四名宿泊セリ尚ホ定州駅ニハ汽車ノ発着毎ニ黨員ト思料スヘキ者数名出張シアリテ同志ノ出迎又ハ密偵等ノ出入ヲ物色警戒シ居レルモノ、如シ

三、宣川及亀城ニハ黨員ト認ムヘキ日支人潜伏ノ形跡ナキモ亀城ノ南方日本里三里ナル南市ト称スル部落鮮人宿屋金鎮成方ニハ黨員ト認ムヘキ支那人二十二名アリ内三四名ハ支那人服ヲ着セルモ日本人ト認メラル而シテ彼等ハ二月二十三日宣川ヲ經テ来レリト称シ何レモ拳銃ヲ携帯セリ

以上革命黨員ニ対スル地方鮮人ノ意嚮ヲ内偵スルニ單ニ商況視察ノ為ニ来リタルモノ、如ク風評スルアリ或ハ匪賊ナラムトノ疑念ヲ懷キ多少不安ノ念ニ驅ラレ居ル者アルモ一般ノ狀況トシテハ深ク意ニ介セサルモノ、如ク從ツテ其何

一味ハ遂ニ如何ノ行動ニ可出哉当地掠奪ヲ敢テスル迄ニハ到ラストモ或ハ客年中ノ如ク鴨綠江下流ニ於テ解氷期ノ戎克輻輳ニ乘シ再ヒ海賊行為ニ出テンカトノ噂モ有之当地支那街ニ於テハ解氷期ノ仕入ヲ控ヘ居レルコトトテ大ニ不安ノ念ヲ抱キ居候

右不取敢報告申進候 敬具

（附屬書一）

甲号写

朝鮮定州及亀城南方ニ於ケル革命党関係中国

人及邦人ノ行動統報

革命黨員王雲峰等ノ言動ニ付テハ本月二日付安高警秘第三九三号ヲ以テ及報告置候処本件ニ関シ朝鮮定州亀城方面ヘ派遣シタル密偵ノ齎ラシタル情報左記ノ通ニ有之候条此段及報告候也

左記

一、朝鮮定州日本人宿屋定州館ニハ日本人三名支那人五名滞在シアリ尚ホ同地鮮人宿屋崔正堯方ニハ支那人九名滞在シ彼等ノ服装人相等ニ依リ判断スルニ商人或ハ苦力トハ其風体ヲ異ニシ一見革命黨員ト認メラレ而シテ彼等ハ

処ノ者ニシテ何処ヨリ何用アリテ来リシカ之レヲ知ルモノナク亦偶々之ヲ尋ヌルアルモ彼等ハ頗ル傲慢ノ氣勢ヲ示シ実ヲ告ケサル模様ナリ尚ホ彼等黨員ニ対スル朝鮮官憲側ノ態度ハ定州ニ憲兵分隊宣川ニ警察署亀城南市ニハ憲兵分駐所アリ何レモ彼等ノ潜伏セル事実ヲ詳知セサル筈ナキニ何等取締ヲ為ス模様ナク客月下旬平安北道警務部長ノ定州及亀城地方出張ハ此種浮浪ノ徒取締ノ為ナルヘシト思惟シ居リシモ尚ホ其儘ニ放置シアリテ深ク顧慮セラレサルカ如キ実況ナリ

報告先 在京長官 警務課長

通報先 各警察官署長

（附屬書二）

嶺美駅白馬駅方面ニ於ケル革命党関係中国人及邦人ノ行動ニ関スル支那側情報（一）（二）

（一）

乙号寫

外人月成勲在嶺美薄益昌在白馬各爲該地黨首而發號施令則爲華人鮑化南現嶺美地方黨人無多大概皆移住於離白馬驛四十里之山口約計華人二百餘名楊臻清吳兆義王耀廷王文發均

在其内外人約三十餘名槍彈完富毎日在山口演操又薄益昌改名大村於本月三日自稱宗社黨曾向新義州岩田旅館強索洋五百元館主不允因將其女捆縛勒獲洋五十元而去此事爲當地警察所聞亦正嚴爲查緝等語查白馬附近既有中外兩黨人二百三十餘名之多又復每日操演觀其動靜勢非大舉入寇不可

(一)

丙号寫

日昨韓境定州車站附近有破壞黨匪百餘名游弋察其蹤跡係在鮮人客店居住内有善操鮮語者數人並雲田古巴嶺美等處亦有匪徒均由外人暗中照料布置一切

五〇三 三月十三日

在中国山座公使ヨリ
牧野外務大臣宛

中国政府ヨリ陳其美ノ引渡要求ノ件

附屬書 民国三年三月二日附外交部節略

陳其美引渡要求ニ関スル件

機密第一一三号

(三月二十三日接受)

大正三年三月十三日

在支那

特命全權公使 山座円次郎(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

陳其美引渡ニ関スル支那政府要求ノ件

過般夏粹芳及夏広仁ナルモノヲ刺殺シタル王慶瑞ノ口供書ニ依レハ本殺害事件ニ関シテハ陳其美カ其部下周棲雲ヲ使喚シ周ハ王ヲシテ前記兩人ヲ殺害セシメタルコト明ニナリタル由上海鄭鎮守使ヨリ來電アリ即チ陳其美ハ本件ノ教唆者ナルヲ以テ日本官憲ニ於テ陳其美ヲ逮捕ノ上中国官憲ニ引渡サレ度旨本月二日付ヲ以テ外交部ヨリ別紙節略ヲ通申越シ有之候依テ本使ハ本月五日松平書記官ヲ外交部ニ遣ハシ曹次長ヘ面会ノ上日支兩國間ニハ犯罪人引渡ニ関スル特殊条約ナク又現行通商条約中ニモ本件ノ如キ場合ニ適用スヘキ条項ナキノミナラス陳其美ハ本件ニ於テ著名ナル政治犯人ナルヲ以テ日本政府ハ到底引渡ノ要求ニ応スルコト能ハサルヘク仍テ當館ニ於テハ該節略ニ接スル以上ハ如上ノ理由ヲ述ヘテ公然外交部ノ要求ヲ拒絕スルノ外無キ処斯クテハ甚タ面白カラサル次第第二付寧口該節略ハ初メヨリ發送セラレサリシモノトシテ撤回セラル、方可然旨好意的ニ注意ヲ与ヘシメ候処曹次長ハ条約ノ有無ニ関スル議論ハ犯人カ日本内地ニ在ル場合ニ就テノ事ト思ハル、処聞ク所ニ

依レハ陳ハ目下大連病院ニ居ル由ニ付大連ノ租借地タル特殊ノ「ステータス」ニ鑑ミ条約ニ關係ナク引渡サル、訳ニハ行クマシキヤト述ヘタルニ依リ同書記官ハ陳其美カ目下大連ニ在リヤ否ヤハ確知セサレトモ仮ニ同地ニ在リトスルモ過般宋教仁暗殺ニ干係ノ嫌疑アル洪述租カ膠州灣独逸租借地ニ潜伏シ居リタル際支那官憲ヨリ同人引渡方ヲ要求セルニ對シ独逸官憲ハ之ヲ拒絕シタル例アルコトヲ指摘シ尚仮リニ陳カ政治犯ニ關係ナク而シテ殺人教唆ノ罪跡明カナル場合ニ於テハ条約ニ關係ナク弁法ヲ考量スルノ余地ナキニアラサルヘキモ元來陳ハ如前述重ナル国事犯人ト看做サレ居ルモノニ付仮令今回ノ如キ普通犯罪ノ嫌疑ヲ以テ支那政府ヨリ其逮捕引渡ヲ要求セラレタリトテ日本政府ハ之ニ応スルコト能ハサルヘシ若シ日本政府ニシテ陳ノ引渡ニ応センカ孫、黃等ノ政治犯人ニモ何等カノ普通犯罪ノ嫌疑モアルヘキニ付之ヲ名トシテ請求サル、ニ於テハ亡命者ノ主ナルモノハ悉ク引渡サル可カラサルニ至ルヘシ云フ迄モナク日本政府ハ是等政治犯人ノ在留スルヲ喜フモノニハアラサルハ勿論極メテ之ヲ迷惑トスルモノナルモ政治犯人ニ對スル特殊ノ取扱ハ國際ノ通義ニ屬シシ様ノ手段ヲ以テ引

渡ス如キコトアリテハ右ノ通義ヲ没却シ文明国トシテ帝國ノ面目ニモ関スヘキ旨説述致候処曹次長ハ更ニ先般某政治犯人カ漢口ヨリ逃レテ香港ニ潜伏セル際支那政府ハ香港政庁ニ對シ詐欺取財ノ罪人トシテ同人ノ引渡ヲ求メタル処同政庁ハ直ニ審判ノ末引渡ヲ行ヒタル例アルコトヲ述ヘタルニ依リ松平書記官ハ右ハ香港政庁ニ於テ審理ノ結果有罪ト認メタル点ニ於テ陳其美ニ関スル本件トハ異リ居ルノミナラス香港ニ於ケル犯罪人引渡ニ関シテハ英支兩國間明ニ条約上ノ規定アル旨指摘シタルニ曹次長ハ大連租借地ニ関シ清露間ニ此ノ如キ取極ナカリシヤ取調フヘキ旨申居リタルニヨリ同書記官ハ自己ノ関スル限り此ノ如キ規定ノ存在ヲ知ラサル旨ヲ述ヘタルニ同次長ハ我方ノ主張ハ充分了解シ且ツ節略撤回ニ関スル友誼の注意ハ謝スル所ナルモ一旦發送ヲ了シタル公文ヲ撤回スルコトハ形式上困難ナルヲ以テ右節略ニ對シテハ公使館ヨリ回答ヲ發セラル、ニ及ハス其儘留置セラル、コト、致シ度旨申述ヘタル由ニ有之候然ルニ其後兩三日ヲ經曹次長本使來訪ノ節重ネテ何トカ引渡ノ途ハ有之間敷哉租借地ハ日本ノ本土トモ性質ヲ異ニスル故若シ日本ニ於テ好意アラハ強テ引渡出來難キコトニモ

アラサルヘシト懇願シタルニ付本使ハスル問題ニ関シ租借地ノ Status ヲ論スルヲ好マス日本ハ毫モ陳其美ヲ保護スル考ナキノミナラス出来得ヘクハ支那ノ希望ニ応シタキモ国際間ニ於ケル帝国ノ面目ヲ傷クルカ如キ処置ハ取り得サル次第ニ付此儀ハ承諾シ兼ヌル旨ヲ述ヘ置候右ノ次第ニ付本使ハ先方ヨリ更ニ何等申出ナキ限り回答ヲ發セサル積ニ有之候間右様御承知相成度此段及報告候也

追テ坂西大佐ノ内報ニヨレハ袁總統ハ是ヨリ先キ同大佐ニ対シ陳其美ニ関シ常事犯ノ証拠奉リタルニ付日本政府ニ引渡ヲ求ムル積リナルカ如何アルヘキヤト尋ネタルニ付同大佐ハ尚取調フヘキモ引渡ハ実行到底不能ナルヘキ旨答ヘ置キタル由ニ有之旁以テ今回ノ要求ハ袁總統ノ命ニ出テタルモノト察セラレ候

(附屬書)

民國三年三月二日附外交部節略寫

陳其美引渡要求ニ関スル件

節略

准上海鄭鎮守使電稱據刺斃商務印書館經理夏粹芳及買書之夏廣仁兇犯王慶瑞供稱伊與夏粹芳並無宿仇實因陳其美主使

其美ヲ引渡シ当該裁判所ニ於テ審問処分ヲ得ル様商議セラレタシ云々トアリ查スルニ王慶瑞カ夏粹芳ヲ刺殺シタル件ニ就テハ尋問ノ結果陳其美ノ指囑ヲ受ケタルモノニ係レリトスレハ陳其美ハ即チ本件ノ教唆犯ニシテ王慶瑞ハ其実行犯ナリ各國ノ刑法ニ拠ルモ教唆犯ハ実行犯ト共ニ主犯タレハ其引渡ヲ請求シ以テ本国ニ於テ審問処分ヲ得セシムル様照会ニ及フヲ以テ当然トスル次第ナル処該犯人ハ目下逃レテ大連ニ在ルヤ又ハ日本ニ在ルヤ希クハ貴公使ニ於テ前述ノ次第查照ノ上其趣貴国政府及大連官憲ニ知照シ該犯人ヲ逮捕シ中国官吏ニ引渡シ審問処分ヲ得セシメラレナハ幸甚ノ至リナリトス

五〇四 三月十四日

在中国山座公使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

本邦及租借地ヲ革命党陰謀ノ策源地トナサン

メサル様上申ノ件

第二一二号

上海ニ於ケル殺人犯人自白ノ結果陳其美ノ教唆ニ係ル証拠挙リタルニ付常事犯トシテ引渡ヲ受ケタキ旨過般外交部ヨリ照会本使ハ仮令陳其美ニ常事犯ノ嫌疑アリトスルモ同人

一四 中国革命党関係者ノ動靜ニ関スル件 五〇四 五〇五

部下周棲雲轉令將夏粹芳刺死等情供認不諱所有指摹印口供並該犯會審公堂亦同一口供請商駐京各國公使將此案主使教唆要犯陳其美交出以便歸案訊辦等語查王慶瑞刺死夏粹芳既係詢由陳其美主使則陳其美爲該案教唆犯王慶瑞爲實行犯按照各國刑法教唆犯與實行犯同爲主犯自應照請引渡以便由本國訊辦該犯陳其美現在是否逃在大連抑在日本即請貴公使查照知照

貴國政府及大連官吏將該犯逮捕移交中國官訊辦實紉公誼

曹汝霖代

三月二日

(右和訳文)(註 在中國日本公使館作成)

覚書

上海鄭鎮守使ノ來電ニ接シタル処商務印書館經理人夏粹芳及ヒ書籍購求人夏広仁ヲ刺殺シタル犯人王慶瑞ノ口供ニ拠レハ該犯人ハ元來夏粹芳ト仇讎ノ關係アリタルニアラス其實ハ陳其美カ部下周棲雲ヲ使囑シ右周棲雲カ該犯人ヲシテ夏粹芳ヲ刺殺セシメタル次第ナリト自白シ其拇印シタル口供書アリ尚ハ該犯人ハ會審裁判所ニ於テモ同様ノ口供ヲナシタルニ付駐京各國公使ニ対シ本件指囑ノ重要犯人タル陳

ハ重大ナル政事犯ト見做サレ居ルノミナラス日支間ニ罪人引渡ニ関スル条約ナキニ付支那側ノ希望ハ原諒スル処ナルモ國際ノ通義トシテ之ニ応シ難キ旨ヲ答ヘ置ケルカ同人ハ現ニ大連ニ在リ其部下ヲ使囑シテ過般安東地方ニテ動乱ヲ起サント企テタル趣ナリ又本邦ニ在ル孫黃等モ其同志ヲ支那ニ密派シ白狼ト聯絡セルヤノ噂モアリ尠クトモ中央支那ニ於テ所謂第三革命ヲ起ス計画アルヲ疑ハシムルモノアリ支那新聞カ頻ニ書立テツ、アルハ勿論大總統令ニモ之ニ言及セリ然ルニ支那亡命者ニシテ聊カタリトモ帝國又ハ租借地ヲ支那ノ秩序ヲ紊スヘキ計画ノ策源地トナスコトアラハサラヌタニ彼等ノ本邦ニ在ルコトニ依リ極メテ不利益ナル影響ヲ被ムレル日支兩國關係ノ大局ニ益々障礙ヲ来スノミナラス本邦ヲ策源地トナサシメストノ迭次ノ声明ニ背反シ帝國ノ威信ニモ関スル次第ニ付十分御研究ノ上其証跡アルニ於テハ速ニ孫黃其他重立タル輩丈ナリトモ我國ヨリ立去ラシメラル、様致シタク又彼等ヲ幫助セル帝國臣民ニ対シテモ嚴重檢束ヲ加ヘラル、方可然ト思料ス委細公信

五〇五 三月十五日

佐藤関東都督府民政長官代理ヨリ
松井外務次官宛(電報)

七三九

一四 中国革命党関係者ノ動靜ニ関スル件 五〇六

革命黨員陳其美一行本邦向ケ出帆ノ件

秘第八二号

大連滞在中ノ革命黨員陳其美ハ戴天仇（変名木村藤吉）及ヒ山口順三郎ト共ニ本日出帆ノ台南丸ニテ内地ニ向ケ出発セリ

五〇六 三月十九日 佐藤関東都督府民政長官代理ヨリ
松井外務次官宛

陳其美一行ノ行動ニ関シ報告ノ件

附屬書 三月十五日附大連民政署長報告

陳其美一行出發其他ニ関スル件

民高警秘収第一九〇六号ノ一 （三月二十四日接受）

陳其美一行ノ行動ニ関スル件別紙及御報告候也

大正三年三月十九日

関東都督府民政長官代理 佐藤友熊（印）

外務次官 松井慶四郎殿

（附屬書）

写

大正三年三月十五日

大連民政署長報告

七四〇

陳其美一行出發其他ニ関スル件

陳其美ノ一行ハ本日午前十時出帆ノ台南丸ニテ陳ハ朱志新、戴天仇ハ木村藤吉ト変名シ山田純三郎ハ滿鉄社員トシテ本名ヲ名乗り内地ニ向ケ出發セリ而シテ一行ハ門司ニ上陸シ陳及山田ハ共ニ下ノ関ヨリ直ニ急行列車ニテ上京ノ途ニ就クヘク独リ戴ハ一行ト相別レ予テ内地ニ呼ビ寄セ置キアル其妻子ノ上海方面ヨリ来ルヲ出迎フヘク長崎ニ赴キ一週間位ヲ経テ上京スヘキ予定ナリト云フ

陳ノ一行出發ニ付其部下甯夢岩ノ一派ハ協議ノ結果首領株ナル甯夢岩、孫祥天、劉大目外二三名ハ日本内地滿洲各地及上海方面ニ在留セル同黨員トノ連絡ヲ執ル為引続キ当地ニ在留シ其他ハ一人ニ付金十五円宛ノ旅費ヲ給シ悉ク解散スルコトニ決シタル由ニテ不日左ノ如ク内地ニ向ケ出發スヘキ筈ナリト云フ

姚痴僧、牛幻成、柳天心、黃遺民、歐陽覺先、以上五名
行先地東京、

汪少卿、李銳方、陳致香、戴治安、趙雄群、葉挽瀾、以上六名、行先地上海、

王奎丸、甯桂廷、石玉書、劉丹孚、梁喜亭、劉子生、趙

魁臣、徐占元、彭春亭、以上九名、行先地哈爾濱、
李資君、孫百川、伍此伍、以上三名、行先地鉄嶺
劉中興、徐榮山、以上二名、行先地遼陽

陳其美カ出發ニ際シ同黨員ニ洩シタル所ナリト云フヲ探聞スルニ陳等ハ再ヒ事ヲ拳ケントスルノ計画ナルモ東三省ニ於テハ日本官憲ノ干涉ヲ受ケ到底其目的ヲ達スルコト不可能ナルニ付上京ノ上各首領ト相謀ノ上上海方面ヲ根拠地トシ本年九月頃迄ニハ必ス実行スヘキ旨ノ目論見ナリト云フ

山東省派ナル革命黨員邱不振ノ一派モ陳一行ノ出發ト共ニ不日夫々解散ノ上相当生業ニ就クヘク且下奔走中ナルカ如シ

五〇七 三月二十一日 在中国山座公使ヨリ
牧野外務大臣宛（電報）

革命党ノ陰謀ニ関与ノ日本退役軍人ニ付取調

方外交部員来館申出ノ件

第二二七号

昨日外交部員来館広東都督ヨリ孫逸仙陳炯明胡漢民鄧鑑朱執信洪兆麟等香港ニ来リ其党ヲラシテ資金ヲ携帯シテ広東

一四 中国革命党関係者ノ動靜ニ関スル件 五〇七 五〇八

ニ来リ各方面ニ手分ケシテ土匪ト連絡シ又軍警等ノ間ニ運動シテ事ヲ拳ケントノ計画ヲ為シ又四名ノ日本退役軍人アリテ広東ト香港トノ間ヲ往来シ踪跡常ナシ是等日本人ハ乱党ノ依頼ニ依リ双方ノ間ニ立チテ打合ヲ為スモノナリトノ電報ニ接シタルニ付取調ヘラレタキ旨申出タリ依テ孫逸仙胡漢民ハ本邦ニ亡命中ノ者ナルモ其他ハ嘗テ本邦ニ亡命シタルモノナルヤハ聞知セス又孫胡ノ二名ハ依然本邦ニ在ル筈ト承知シ居ル旨答ヘ置キタルガ事実御取調ノ上何等参考トナルヘキコトアラハ併セテ電報アリタシ

香港ニ電報シタリ広東ヘハ香港ヨリ郵報ス

五〇八 三月二十二日 警視庁ヨリ
外務省宛

孫文ノ動靜ニ関スル件

乙秘第六七七号 （三月廿三日接受）

一、昨廿一日午前八時四十分宮崎寅藏来訪会谈ノ上正午十二時十五分退出

一、午前八時五十分吉田某（菊地良一ノ紹介）来訪会谈ノ上正午十二時退出

一、午前八時五十五分菊地良一來訪会谈約五分間ニシテ退

七四一

出

一、午前九時五十分宋愛林（宋嘉樹ノ娘）ニ宛テ速達郵便一通發送ス

一、午前十時四十分菊地良一再ヒ來訪會談ノ上同正午十二時十五分退出

一、午前十時四十分陳其美、簡明、田桐ノ三名來訪會談ノ上、簡、田ノ兩名ハ午後二時陳ハ同六時四十分退出

一、午前十一時五十分劉文鈞來訪セシモ孫ハ面會セズ來訪中ノ田桐、孫ニ代ハリテ面會シ同十一時十二分退出

一、午前十一時十五分特使ヲ以テ林虎ニ封書一通發送ス

一、午後一時廿五分葛龐來訪會談ノ上同四時十分退出

一、午後二時宋愛林姉妹來訪同二時十分退出

一、午後二時五十分黃伯羣、同二時三十分方華興、余伯傑ノ兩名來訪共ニ會談ノ上、黃ハ同四時廿五分、華、余ノ兩名ハ同五時廿分退出

一、午後三時府下戸塚村光明館主ヨリ封書一通到着

一、午後三時三十分安健來訪孫及ヒ來訪中ノ陳其美ト共ニ會談ノ上同四時五十分退出

一、午後三時三十五分孫ハ人力車ニテ外出赤坂区新坂町山

本日開成立會奉定支部長徐蘇中 以上

一、午後六時三十分葉夏聲來訪孫不在ナリシヲ以テ陳其美ト會談シ孫ニ宛テ書面ヲ書置キ同九時退出

一、午後六時五十分丁仁傑、蕭定、鐘鼎ノ三名同七時十分夏述痕來訪シタルモ孫不在ノタメ來訪中ノ葉夏聲ニ面會シ夏ハ同七時四十分、丁、蕭、鐘ノ三名ハ同九時退出セリ

一、午後七時四十分劉文鈞、陳學政ノ兩名來訪シタルモ孫不在ノタメ即時退出セリ

一、午後十時五十分府下戸塚村字諏訪二三二、熊克祺ニ宛暗号電報一通發送ス

五〇九 三月二十四日 在広東赤松總領事代理ヨリ
牧野外務大臣宛（電報）

本邦人革命關係者ノ談話報告ノ件

第一〇号

公使宛第九号

今井總領事宛貴電第二号ニ関シ本官發大臣宛往電第七号所載乱黨嫌疑支那人同行者ニ本邦人松隈据吉ナル者アリ同人ハ元砲兵下士ニシテ在漢口小沢少佐ノ命ニ依リ広東広西ノ軍事視察ノ為メ來リタルモノナリト稱シタルモ同人ハ第二

一四 中国革命党關係者ノ動靜ニ関スル件 五〇九 五一〇

本条太郎（三井物産会社員）方ヲ訪問面會ヲナシ同四時四十五分帰宿セリ

一、午後三時四十分黃仲德、同三時四十分周談游來訪シタルモ孫不在ナリシヲ以テ來訪中ノ陳其美ニ面會ナシ兩名共同四時十分退出セリ

一、午後四時殷汝驪來訪陳其美ニ面會シ同五時五分退出

一、午後四時四十分王道來訪陳其美ニ面會シ同六時四十分退出

一、午後四時十五分宋愛林姉妹再ビ來訪孫ハ同四時五十分、宋姉妹ヲ伴ヒ梅屋庄吉方ヨリ差廻シタル自動車ニテ梅屋方ヲ訪問シタルモ主人不在ナリシヲ以テ同人ノ妻ニ面會饗応ヲ受ケ同七時三十分同家ヲ出デ前記ノ自動車ニテ大正博覽會場及淺草公園ニ行キ見物ヲナシ帰途宋姉妹ヲ神田区仲猿樂町九番地ナル自宅ニ送り届ケ同九時四十分帰宿セリ

一、午後五時廿五分江維華、周道万、巢広源ノ三名來訪シタルモ不在ナリシヲ以テ左記書面ヲ孫宛ニ書置キ退出セリ

江西支部代表江維華、周道万、巢広源、報告江西支部

革命ノ際江西軍中ニ在リタル關係モアリ今回モ恐ラク革命黨側ノ使命ヲ帶ヒ居タルナラント察セラル同人ノ談ニ依レハ孫逸仙胡漢民陳炯明ハ香港ニ在ラス林虎ノ弟香港ニ在リテ何事カ画策ヲ廻ラシツ、アリ李烈鈞ハ彼南ニ於テ岑春煊ト會見ヲ遂ケ雲南ニ入リタル筈ナリ又目下革命黨首領株ハ日本ニ在リ多数ノ浮浪ノ徒ニ金ヲ与ヘ支那各地ヲ攪乱セシメツ、アリ早晚第三革命ハ広東ヲ中心トシテ起ルヘシト松隈ハ説論ヲ加ヘ三月廿日当地発帰國セシメタルガ同人ノ友人ト稱スル者昨日香港ヨリ当地ニ來リ直ニ引返セリ竜濟光ハ近來革命黨ノ当地ニ入込ムモノ多キ為メ警戒ヲ嚴ニシ陳炯明以下十人ヲ懸賞ニテ捕縛方布告シタリ

大臣電濟香港郵送

五一〇 三月二十六日 小池政務局長ヨリ
在中国山座公使宛

孫文ニ関スル飯野吉三郎談通報ノ件

附屬書 大正二年九月十三日附孫文ヨリ精神団總裁飯野

吉三郎宛誓約書寫

（半公信、機密扱）

拝啓陳者目下出京中ノ樺太庁長官平岡氏過日小官ヲ來訪シ

予而孫文ト別懇ノ間柄ナル飯野吉三郎ノ同氏ニ対スル内話ノ要領ナリトテ語ル所ニ依レバ孫文ハ嘗テ飯野ニ向テ袁世凱ハ頻ニ皇帝タラムコトヲ熱望シ独逸モ之ヲ德憑シ居ル趣ナルガ自分ハ袁ニシテ飽迄共和ノ宗旨ヲ遵奉スルニ於テハ時宜ニ依リテハ相当援助ヲ与フルコトヲ辞セサル考ナルモ苟モ皇帝タラムトスルカ如キ野心ヲ有スル以上何処迄モ之ニ反対セサルベカラズト熱心ニ語リタルコトアリシガ孫ハ最近更ニ飯野ニ向テ在横浜米国宣教師 Loomin ナルモノ先般北京ヨリ帰来シ袁世凱ヨリノ伝言ナリトテ此際是非共自分ヲ國務總理ニ任命シタキニ付速ニ帰国ヲ希望スル旨内々申出タルガ袁ニシテ果シテ誠心誠意自分ヲ總理トナシ万事ヲ一任スルノ決心ナルニ於テハ從來ノ行掛ヲ水ニ流シ虚心坦懷之ニ応セサル次第ニハアラサルモ何分老獺ナル袁ノコトナレバ甘言以テ自分ヲ誘ヒ一身ニ危害ヲ加フルノ計画ニアラズヤト認メラレ仲々油断ナリ難キニ付不取敢 Loomin ニ対シ目下帰国ノ時機ニアラサル旨ヲ答ヘ置キタリト内話シタル趣ニ有之候

右ハ孫文ニ於テ何等為メニスル所アラムカ為殊更飯野ニ吹聴シタル次第ニアラズヤト認メラルルモ平岡氏ノ談ニ依レ

孫 文(印)

精神団總裁飯野吉三郎殿

五一 三月二十六日

大島神奈川県知事ヨリ
原内務 牧野外務両大臣宛

横浜駐在中国領事ヨリ在留同国人ニ注意書

配布ノ件

神高秘収第七九〇号

(三月二十七日接受)

大正三年三月二十六日

神奈川県知事 大島久満次

内務大臣 原 敬殿

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

支那領事官在留支那人ニ注意書配布ノ件

横浜駐在支那領事ハ兩三日前左記ノ如キ意味ノ注意書ヲ在留支那人間ニ配布致候本件ハ支那大總統ノ命ニ依リ駐日支那公使ガ同領事ヲシテ発セシメタルモノ、由ニ候条此段及報告候也

左 記

『前広東都督胡漢民、民政長官陳炯明ハ客年第二革命ノ當時広東省ノ公金悉皆(約三千万円)ヲ拐帶シテ海外ニ遁竄

一四 中国革命党関係者ノ動靜ニ関スル件 五一 五二

バ元来孫文ハ飯野ニ心酔シ居リ現ニ昨年九月別紙写ノ如キ誓書迄モ差入レアル間柄故万更虚言ニモ有之間敷トノ事ニ候間一場ノ物語トシテ聞込ノ儘茲ニ及御内報候 敬具

(附屬書)

写

誓 約 書

拙者儀今回支那ヲシテ真正安全ノ支那タラシメンコトヲ企画シ右実行ノ為メ貴団ノ御尽力ヲ仰キ候ニ就テハ爾今貴団ト一致協力以テ其發展ヲ図ルハ勿論更ニ貴団ノ御精神ノ存スル所ヲ尊重シ特ニ左ノ一項ヲ誓約仕候

一 右実行継続中ハ勿論其後ト雖トモ全然貴団ニ信頼シテ永久ニ日支両国間ノ親交平和ヲ図リ決シテ他外国ヲシテ擅ニ日支両国ノ国交ヲ損傷セシムルカ如キ事無カラシメ若シ政治上或ハ經濟上他外国ト提携セサルヲ得サルカ如キ場合ニ於テハ先ツ貴団若クハ貴団ノ指定セル代表者ニ此事ヲ通告シ其同意ヲ得タル上ニテ是ヲ行フコト

右誓約候也

大正二年九月十三日大日本東京ニ於テ

中華民國

セリ右ノ事實ハ其後財政部及司法部ノ精査ニヨリテ判明シタルモノナルガ猶彼等ハ多数ノ与党ト共ニ良民ノ膏血ヲ絞

リテ多クノ乱徒ヲ養ヒ時ニ或ハ金錢獲得ノ手段トシテロヲ軍器ノ購入公債募集等ニ藉リ無辜ノ同胞ヲ欺クヤモ計リ難ケレバ海外在留ノ同胞ハ宜シク彼等ノ奸計ニ陥ラサル様注意セヨ

以上ノ注意書ニ対シテ在留支那人中ニハ半疑半信ノ者モアレドモ多クハ注意書ニ依ル彼等ノ所為ヲ事實ト信ジ目下在留支那人間ニ喧伝セラレ居リ候

五一 四月三日

在中国山座公使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

平政院長ニ汪大燮任命セラレタル件

第二六五号

三月三十一日ヲ以テ平政院組織令ヲ公布シ汪大燮ヲ院長ニ任命セリ

平政院ニハ評事及肅正使ヲ設ケ行政訴訟ト行政官吏ノ違法収賄等ノ行為ヲ究察審理ス

委細郵便

一四 中国革命党関係者ノ動靜ニ関スル件 五一三 五一四

五一三 四月四日 在中国山座公使ヨリ
牧野外務大臣宛(電報)

張謇等閣員ノ移動ニ関シ報告ノ件

第二七八号

張謇南方出張中章宗祥農商總長兼任ヲ命セラレ段祺瑞帰京
復職シ周自齊ノ陸軍總長兼任ヲ解カレタリ

五一四 四月十七日 岡警保局長ヨリ
小池政務局長宛

中国留学生教育ノ私立学校ニ関シ取調ノ結果
報告ノ件

附記 五月四日附柴軍務局長ヨリ小池政務局長宛書信
浩然学舎ノ経営内容ノ件

警秘閣第二三四号ノ四 (四月十八日接受)

大正三年四月十七日

岡内務省警保局長(印)

小池外務省政務局長殿

支那留学生教育ノ為ニ設立シタル私立学校ニ

関シ取調ノ件回答

本月二日附政機密送第四一号ヲ以テ御照会越ノ支那留学生

ヨリ同五時マテノ四時間日本人ノミニテ教授シ居レリ
浩然廬(学舎ニアラス所在府下荏原郡入新井村大字新井宿
千二百六十六番地)

一、實際経営ノ局ニ当リ居ル関係者ノ氏名

實際経営ノ局ニ当リ居ル者ハ支那人殷汝驪(亡命者)
及日本人青柳勝重(予備陸軍大尉)ノ兩名ニシテ其他
支那人石介石、吳仲常、周哲謀、陳勇、日本人杉山良
哉、門馬福之進、一瀬斧太郎、江口良太郎、海原宏
文、青木繁、可児伍三郎、西川徳三郎等ノ十二名教授
ノ任ニ当リ居レリ

二、学校維持ノ方法

大正二年十二月一日ヨリ授業ヲ開始シ現在学生七十九
名ニシテ全部寄宿舎(合宿生活ニシテ五ヶ所ニ分宿シ
居レリ)一ヶ月食費其他一切ノ費用トシテ金十円ヲ徴
シ以テ維持費ニ充当シ居リテ不足額ハ在留支那人中ノ
有志ヨリ補助ヲ受ケ居レリ

三、学生ノ種類

学生ハ支那人ノミニシテ現在ノ学生中三分ノ一ハ支那
革命ニ参加シタル者ニシテ其他ハ一般支那留学生ナリ
一四 中国革命党関係者ノ動靜ニ関スル件 五一四

七四六

教育ノ為ニ設立シタル私立学校ニ関スル件ハ左記ノ通ニ有
之候条御諒知相成度

左記

政法学校(所在神田区錦町三丁目十番地東京工科学校内)

一、實際経営ノ局ニ当リ居ル関係者ノ氏名

實際経営ノ局ニ当リ居ル者ハ法学博士寺尾亨ナレドモ
其裏面ニ於テハ支那人黃興最モ深キ関係ヲ有シ居リ其
他李烈鈞、孫文等ヲ初メ亡命者中ノ重ナル者ハ何レモ
多少ノ関係ヲ有シ居ルモノノ如シ

二、学校維持ノ方法

大正三年二月九日授業開始現在生徒百八十名ニシテ一
ヶ月月謝六円ヲ徴シ以テ維持費ニ充当シ居リ尚不足ヲ
生シタル場合ニハ黃興等ニ於テ補助シ居レリ

三、学生ノ種類

支那留学生ノミナレトモ主トシテ支那亡命者及亡命者
ノ子弟ヲ教養シ居レリ

四、教育ノ方針及方法

政治経済法律学ヲ教授シ以テ法政ノ智識ヲ涵養セシム
ルヲ以テ方針トシ修業年限ヲ三ヶ年トシ毎日午後一時

四、教育ノ方針並方法

教育ノ方針ハ主トシテ日本軍事教育ヲ注入スルニ在リ
テ生徒ヲ甲乙ノ二班ニ分チ傍ヲ日本語法律政治経済学
及武術等ヲ教授シ居レリ

追テ本浩然廬ハ学校組織ト云フ程ニハ進ミ居ラズシテ修
学年限ノ如キモ未タ定マリ居ラズ又規則書ノ如キモ確定
シタル者ナシ

御参考迄政法学校簡章添付候也

註 政法学校簡章省略

(附記)

浩然学舎ノ経営内容ノ件

拝啓

過般御話有之候浩然学舎に關する別紙謀報御参考迄に御覽
に入れ候 敬具

五月四日

小池政務局長殿

柴軍務局長

(別紙)
写

七四七

中第五〇五号

支那亡命者等経営ニ関スル学校ノ件

東京府荏原郡入新井村字新井宿一、二六六番地ニ支那亡命者殷汝驤及予備騎兵大尉青柳勝敏等ノ経営ニ係ル浩然廬（通称浩然学舎）ノ内容左ノ如シ

一、本校ハ大正二年十二月一日ノ創設ニ係リ在京支那亡命者ニ対シ法制及軍事学武術等ノ教授ヲ為シ有事ニ際シ之ニ応スル目的ニシテ亡命者ノ機關学校ナリ
現在在學生七十九名アリ

二、本校創設ニ関シテハ其ノ黒幕ニ黃興、李烈鈞（同人ハ目下仏国ニアリ）等ヨリ彼等同志ガ日本ヘ亡命中空シク徒食スルモ不可ナリトテ必要ナル学科教授ノ目的ニテ創設セルモノナルガ學生中ニハ往々裏切ヲ為シ袁政府ニ対シ本校ノ状況ヲ窃ニ通知スルモノアリ其ノ結果袁ノ一派ニ於テハ同校ヲ暗殺学校ト目シ本校ノ存在ヲ恐レ居レリト

三、同校教官並ニ職員ノ氏名次ノ如シ

予備騎兵大尉	青柳勝敏
同	一ノ瀬斧太郎

名ナリ（何故偽名シ居ルヤ其原因不明ナリ）

以上ノ状況ニシテ現役軍人カ同校ニ出入又ハ支那亡命者等ト密会セシ等ノ事実ナシ

大正三年四月二十四日

五一五 四月十八日

在中国山座公使ヨリ
加藤外務大臣宛

中国革命党員処刑ニ関シ報告ノ件

公第一一五号

（四月二十七日接受）

大正三年四月十八日

在支那

特命全權公使 山座円次郎（印）

外務大臣男爵 加藤高明殿

革命党員死刑執行ノ件

先般順天時報社宅侵入事件ニ関連シテ捕縛セラレタル徐鏡心ハ他ノ革命謀叛者蔣定漢張子通林英鐘ト共ニ本月十四日朝陽門外ノ刑場ニテ軍政執法処ノ手ニヨリ銃殺セラレ而シテ軍政執法処ハ各案件ニ対シ三通ノ通告ヲ發表セリ右ニヨレハ蔣定漢ハ日本ノ留学生ニシテ東京ニ於テ俠義団ヲ組織シ今回支部組織ノ為メ北京ニ来リ其目的ハ軍隊ニ運動シテ

一四 中国革命党関係者ノ動靜ニ関スル件 五一五

同 歩兵大尉

中村又雄

同 中尉

杉山良哉

同 輜重兵特務曹長

門馬福之進

同 砲兵特務曹長

可児伍三郎

江口良三郎

海原宏文

西川徳三郎

支那人

石介石

同

吳仲常

同

陳勇

同

閻哲謀

四、維持方法トシテ學生ヨリ一ヶ月十円宛ヲ徴シ寄宿舎ニ収容セルモ維持困難ノ模様ナリ各教官並ニ職員連ハ将来ノ条件（革命軍勝利ノ暁ニハ相当ノ官ニ取立テ貰フ約束ニテ）ヲ保留シ無報酬ニテ勤メ居レリト

五、現役將校ガ同校ニ出入シ居ル風評ニ対シ内質セシニ右ハ全ク事實無根ニシテ前記在郷將校準士官ノ外出入又ハ間接ニ関係シ居ルモノナシ風説ノ山本大尉トハ一ノ瀬大尉、齋藤大尉トハ杉山中尉、江口大尉トハ中村大尉ノ偽

不軌ヲ謀ルニ在ルモノナル処四月六日京師一帶稽查処ノ手ニ捕縛セラレ又タ張子通ハ陳其美ノ部下ニ属シ先般河南ニテ捕縛死刑ニ処セラレタル閻子固等ノ一派ニテ上海ニテ鎮守使ノ手ニ捕縛セラレ北京ニ護送サレタルモノ其他徐鏡心林英鐘ハ順天時報社宅侵入事件ト関連シ邦人倉谷ト共ニ相前後シ段世垣、易孚謙ト共ニ北京ニテ捕縛セラレタルモノニ有之而シテ軍政執法処通告中ノ徐鏡心ノ罪状ヲ摘発スルモノ左ノ如シ

徐ハ武昌起義後芝罘独立ヲ宣シ民軍ヲ組織シ胡瑛ノ都督トシテ来着後濟南占領ト称シテ進兵シ黄県ニ至リ劫掠焚殺ヲ恣ニシ即チ民軍ノ美名ニ仮リテ盜賊ノ挙動ヲ為シタルモノ也去年議員トシテ来京スルヤ旧識ノ日本人倉谷ト同居シテ其保護ヲ受ケ第二革命ニ南方ト通シ後チ新同盟会成立スルヤ東京ト暗ニ通謀シテ白狼ト合従シ其軍器ヲ供給セント亦タ倉谷ニ托シテ処理セシメ三月初ピストル十挺ヲ得タルモ彈藥取揃ハサリシ内日本人ト同時ニ捕縛セラレタルモノナリ

云々ト有之而シテ相関連シテ捕縛セラレタル段世垣ハ固ト元ト同罪死刑ニ処ス可キ筈ナルモ当人ハ前敵ニ赴キ功ヲ図

一四 中国革命党関係者ノ動靜ニ関スル件 五一六

リ罪ヲ贖フヲ希望スルニヨリ刑ノ執行ヲ免スト云フニ有之
元來段ハ梁士詒ノ推薦ニヨリ總統府秘書タリシ關係ヨリ其
間周旋尽力ノ結果此特典アリシモノト推測セラル
右為御參考及報告候也

本信写送附先関東都督、在芝罘領事

五一六 五月一日 在中国山座公使ヨリ
加藤外務大臣宛

漢字新聞所載ノ白狼ニ関スル中国革命亡命者

會議記事ノ件

公第一四三号 (五月八日接受)

大正三年五月一日

在支那

特命全權公使 山座円次郎(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

四月廿七日發行ノ半官報北京日報以下各種ノ漢字新聞ハ同
文ヲ以テ「乱党ト白狼ノ關係會議」ト題シ左ノ記事ヲ掲載
セリ

北京官場中ノ人頃ロ日本東京ノ報告ニ接セリ云ク日本ニ
潜居スル乱党領袖ハ白狼ノ西安ヲ犯サントスル消息ヲ聞

七五〇

キ東京青山南町五丁目日本人島田正一宅ニ二回ノ會議ヲ
開ケリ第一回ハ胡經武(胡瑛)主席シ第二回ハ何海鳴主
席セリ其結果左ノ如シ

(一)白狼軍カ目的地ヲ攻破シ永久佔守ノ計ヲ為スニ至ラサ
ル以前ハ白軍ニ投入スルモノ及ヒ白軍現役者ハ掠奪勝
手タル可ク軍紀兵制編成ヲ以テ束縛ス可カラサル事但
シ平時及戰時共白元帥ニ反抗シ又ハ退避スルモノハ斬
殺ス可シ

(二)白軍カ各省ニテ義旗ヲ挙げ商港又ハ省城二三ヶ処ヲ佔
領スルニ至ル迄ハ到ル処精壯ヲ収集シ現銀兵糧軍器ヲ
徵納ス可ク久踞シテ敵軍ノ目標タル可カラス

(三)白軍ハ応サニ重兵ヲ備ヘ西安太原ノ間ニ在リ各省ノ義
旗ヲ挙げ省城或ハ名邑數ヶ処占領スルヲ俟ツテ速ニ陝
西ヲ攻メ西安省城ヲ堅守シテ根拠地トシ兵ヲ分ツテ四
川ノ資財ヲ掠奪シ更ラニ兵ヲ分ツテ貴州ニ至ル可シ蓋
シ貴州ノ新軍ハ統帶者ト結怨甚タ深く官長ハ都テ已ニ
新同盟会ニ投入シタレハ貴州ノ兵力及ヒ其軍器ヲ利用
ス可ケレハナリ

ト有之右ハ北京官場中ノ人ノ接到セル東京報告ト云ヒ同文

ヲ以テ各新聞一律ニ掲出セラルルヲ見レハ其出処用意モ自
ラ推知スルニ足ル可ク特ニ會議地ノ番地姓名迄指摘シアル
ヲ見レハ少クトモ何等形迹アル事トモ存セラレ候条御参考
迄及報告候間可然御取計相成度候也

註 島田正一ニ関シ欄外ニ「戴天仇ノコトナルベシ」トノ記入
アリ

五一七 五月一日 在中国山座公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

民国約法公布及徐世昌國務卿ニ任命ノ件

第三五三号

五月一日中華民國約法公布セラレ要領別電^(世)ノ通り又同日徐
世昌國務卿ニ任スル旨ノ大總統令發布セラル

註 別電省略

五一八 五月二日 在中国山座公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

國務院官制廢止及大總統府ニ政事堂設置ノ件

第三六一号

五月二日大總統令ヲ以テ約法第三十九条ニ大總統ハ行政ノ
首長トナリ國務卿一人ヲ置キ協襄セシムトアルニ依リ國務
一四 中国革命党関係者ノ動靜ニ関スル件 五一七 五一八

院官制ハ之ヲ廢止スルコト并ニ右ノ結果トシテ大總統府ニ
政事堂ヲ設ケ從來中央及地方ノ各官衙ヨリ國務總理ニ呈報
セル事件ハ今後ハ總テ大總統ニ宛テ呈報スヘキコト發布セ
ラル

五一九 五月四日 在中国山座公使ヨリ
加藤外務大臣宛

中国約法發布ノ結果政府改組ニ付報告ノ件

公第一四六号 (五月十一日接受)

大正三年五月四日

在支那

特命全權公使 山座円次郎(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

五月一日約法公布ノ件ハ不取敢及電報置候通りニ有之右ニ
対スル結果トシテ約法第三十九条ニ依リ國務院官制ヲ廢シ
又約法第五章ニ行政ハ大總統ヲ以テ首長ト為スノ規定ニ依
リ大總統府ニ政事堂ヲ特設シ改メテ國務卿以下内閣員ヲ任
命セルコト左ノ如シ

國務卿 徐世昌

政事堂左丞 楊士琦(大總統秘書)

五一九

七五一

同 右丞 錢能訓（前内務次官）
外交総長 孫宝琦
内務総長 朱啓鈴
財政総長 周自齊
陸軍総長 段祺瑞
海軍総長 劉冠雄
司法総長 章宗祥
教育総長 湯化竜（前衆議院議長）
農商総長 張 謇
交通総長 梁敦彥（前外交総長）
右ノ内農商総長張謇ハ目下導淮水利事業ニ関シ南下中ニ付從來ノ通り章司法総長ニ兼任セシメ尚前記國務員交迭ニハ外間ニ於テ種々臆測シタル所アリ最モ著目セルハ梁士詒ノ進退ニシテ梁カ交通総長ニ就任スヘキコトハ殆ント已定ノ事實ナルカ如ク伝ヘラレタルモ同人ハ自カラ其難局ニ当ルヲ避ケ其同郷ノ關係ヨリ其願使ニ甘スヘキ梁敦彥ヲ交通総長ニ推薦シ自分ハ黒幕内ヨリ操縦スルノ魂胆ナリトノ新聞記事モ有之候処從來外交総長孫宝琦ノ兼務タリシ稅務処督弁ノ地位ヲ以テ梁士詒ニ与ヘタルカ如キハ幾分此間ノ消息

ヲ漏スモノカト被推測候要スルニ今回國務員ノ任命ニ関シテハ此際大變更ナカリシモ將來ニハ漸々移動ヲ見ルヘキハ自然ノ趨勢ナルヘシト存候右ニ関スル大總統令一併供御閱覽候也

註 關係大總統令省略

五二〇 五月六日 在中国山座公使ヨリ
加藤外務大臣宛

大總統府政事堂設立ニ関スル組織令ニ付報告
ノ件

公第一五〇号 （五月十四日接受）

大正三年五月六日

在支那

特命全權公使 山座円次郎（印）

外務大臣男爵 加藤高明殿

中華民國約法發布ノ結果國務院ヲ廢シテ大總統政事堂ヲ設ケ別紙ノ通り政事堂組織令ヲ發布セラレ且ツ右所屬各局所ニハ已ニ左記ノ如ク夫々任命セラレタリ

國務卿 徐世昌

政事堂左丞 楊士琦（前總統府秘書）

同 右丞 錢能訓（前内務次長）

法制局長 施 愚（約法會議秘書長ニ在職中ニ付同人就任スルマデ參事張名振ヲシテ臨時代理タラシム）

機要局長 張一磨（前總統府秘書）

銓叙局長 夏寿康（前ノ通り）

主計局長 吳廷燮

印鑄局長 袁思亮（前ノ通り）

司務所 吳笈孫

政事堂參議（定員五名） 林長民（前衆議院秘書長）

同 金邦平（前清資政院秘書長）

同 伍朝樞

同 方 樞

同 郭則澐

國務院秘書所ニ屬セル官吏ハ一般ニ休職トシ漸々他ノ官職ニ採用セラル、筈ニシテ又從來國務院ニ隸屬セル蒙藏事務局ハ更ニ蒙藏事務局ト改メ其總裁ハ貢桑諾爾布副總裁熙彥ハ從前ノ通りナリ
右及御報告候也

（別紙）

教令第五十七号

大總統府政事堂組織令

第一条 大總統為統一行政於大總統府設政事堂

第二条 政事堂以左列各局所組織之

法制局

機要局

銓叙局

主計局

印鑄局

司務所

第三条 各局所之官制另定之

第四条 政事堂依約法設國務卿一人贊襄大總統政務

第五条 國務卿承大總統之命監督政事堂事務大總統

發布之命令國務卿副署之

第六条 政事堂設左右丞贊助國務卿与聞政事

第七条 政事堂設職員如左

局長 五員

參議 八員

所長 一員

第八条 各局長管理本局事務監督所屬職員

第九条 政事堂參議審議法令

第十条 所長管理庶務

第十一条 各局所應設參事僉事等員職掌以各局所官制定之

第十二条 本令自布日施行

五二一 五月十六日 松井外務次官ヨリ
伊沢警視總監宛

戴天仇、陳其美ノ変名ニ付問合ノ件

政機密送第三〇号

本件ニ関シ五月十三日附政送第三三九三号ヲ以テ及御通報置候処五月十四日附貴信乙秘第九五六号ヲ以テ島田正一トハ陳其美ノ変名ナル旨御回示ノ次第有之候得共右島田正一ナル変名ハ客年戴天仇本邦亡命ノ砌使用シタルモノナルコトハ同年九月廿九日附高秘第五九五三号山口県知事報告書ニ依リ承知致居候ノミナラス同年十月一日貴庁ニテ調査セラレタル在京亡命支那人名簿ニハ戴天仇ノ宿所ヲ赤坂区青山南町五ノ四五山田方ト記載シアリ恰モ今回支那新聞所報ノ会議ノ場所ニ符合シ居リ旁々戴天仇ハ今以テ島田正一ト変名シ居ルニアラスヤト被存候ニ付為念更ニ御調査ノ上何

変名ヲ使用シ居リ候条此段申添候也

五三三 六月三日 在紐育飯島總領事ヨリ
加藤外務大臣宛

「ロックヒル」氏ノ中国ニ関スル報告書大意

報告ノ件

公第九二号 (七月十八日接到)

大正三年六月三日

在紐育

總領事 飯島龜太郎(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

支那ノ将来ニ対スル「ロックヒル」氏ノ報告

ニ関スル件

最近「ロックヒル」氏 (W.W. Rockhill) ガ亜細亞協会 (Asiatic Institute) ニ致シタル支那ニ関スル第一回報告書大意次ノ如クニ候

「大總統袁世凱氏ノ政策ハ主トシテ平和秩序ノ維持及政府ノ權威ニ対スル国民信念ノ回復ヲ計リ徐ロニ支那国民刻下ノ必要ニ応シ且ツ其過去ノ文明ト其国民の特性トニ適合スヘキ穩健ニシテ實際のナル改革ヲ行フニアリ即チ

一四 中国革命党関係者ノ動靜ニ関スル件 五三三

分ノ義御回示相煩度此段申進候也

五二二 五月二十日 伊沢警視總監ヨリ
松井外務次官宛

戴天仇、陳其美ノ変名ニ関シ回報ノ件

丙秘第二二三号 (五月二十日接受)

大正三年五月二十日

警視總監 伊沢多喜男(印)

外務次官 松井慶四郎殿

本月十六日政機密送第三〇号ヲ以テ御照会ノ白狼ニ関スル支那亡命者會議ニ関スル件中戴天仇ノ変名ニ関スル件ハ御照会ノ通り客年十月一日当庁ニ於テ調査シタル亡命支那人名簿ニ戴天仇ノ宿所ヲ赤坂区青山南町五ノ四五、山田方トナシアルハ当時同人ハ青山南町五ノ四五、山田純三郎(日本人ニシテ三井物産会社員)方ニ宿泊シ居リシヲ以テナリ又戴天仇ハ客年九月二十八日入京以來島田正一ト変名セシコト無之同人ハ入京以前ヨリ角田正一ト変名シ居リ候条此段及回報候也

追テ島田正一ハ本月十四日乙秘第九五六号ヲ以テ及内報シ如ク陳其美ノ変名ニシテ同人ハ此外尚ホ高野英一等ノ

農工商等産業ノ助長發達ヲ計リ且之ニ必要ナル教育並ヒニ国民ヲシテ代議機關ヲ有スル立憲の近世国家ノ人民タルノ權利義務ヲ覺知セシムヘキ一般教育ノ普及ニ力ムルカ如キ是ナリ」ト述べ次ニ現今ノ政治的動揺ニ伴ヘル經濟上ノ危險ハ其責ヲ列強ニ帰セサルヘカラス蓋シ徒ラニ目前ノ実利ノ獲得ニノミ吸々タル此等ノ列強ハ支那目下ノ形勢ヲ以テ乘スヘキ好絶ノ機會也トナシツ、アレハナリト説キ「若シ此等ノ列強ヲシテ飽ク迄其政策ヲ遂行セシムルニ於テハ支那ガ如何ナル政府ヲ戴クヲ問ハス其政府ノ地歩ト權威トヲ減退セシメサレハ止マサルヘク支那ノ永遠真実ナル進歩ハ全然望ミ難キニ至ルヘシ」ト述べタル末此等列國ノ或者ノ政策ヲ以テ之ヲ商業上ノ見地ヨリスレハ頗ル短見ニシテ政治的の見地ヨリスレバ甚タ危險ナルモノナリトナシ此種ノ政策ハ結局多数ノ人士ガ衷心ヨリ希望シツ、アル国内及國際ノ平和ヲ破ルモノナリトナセリ而シテ支那ノ政治的の将来ニ対シテハ近頃支那大總統ノ憲法顧問ヲ辞シ「ジョンズホプスキンス」大学総長トナレル「フランクシェーグッドノー」氏ノ覺書ノ一節ヲ引用セリ即「支那ガ過去二千六百年間ニ屢々其政府ヲ變

更シタルニモ拘ラズ好ク拉丁亜米利加ニ於ケルカ如キ弊害ヲ免レ得タル所以ノモノハ一ニ專制君主国制度ヲ維持シタルニヨラサルヘカラス然ルニ今ヤ支那ハ一朝ニシテ古来ノ伝習ヲ抛チ共和政体ヲ樹立シ然カモ夫レ何等ノ抛ルヘキ經驗ヲ有セサルノミナラズ其根柢タルヘキ議會ヲダニ有セズ恰カモ西国ノ羈絆ヲ脱シタル當時ノ拉丁亜米利加諸國ノ状態ト異ナルナク支那自身モ自然彼等ノ經驗ニ倣ヒツ、アリ従テ支那ハ向後ト雖モ依然トシテ一時的專断執政者ヲ続出セシメ此種執政者ノ更改ニ伴フ総テノ流弊ヲ甘受スルカ若シクハ其国情ニ適合セル或ル種ノ代議政体ヲ採用スルカ二者其一ヲ選ハサルヘカラサル地位ニアルモノニシテ換言スレハ武力ノ外何等政權繼承ノ定法ヲ有セサル武断の專制政治即終局ニ於テ一国ニトリ弊害最モ多カルヘキ政治ヲ採用スルカ將又或種ノ議會政治ノ制ニ則ルカヲ決定セサルヘカラサル岐路ニ立テルモノト云ハサルベカラズ而カモ若シ其撰定ニシテ正路ヲ誤ラス幸ニシテ代議政体採用ト決セハ吾人ハ先其容易ナラサル事業ニシテ且急速ニ其成功ヲ期待シ難キヲ覺悟セサル可ラス云々」トノ所論ヲ援用シタル後「ロッキヒル」氏

ハ更ニ説テ曰ク「ヨシ支那財政ノ微弱ヲ以テスルモ斯クノ如キ天恵裕カニシテ勤勉ナル人民ヲ有スル邦国ガ其原因明白ニシテ且充分匡正ノ途アル現今ノ困難ノ為メ一時的トアラハ知ラス引続キ困窮スヘキ所以アルヲ知ラサルナリ」支那ハ客年六千哩ノ鐵道ヲ建設スルタメ外国商社ト契約ヲ締結シ而カモ其關稅收入ハ一九一二年ノソレヲ超ユルコト三百万弗ニシテ同国未曾有ノ巨額ニ上リタルニアラスヤ云々ト述ヘ更ニ軫シテ大總統袁世凱ニ関シテハ「其意思ノ存スル所正直ニシテ且ツ彼ヲ措テ他ニ支那ヲ救済スヘキ人士ナキヲ信シテ彼ノナシツ、アル総テノ措置施設ノ成果ガ彼ノ採リタル手段方法ヲ正当ナルモノタラシメン事ヲ望ム」ト述ヘ居候

右御參考迄御報告仕置候 敬具

五二四 六月六日 松井外務次官ヨリ
下岡内務次官宛

亡命中国人ノ動靜報告振ニ関シ注意喚起ノ件

政機密送第六〇号

要視察支那人動靜報告振ニ関スル件

客年孫黃等亡命以來要視察支那人ニ付隨時地方庁ヲシテ報

告セシムルコトト相成居候処地方ニ依リテハ苟モ支那人ト見レハ其身分職業ノ如何ヲ問ハス一々嚴密視察ノ上細大漏サス報告スル向モ有之右ハ密ニ事務ノ煩雜ヲ来スノミナラス之カ為自然商業又ハ學術研究ノ為往来スル一般支那人ニ不快ノ感想ヲ与フルカ如キコト之ナキヤト懸念被致候然ルニ当省ニ於テ承知致シタキハ孫黃等所謂革命派ニ属スルモノヲ始メトシテ専ラ政治的色彩ヲ帶ヒタルモノノ言動ニ止マル次第ニ付為念此際貴省ヨリ關係地方庁ニ対シ支那人ニ関スル視察報告上自今相当手心ヲ用ユル様御内達相成候様致度依命此段及照会候也

五二五 六月十六日 警視庁ヨリ
外務省宛

孫文ノ動靜ニ関スル情報報告ノ件

附屬書 中華革命党總章

乙秘第一一一九号 (六月十六日接受)

孫文ノ動靜

一、昨十五日午前七時宋嘉樹來訪會談ノ上同八時三十分退出、同九時三十分再來訪同十時廿分退出、午前九時廿分宋愛林、姉妹來訪會談ノ上同十時三十分退出ス

一四 中国革命党関係者ノ動靜ニ関スル件 五二五

午前十時三十分孫ハ腕車ニテ外出築地高橋齒科医院ニ行キ治療ヲ受ケ帰途胃腸病院ニ陳其美ヲ訪問シ午後一時廿分帰宿セリ
午後一時三十分徐忍茹、劉太峰ノ兩名來訪會談ノ上同二時三十分退出ス
午後二時四十分陳其美來訪革命党本部ノ設立并ニ組織、役員ノ選舉、黨員ノ總會等ノ件ニ付キ協議ヲナシタルモノ、如クシテ同五時廿分退出セリ
午後三時十五分夏重民來訪印刷物五十余部ヲ孫ニ渡シ即時退出ス
午後三時三十分劉玉山、劉屹ノ兩名來訪會談ノ上別記ノ中華革命党總章、約二十部ヲ受取り同三時五十分退出ス
午後四時五十分蔡奎祥來訪會談ノ上同五時十分退出ス
午後五時十分丁仁傑、曹亞伯ノ兩名同六時廿分葉夏声、同六時三十分夏重民再來訪同席會談ノ上、丁、曹ノ兩名ハ同六時五十五分、葉、夏ノ兩名ハ同九時五十分退出ス
追テ孫ハ夏重民退出ノ際同人ヲシテ前記革命党總章ヲ約十部位宛ヲ桑港、新嘉坡、檳榔嶼、布哇、「ホノル

ル」等ノ各所ニ郵送セシメタリ

午後三時五十分南洋檳榔嶼ナル某ヨリ封書一通、及相州
鶴沼寄ト記シタ信書一通到着セリ

前記革命党本部ニ関スル件ニ就テハ目下内偵中ニ有之
候条此段申添候也（以上）

（附屬書）

中華革命黨總章

一、本黨名曰中華革命黨

二、本黨以實行民權民主兩主義爲宗旨

三、本黨以掃除專制政治建設完全民國爲目的

四、本黨進行秩序分作三時期

（一）軍政時期

此期以積極武力掃除一切障礙而奠定民國基礎

（二）訓政時期

此期以文明治理督率國民設地方自治

（三）憲政時期

此期俟地方自治完備之後乃由國民選舉代表組織憲法

委員會創制憲法憲法頒布之日即爲革命成功之時

五、自革命軍起義之日至憲法頒布之時名曰革命時期在此時

期之内一切軍國庶政悉歸本黨負完全責任力爲其難爲同
胞造無窮之幸福

六、凡中國同胞皆有進本黨之權利義務

七、凡進本黨者必須以犧牲一己之身命自由權利而圖革命之
成功爲條件立約宣誓永久遵守

八、凡黨員須納入黨費十元每年捐一元於本部惟前時曾致力

於革命及現在爲革命奔走者悉免其有額外義捐鉅資者照
事前籌餉章程辦理

九、每黨員至少須介紹新一人方完義務其有於革命軍起義之
前介紹新進百人者記功一次千人者記大功一次照酬勲章
程辦理

十、凡黨員有背黨行爲除處罰本人之外介紹人應負過失之責

十一、凡於革命軍未起義之前進黨者名爲首義黨員於革命軍
起義之後革命政府成立以前進黨者名爲協助黨員凡於革
命政府成立之後進黨者名曰普通黨員

十二、革命時期之内首義黨員悉隸爲元勲公民得一切參政執
政之優先權利協助黨員得隸爲有功公民能得選舉及被選
權利普通黨員得隸爲先進公民享有選舉權利

十三、凡非黨員在革命時期之内不得有公民資格必待憲法頒

布之後始能從憲法而獲得之憲法頒布以得國民一律平等

十四、凡有功於本黨或曾在本黨人員之麾下服務一年者雖照

第七條之手續進黨若得黨員十人之保證可補立誓約請本
部追認爲首義黨員得享元勲公民之權利

十五、本黨公舉總理一人協理一人

十六、總理有全權組織本部爲革命軍之策源協理補助之或代
理之

十七、本部各部長職員悉由總理委任

十八、各地支部長由各地黨員推荐總理委任

十九、本部之組織如左

一 總務部

二 黨務部

三 財政部

四 軍事部

五 政治部

廿、每部任部長一人副部長一人職務長若干人職務員若干人
廿一、總務部之職務如左

一 總務部庶務

二 接洽內地支部

一四 中国革命党関係者ノ動靜ニ関スル件 五二五

三 接洽海外支部

四 製管公文符印

五 交涉黨外事宜

六 辦理不屬他部之事

廿二、黨務部之職務如左

一 主盟新進

二 存管誓章冊籍

三 調查黨員履歷

四 招待外賓

五 傳布宗旨

廿三、財政部之職務如左

一 管理黨中度支

二 接收支部黨員義捐

三 籌集事前款項

四 規定因糧方法

五 計畫事後財政

廿四、軍事部之職務如左

一 物色並培育將才

二 調查各省敵情

一四 中国革命党關係者ノ動靜ニ関スル件 五二五

三 計畫作戰

四 運動敵軍

五 調查並購製武器

六 籌備軍政

廿五、政治部之職務如左

一 物色並培育政才

二 籌備中央政府

三 規畫地方自治

四 審定建設規模

廿六、凡屬黨員皆有贊助總理及所在地支部長進行黨事之責

故統名之曰協贊會分爲四院與本部並立爲五使人人得以資其經驗備爲五權憲法之張本其組織如左

一 立法院

二 司法院

三 監督院

四 考試院

廿七、協贊會々長一人副會長一人由總理委任各院々長由黨員選舉但對於會負責任

(說明) 所以由總理委任會長副會長者爲統一黨務起

卅一、考試院之職務如左

一 考驗黨員才幹而定其任事資格

二 調查職員事功而定其勲績

三 籌備考試院之組織

卅二、支部爲各地之自治團體得自行議立章程請本部批准並

推荐支部長請本部總理委任

卅三、支部長得便宜行事派委人員在其附近地方設立分部而

直接轄之

卅四、分部發達至萬人以上者能自立爲支部直接受本部統轄

卅五、凡國內及海外各種政治組合及愛國團體人數過萬有欲

歸屬本黨有須照章寫立誓約繳入黨捐使得爲本黨支部

卅六、國內支部專事實行海外支部專事籌擬所事雖異而成效

無別故於革命成功之日國內海外各支部同一享參政之權利

卅七、革命政府成立之後每支部得舉代表一人以參預政事組

織國會並各種補助機關以助政府之進行

卅八、各支部皆有權推荐人材政府當量才從優器使

卅九、本黨總章之修改須由立法院之提議得本部職員及協贊會職員三分之二之決可乃得修改之

見若成立政府時當取消正副會長則四院各成獨立之機關與行政部平行成爲五權並立是之謂五權憲法也

廿八、立法院之職務如左

一 創制各部規則

二 提議修改總章

三 批准支部章程

四 籌備國會組織

廿九、司法院之職務如左

一 裁判各部或職員衝突

二 裁判黨員之爭執及處罰事宜

三 裁判各部分部之衝突

四 籌備司法院之組織

卅、監督院之職務如左

一 監察黨務進行

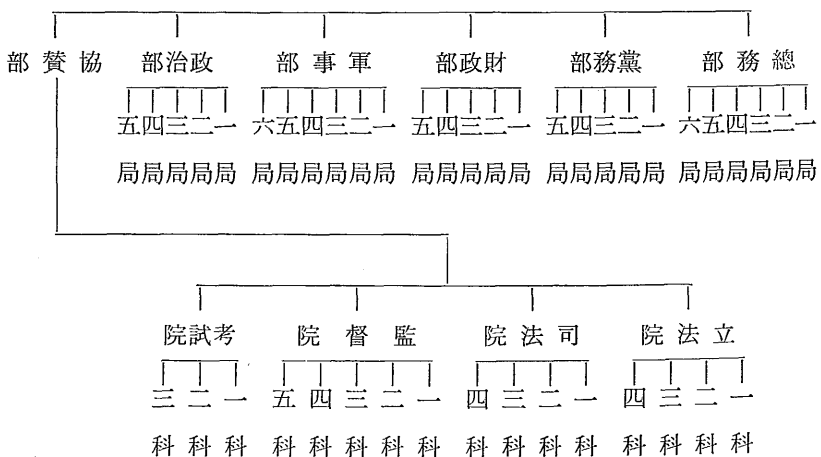
二 責備職員服務

三 察視黨員行爲

四 稽查黨中賬目

五 籌備監督院之組織

組織表
總理
協理



五二六 六月十七日 在中国小幡臨時代理公使ヨリ
加藤外務大臣宛

上海ニ於テ革命党機関捕獲ニ関スル大總統令

要旨報告ノ件

公第二一一号 (六月廿五日接受)

大正三年六月十七日

在支那 臨時代理公使 小幡西吉(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

近來民国地方各省ニ於テ革命機関ノ破獲黨員捕縛ノ報道ハ頻見迭出日トシテ之レナキハナク此間或ハ当該官員等カ自己ノ功迹ヲ眩耀センカ為メ故ラニ誇大ノ報道ヲ為スノ嫌モ有之処六月十六日政府公報公布ノ十五日附大總統申令大要ニ曰ク

上海鎮守使鄭汝成ノ報告ニヨレハ五月三十日夜間北ノ巡警ハ乱党陳喬蔭王錦三ノ二名ヲ捕縛シ並ニ小沙渡ニアル機関部ヲ破獲シ孫文ノ偽告示軍器炸藥鐵道破壞器械等ヲ発見セリ陳喬蔭ノ口供ニ依レハ廖轟ノ紹介ニヨリ蔣介石即チ子卿ナルモノヲ認識シ此度ノ謀乱ハ蔣カ孫文ヲ代表シテ一切ヲ主持スルモノニテ自分ハ第一部隊長トナリ潭

子灣小沙渡曹家渡梵王渡一带(共ニ上海中附近一带ノ地名ナリ)陳榮廷ハ第二部隊長トナリ真茹(上海附近)一带ヲ引受ケ警察攻撃ニ当リ何元竜ハ第三部隊長トナリ鐵道電信ノ破壞汽車ヲ襲撃シテ南京送付ノ金額ヲ掠奪スヘク其夜十一時放火事ヲ起シ宝山海門ヲ襲攻スル筈ナリ又王錦三モ第一部ノ排長ヲ引受ケタルコトヲ自白セリトテ其処置方ヲ申出来レリ去年七月上海南京ノ乱逆首孫文等党羽ヲ分遣シ無頼ヲ招集シ軍隊ヲ誘惑シ期ヲ約シ事ヲ挙ケ敗耗ヲ聞イテ首先遁逃シ地方ヲ浩劫ニ遭ハシム中外商民ノ痛憤スル所ナリ茲ニ又決死党ヲ遣ハシ匪徒ヲ糾約シ送銀ヲ掠奪シ鐵道電信ヲ破壞シ地方ヲ佔拠セント謀ル其盜賊ノ行為ハ全国人民ノ共ニ棄ツル所陳王二名ハ立ロニ法ヲ正シ逃走ノ蔣介石即チ蔣子卿廖轟陳榮廷何元竜ハ各省都督巡按使統兵長官ニ命シ一体ニ敵拿セシム云々

ト有之候然ルニ先是六月十五日ノ当地黃鐘日報ハ「孫文將ニ日本ヨリ逐ハレントス」ト題シ上海通信ナリトテ記載スル所ニヨレバ
上海鄭鎮守使ハ江蘇都督ノ令ヲ奉セルニ北京統率辦事処ノ電報ニ東京電トシテ載スル所ニヨレバ大隈總理ハ人ヲ

五二七 六月十九日 加藤外務大臣ヨリ
在中国小幡臨時代理公使及在上海有吉在香港今并各總領事宛

本邦以外ニ在ル中国革命党人名表送付ノ件

附屬書 右中国革命党人名表

政機密送第一八一号(北京宛)

機密送第三八号(上海宛)

機密送第六号(香港宛)

各通

本邦以外ニ在ル重ナル支那革命党人名表別紙ノ通り作成致候間御参考迄茲ニ及御送付候尚右ハ地方庁ノ報告等ヲモ参照シタル次第ニ付事実相違ノ廉無之ヲ難保候条御心付ノ点ハ御回報相成度此段申進候也

(附屬書)

本邦以外ニ在ル支那革命党人名表

(大正三年六月中旬調)

姓名	前職	所在地	備考
岑春煊		彼南	
陳炯明	広東都督	新嘉坡	
王寵惠	司法總長		
汪兆銘		彼南	上海ニ在リトノ説アリ 本年一月二十日頃彼南發巴里ニ向ヘリトノ説アリ
張繼	參議院議長	巴里	

李烈鈞	江西都督	巴里	客年八月七日香港ヨリ上海ニ赴キタルカ其後不明
馬君武	參議院議員		客年十月十六日長崎発上海ニ向ヒタルカ其後不明
陳之驥	南京第八師団長		客年九月十五日北野丸ニテ新嘉坡ヲ通過シタリ(歐洲ニ向ヒタルナラン)
蔡元培	教育總長		本年一月二十九日長崎発上海ニ向ヒタルカ其後不明
劉英	衆議院議員	上海	本年三月五日長崎発香港ニ向ヒタルカ其後不明
俞応麓	江西省軍務局長	香港	客年十二月九日長崎発上海ニ向ヒタルカ其後不明
季雨霖	湖北省師団長	上海	客年十月十六日長崎発上海ニ向ヒタルカ其後不明
方声濤	江西省旅団長		本年五月八日東京出發新嘉坡ニ赴キタルカ其後香港ニ向ヒタリトノ説アリ
黃愷元	江蘇討袁軍參謀長		英國ニ在リトノ説アリ
林虎	江西省旅団長	新嘉坡	
鈕永建	吳淞砲台司令官		

五二八 六月二十六日 在中国小幡臨時代理公使ヨリ加藤外務大臣宛

民国中央政界近況ニ関スル新聞記事訳報ノ件

附屬書 上海時報所載記事「政聞」訳文

公第二二〇号 (七月二日接受)

大正三年六月廿六日

在支那

臨時代理公使 小幡 酉 吉(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

所謂總統制施行後ニ於ケル政治運用ノ情況及ビ其利害得失ニ関スル批評ハ五月十九日附公第一八五号信ヲ以テ報告ノ次第モ有之候処最近上海発行ノ時報ハ兩日ニ渉リ「政聞」ト題スル記事ヲ掲載致居候之ヲ熟読スルニ尤モ忌憚ナク北京政海ノ近況ヲ摘発シ批評シ諷刺シタルモノニテ殊ニ政海重要人物ノ出処進退ニ関スル裏面ノ消息ヲ伝フル機微ノ点有之多分政界不平者流ノ投稿スル所ト察セラレ其間一二誤伝ナキヲ保シ難キモ大体北京中央政海当今ノ狀態ヲ尤モ遺憾ナク描写シタルモノト被認參考ニ資ス可キモノ不尠候条別紙ノ通り訳出進達候ニ付前信ト参照御査閲相成度候也

(附屬書)

「政聞」

上海時報所載

上ニハ秘密ノ政府アリ下ニハ揣摩ノ社会アリ日々不痛不癢半真半偽ノ新聞ヲ製造ス新約法ハ修改セリ國務卿ハ任命セリ政事堂ハ成立セリ、徐東海ノ字世昌ハ出山セリ已ニ兼旬累月久シ矣彼等四方ニ覬聽スルモ正ニ知ラス簾遠ク堂高キニ在

ル者ハ如何ニ精勵治ヲ図ルヲ、

東海ハ前清時代ニ在リ中外ニ於ケル閱歷ハ甚ダ久シク政治ノ經驗ハ誠ニ優美ナリ然カモ今ノ所謂國務卿ナル者ハ其レ果シテ昔日ノ内閣協理ト異ルアル乎否ハ尚一別問題ニシテ逆猜臆料スルヲ要セサルモ此次出山ハ上ノ(衰)之ヲ任用スルハ一種傀儡ノ運用ニ異ルナク之ヲ下ノ小売業者(政府官僚ヲ指ス)ヨリスレハ幾分商標ノ性質ヲ含ム宜ナリ東海ハ臥テ而シテ治ム可キヲ(確聞ニヨレハ東海ハ毎日清晨入值シ署名数百字シテ後即チ一睡ヲ貪リ南柯ノ風景ヲ領略シ午後ハ政事堂公所ニ歸リ又々一睡シ覺ムレハ始メテ出テ、賓客ニ対ス其門ハ蓋シ市ノ如シト而シテ楊士琦ノ如キハ任命後府中ノ蕉雨軒ニ盤踞シテ未タ一步中華門ヲ出テタルコトナシト言フ)

所謂政事堂公所ナルモノハ國務院ノ蛻化セルモノニテ其旧管項下ト新収項下ト兩種ノ人材ヲ參事僉事ニ按配シタルモノ其新旧人員比例ニ激烈競争アリタル外ハ誠ニ一事ノ弁ス可キサヘナシ故ニ人々ハ寤寐反側シテ機要局中ノ人物力胸ニ公府ノ「メダル」ヲ帶ヒ自由ニ忙敷三海ニ出入スルモノニ比スレハ畜ニ登仙ノ觀アルノミナラザル也岑寂ノ現象ハ政

事堂公所ノミニ止ラサル也且ツ一般ノ行政機關ニ影響セリ以前各部ノ長官ハ國務會議ニテ議決ス可キ事件ノ共同執行連帶責任ヲ負フ外ハ自由ニ政務ヲ処ス可カリシ也總統制實施後ハ此種ノ特權ヲ剝奪シ尽サレ所謂堂々タル特任ノ國務員ハ畜ニ降シテ一部分ノ事務官トナリタルノミナラス總統是トスレハ之ヲ是トシ總統否トスレハ之ヲ否トシ命令ヲ奉スル以前ニ主張ヲ敢テスル所ナキノミナラス命令ヲ奉シタル後ニ相談スルコトサヘ敢テシ得サル也下級官吏ノ呈文ヤ中間取次キノ事件ハ昔日ハ科員之ヲ起稿シ録事之ヲ謄写シテ長官ハ之ニ署名シ数十分ニシテ事終レルニ今ハ則チ案牘ハ之ヲ封置シテ靜ニ大總統ノ批示ヲ待ツノ有様ナリ最初法制改良ト言ヒ所謂行政ノ統一ヲ謀リ事務進行ノ窒碍ヲ除却スト言フモノ果シテ如斯事ヲ意味スルヤ果シテ然リ吾人ハ統治權ヲ總攬スルノ大總統ト大總統ヲ贊襄スルノ國務卿ト政事ヲ与聞スルノ左右丞ト事務ヲ監督スル機要局長カ腦力ノ強、智識ノ富ニ感佩セサル能ハズ是レ殆ンド「ワシントン」、「ビスマート」ニ非レバ望見シ能ハサル所嗟乎人ノ才不才亦各等アルモ其懸絶相去ル此ノ如キニ至ル吾人ヲシテ驚嘆死セシメザランヤ

約法ノ規定ヲ按スレハ國務卿ノ職權ハ僅カニ大總統ヲ襄贊スルノミ本ト大總統系外ニ独立シ単独ノ政見ヲ表示スル能ハス是レ其ノ傀儡タル所以也小売業者ハ此種ノ商標ノ暗淡光ナク其ノ門面ヲ壯觀スルニ足ラサルヲ知リ二説ヲ構フ一説ハ積極的ニ近ク所謂輿論尊重説也減政主義説也財政ハ如何ニ計策セサル可カラスト言ヒ軍事ハ如何ニ処置セサル可カラス外交ハ如何ニ对付セサル可カラスト言ヒ甚タシキハ徐氏ノ不日大政方針ヲ發表ス可ク現ニ錢能訓擬稿中ナリト言フ（記者ノ聞ク処ニヨレハ錢氏ハ毎日總統府ト政事堂公所兩処間ニ奔走シ夙夜寸暇ナク且ツ楊士琦氏ノ勢力ニ隱扼セラレ近クハ又タ同資格ノ周樹模カ平政院長ニ特任セラレ位己カ上ニ出テタルヨリ居常快々樂マズ故ニ知ル此説ノ確ナラサルヲ）一説ハ又消極的ニ近ク謂ク東海ノ意見ニハ「為政不レ在多言」力行如何ヲ顧ルノミト言フニ在リテ昔日ノ閣員ハ受命ノ始大率一篇堂々ノ文章アリ之ヲ主張スル理由ハ十分ナルモ実行多クハ不能ナルガ如キハ取ラサル所今ヤ且ツ大乱ノ後唯休養ヲ事トス可シ事ハ多言ヲ欲セズ若シ之ヲ以テ相誚ル者アラハ予ハ之ヲ辞セズト言フト政治經驗ノ標準ニヨリテ匡時救世ノ人材ヲ求ムレハ老成ヲ

裁熙彦一人ノミ（熙彦ハ前清農商工部副大臣政變後家甚貧）説者言フ熙氏ハ奕劻ト蔦蘿ノ誼アリ（熙ノ媳ハ劻ノ女ニテ近々已ニ孀婦トナレリ）劻ノ此ノ来京ハ無駄ナリシトハ言ヒ難シ

辛壬癸甲（最近四年）ノ際支那民国ノ領土内ニ忽チ古文觀止以外ニ一ノ桃花源ヲ發現セリ其ノ地名ヲ青島ト言フ島ノ人ハ富貴寿老ナリ蓋シ四德並ヒ尊ク五福俱ニ備ハル近日又紛々頭ヲ出シ臉ヲ露ハセリ（故ニ前日北京發行ノ某国人新聞（順天時報ヲ指ス）ハ此種ノ記事ヲ為スニ一陣ノ夷齊青島ヲ出ツト題セリ）趙爾巽ノ如キハ又島中人物ノ祭酒（前清翰林院ノ官名）ナリ清史館長ノ聘アリシモ今ニ至ル来京セサリシモノ總統ト雖之ヲ忘却シタルニ非ルモ唯タ兩回書面ニテ来京ヲ勸メタルノミナリシカ前月英國公使「ジョルダン」ガ当道者ト談話ノ節趙ノ行蔵ヲ問ヒ且ツ言フ貴國ノ所謂先正典型者ハ起用シ尽サレタルニ老成趙氏ノ遅々来ラサルハ如何ト總統此ノ語ヲ聞キ電報書面督促相迫リ已ニ趙氏日前ノ来京ヲ見且ツ参政ヲ兼任スルニ至レリ個人ノ出処問題カ外國公使ノ注意ヲ招クニ至ル不可解ト雖モ亦殆ント風氣ノ然ラシムル者歟

起用スルヨリ外ナキ也慶親王、奕劻、大学士那桐ノ如キハ殆ンド無上ノ妙選ナルヘシ顧ルニ此間尚別ニ一原因アリ則チ東海出京ノ途天津ニ到レル時那桐宴ヲ設ケテ之ヲ招ク坐ニ華世奎（前清軍機領班章京内閣成立後閣丞タリ杯酒ニ親ミ間々檢束ナク夙ニ酒鬼ノ号アリ）酒酣ニシテ諷罵諛讓甚タシ那ハ徐ノ堪ヘ難キヲ思ヒ急ニ他語ヲ以テ之ヲ乱ス歛ビシテ罷ム都中之ヲ聴キ東海ノ出山ニ変計アラシム恐レ乃チ奕劻及ヒ那氏ニ囑シ相勸誘シテ共ニ入京セシメ同時ニ起用シテ東海ノ為ニ解嘲セント故ニ当時外間謂フ奕劻ハ将ニ參政院長ニ那桐ハ總統府洋務処長官或ハ軍事上重要位置ニ任セラレント（那ハ前清外部堂及会弁大臣タル久敷、又曾テ練兵大臣タリ）後ニ至リ其ノ実行ニ至ラサリシハ事秘ニシテ詳ニシ難シ唯奕劻ハ政變後天津ニ避居シ一回モ返京セサリシカ此度東海ト共ニ入京、居ル月許屢々公府ノ宴ニ与リ人ノ問フアレハ府邸ノ修葺ト孫公子ノ婚姻事ノ為ト言フモ固ヨリ信シ難シ東海カ再三再四謙讓辞退シテ然シテ後國務卿受命ノ第二日目ニハ奕劻ハ即忽々トシテ天津ニ帰レリ此中ノ機括柳モ何ソ巧ナルヤ民国成立後滿人大官蔭昌、榮煦ノ繼統得意ノ外崛起シテ地位ヲ恢復セルモノハ蒙藏院副總

鉄良モ亦滿人中ノ健者ニテ昔袁總統ト比肩シ六鎮ノ兵權爭奪ニヨリ相反離シ辛亥革命ノ際鉄良ハ適々江寧將軍タリ總督張人駿ト共ニ出走シ頻年展転地ヲ避ケ政治上重大ノ嫌疑ヲ受クルモノ、如シ近口聞ク參政ノ一席ヲ覬覦シ契友ノ来京ニ囑シ当道者ニ衷曲ヲ具陳セリト而カモ獲ル所ナカリシ亦一異聞ナリ

瞿鴻禨モ前清袁總統ト相好カラス而カモ近口參政ニ任命セラレ同意ヲ表セリト言フ人ノ之ヲ訝ル其原因瞿夫人ハ現任某部総長ノ母ト姉妹ニテ瞿夫人ハ前月已ニ来京シ代ツテ運動スル所アリシト聞ク瞿ハ受命後一回丈ケ辞退シタルモ最近ノ電報ニヨレハ齒疾ノ快癒次第来京ス可シト称ス

皇々タル七通ノ命令ヲ以テ七十名全額ノ參政ヲ按配セリ凡ソ国家ニ功勞アル者碩学通儒ノ経世著述者法政専門学識アル者政治經驗者実業ノ学識經驗ニ富ム者類別ニヨリ区分容納セラル其資格系統ニハ良々苦心ヲ費シタルモノアラン前國務院秘書長陳漢第ハ固ト思想ニ富ミ風骨ヲ備フ熊内閣ノ倒レニヨリ独居深念鬱々タリ外ニシテハ広東民政長ヲ得ス内ニシテ平政院評事ヲ得サリシニ最近突然參政ニ任命セラレ何等預メ同意ヲ求メラレタルニ非ル也陳氏尤モ快々所親

ニ語ツテ曰フ我ヲ以テ瞿鴻禨や唐景崇ノ殿ト為セリ是レ直チニ我ヲ飯桶ニスル也(食料ヲ得セシメタルノ意)蓋シ瞿唐ト同一命令ニテ任命セラレタルヲ言フ也奚ゾ知ラン同一命令中ニハ一人名優タル熊希齡梁士詒梁啓超アルナリ、陳氏ハ飯桶トシテ一概ニ之ヲ抹殺ス試ニ眼一世ニ高キ者カ東坡ノ詩ニ云フ但願我児愚且魯、無災無難到公卿、ト太平恩俸ノ世飯桶ナラスシテ又自ラ以テ自聊セシヤ

其余一般ノ新參政ハ何等ノ問題ナキモ对付捉摸ノ尤モ至難ナルハ政治經驗派内一部分ノ著旧ナリ此輩平日鬚眉皓然尤冠尤モ古ク人ヲシテ其声其色ヲ聞見セシムル丈ケニテ已ニ魂魄ヲ消蕩セシムルモノアリ一旦事ニ際セバ理窟ノミ多クシテ決断ナク他人ノ急迫死ニ至ルモ顧ル所アラザル也、而カモ政府先見ノ明預メ計ル処アルナルヘシ聞ク已ニ大總統ノ名義ニテ特員ヲ專派シテ青島天津上海河南各省ニ赴キ来京ヲ勸誘セリト若シ応セサルモノアレハ更ラニ宣統三年以前ノ官員録ヲ繙キ法定人数ヲ補欠スルニ至ル可シト言フ

五二九 六月二十九日 在鉄嶺森田領事ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

鉄嶺附近ニ於ケル中国革命党ノ動靜報告ノ件

爆裂彈製造ニ関スル件

支那北京四牌樓人

当時東京府下大森町浩然舎生徒

支那人

趙 宇 臣

別名 趙 堅

当二十六年

佐賀県佐賀郡金立村字薬師丸九十番地

当時東京府下大森町浩然舎々監

休職陸軍工兵中尉

埜 口 忠 雄

当三十一年

右兩人ハ昨二十八日県下千葉町千葉警察署前旅館松葉館ニ於テ爆裂彈製造中爆発ノ為負傷セシ件ハ電報ニテ御報告致置候処其後千葉地方裁判所検事ト共ニ取調ノ結果大略左ノ通ニ有之候

一、埜口忠雄ノ陳述ニ依レハ浩然学舎ハ青柳勝敏ナル者ノ経営ニ係リ目下支那人五十名内外ヲ収容シ教師ハ支那人二名日本人四名ナリト云フ埜口忠雄ハ同学舎ノ舎監兼教師ヲ勤メ居リ趙宇臣ハ同校ノ生徒ニシテ兩人ハ師弟ノ關係ヲ有シテ趙ハ亡命客ニシテ革命黨員ナリト称シ居

第四号

陳其美ノ一派ニ属スルト自称スル革命党ハ馬賊頭目谷百千其他ノ賊ト合シ三十三名ノ馬賊隊ヲ作り予テ示シ合セ置キタル巡警等ト合シ通江子ニ事ヲ挙ケ次テ昌図ヲ襲フ計画ナリシカ本月二十八日朝開原附属地ヲ去ル三十清里四家子ニ入り休憩中官兵約四百人ニ包囲サレ約八時間銃火ヲ交ヘ一行中十五六名ハ一方ヲ切抜ケ逃走シ二十九日午前一時過キ開原附属地ニ来リ一行ノ揚耀華谷百千ノ二人開原警務署ニ届出全員ノ附属地潛入承認方願出タルモ当方ハ之レヲ為スヲ拒絶シ一行中唯一ノ邦人光谷久一ノミハ同署ニ召喚シ斯ル輕拳妄動ヲナサ、ル様嚴戒ノ上大連ニ退去ヲ命シタリ尚右一行ハ馬數頭小銃拳銃若干ヲ所持シ居レリト云フ其他ノ者ハ今ニ生死不明ナリ

五三〇 六月二十九日 佐柳千葉県知事ヨリ
大隈内務大臣宛

浩然学舎関係者ノ爆裂彈製造ニ関スル件

附 記 警視庁ヨリ外務省宛乙秘第一二七二号

浩然学舎ノ内情ニ関スル件

高第二九五八号

(六月三十日接受)

レリ

一、爆発ノ原因ハ昨廿八日午後一時三十分頃忠雄カ製造ニ着手シ既ニ一個ノ製造ヲ終リ更ニ一個ヲ製造セントシテ塩酸加里、赤色燐、硫酸化ヲ混シ之ヲ鉄葉鏝ニ容レ更ニ金剛砂及砂利ヲ加ヘタル際砂利ノ磨擦力ニ依リ同二時頃轟然爆発シ為ニ兩名ハ脚部其他ニ負傷シタルモノナリ

一、檢事ノ取調ニ対シテハ埜口ハ否認セルモ爆発彈ハ製造ノ上之ヲ県下習志野原ニ於テ試験シ其結果本廿九日浩然学舎ノ卒業式ヲ機トシテ会合スル革命黨員ニ対シ趙ヨリ報告スル予定ナリシガ如シ

一、埜口忠雄ト旧知ノ關係アル千葉町鉄道聯隊工兵大尉池田茂藏ハ一昨廿七日松葉館ニ於テ埜口忠雄ヨリ昨廿八日革命黨員ノ集会席上ニ前記習志野原ニ於ケル爆裂彈試験ノ結果ヲ報告スル予定ナリト語レルモ其ハ単ニ一時ノ豪語ナリト聞キ流シ居リタリ云々ト語レリ

一、趙ハ檢事ノ取調ニ対シ埜口ノ陳述セル爆裂彈ノ製造ハ袁政府ニ対スル革命ノ目的ヲ達スル為ニアラスシテ之ハ黄色人種ガ漸次白色人種ノ為ニ迫害ヲ蒙リツ、アルヲ憤慨シ彼等ヲ驅逐センガ為メ爆裂彈ヲ使用シ之ニ打撃ヲ加

フルカ為日本人ト事ヲ共ニセントスルノ意ニ出テタルモノナリト陳述セリ

一、本件ハ国際関係ヲ生スルヲ以テ検事正ハ現行犯人トシテ之ヲ取扱ハス先ツ県立千葉病院ニ入院治療セシメ慎重ナル取調ヲ為シ之ガ起訴不起訴ヲ決セントスル模様ナリ
一、本件ニ関シ千葉地方裁判所検事正ハ新聞記事差止メノ命令ヲ為シ同時ニ東京地方裁判所検事正ヘモ同様囑託シタルニ其ノ必要ヲ認メサル旨ヲ以テ其筋ヨリ検事正ヘ電命アリタルヲ以テ直ニ其命令ヲ取消シタル由ナリ
右及御報告候也

大正三年六月廿九日

千葉県知事 佐 柳 藤 太

内務大臣伯爵 大隈重信殿

(附記)

乙秘第一二七二号 六月廿九日 (六月二十九日接受)

浩然盧ニ関スル件

府下荏原郡入新井村新井宿千二百六十六番地所在浩然盧ハ西本願寺支那布教師水野梅曉ガ支那亡命者ノ窮状ヲ憐ミ其子弟ヲ収容シテ之レヲ教養スルノ目的ヲ以テ大正二年十二

五三一 六月三十日 石原神奈川県知事ヨリ
加藤外務大臣宛

中国亡命者黄興一行ノ渡米ニ関スル件

神高秘収第一六八六号 (七月二日接受)

大正三年六月三十日

神奈川県知事 石 原 健 三(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

支那亡命者黄興一行渡米ノ件

東京市芝区高輪南町五十三番地

支那亡命者岡本義一事

黄 興 四十四年

同人秘書 徐 申 伯

随員 李 書 城

同 石 陶 鈞

同 鄧 家 彦

右一行五名ハ今三十日午後四時当港解纜ノ東洋汽船会社汽船天洋丸ニ搭乗米國ニ向ケ無事出発セリ先之一行ノ渡米ニ関シ保護警戒方御注意ノ次第モ有之候ニ付予メ汽船会社支配人ト協商ヲ遂ケ船室并ニ乗船日時等ヲ打合セ且ツ極メテ

月設立シタル私塾ニシテ予備騎兵大尉青柳勝敏ヲ主幹トシテ其下ニ本邦人六名教鞭ヲ執レリ而シテ裏面的関係者ハ陳其美、李烈鈞等ニシテ亡命支那人股汝驪之ヲ監督シツ、アリ目下生徒四十九名ヲ有シ第三革命ヲ起スノ日ハ即チ彼等ヲ使用セントスルモノナルコト明カニシテ殊ニ昨今切リニ其準備ヲ為シツ、アリトノ聞エアルヲ以テ嚴密偵察中昨日午後千葉県千葉町旅舎松葉館ニ於テ浩然盧止宿佐賀県人野口忠雄及支那人「チヨウシン」ナル者爆裂彈製造中負傷シタル旨同県ヨリ通報ニ接シ進ンテ内偵スルニ野口忠雄ハ休職陸軍工兵中尉ニシテ本月初旬青柳勝敏ヲ頼リ来リ爾来山県孝一郎ト称シ同校ノ舎監ヲナシ居リタルカ一昨日午後三時頃千葉町ニ所用アルヲ以テ誰人カ知人ニ紹介シ呉レトノ依頼ヲ受ケ青柳ハ同町通町小倉藥店ニ宛テ紹介状ヲ与ヘタリト尚ホ支那人「チヨウシン」ハ趙堅ナル者ニシテ本年一月ヨリ同塾ニアリタルガ去月ヨリ何レニカ立チ去リタリ尚本件ニ付テハ主トシテ憲兵ノ手ニ於テ取調中所轄検事ハ新聞ノ掲載ヲ差止メタル趣当庁ニ於テモ其関係者等嚴密内偵中ニ属ス

秘密ニ渡航スル次第ナルヲ以テ人目ヲ避クルニ最モ適當ナル方法ヲ協定シ置キ其結果黄興ハ出帆前夜即チ昨二十九日日没後ニ於テ東京ヨリ自働車ニテ当地ニ来リ直チニ乗船スルヲ最モ安全ナルヲ以テ前日来之レガ計画ヲ為シ当日船ヘノ案内ヲ兼ね保護警戒ノ為メ私服警察官一名ヲ彼レノ住宅ニ派シ午後八時三十分自働車ニテ住宅出発同九時四十分横浜新港岸壁ニ着直チニ船内一等室第百十一号へ案内シ附近ハ私服警察官ヲ以テ断ヘス注意警戒セシメ置キタルニ黄興ハ本日出帆マテ室内ヨリ一步モ外出セス彼レ自身ニ於テモ非常ナル注意警戒ヲナシ格別ナル警察ノ保護警戒ニ付テハ深ク感謝シ満足ノ意ヲ表シツ、アリシニ突然出帆間際ナル午後三時頃ニ至リ会社ヨリ井坂支配人来船シ船長ト共ニ黄興ノ室ニ至リ遺憾ナカラ乗船渡米ヲ謝絶スル旨ヲ告ケ下船ヲ要求セリ其理由トシテハ会社ヨリ在米國代理店ニ対シ支那政府ノ渡米免状ヲ有セサル黄興一行乗船ニ付キ差支ノ有無ヲ問合セタルニ返電ニ依レハ斯ル正当手續ヲ履マサル亡命客ノ乗船渡米ハ米國官憲ニ於テ入國ヲ拒絶スルハ勿論之レカ為メ場合ニ依リテハ会社ニ於テ多大ノ損害ヲ蒙ルニ至ルヤモ難計即チ斯ル場合ニハ其船舶ヲモ没収セラル、コト

アルヘン乗船拒絶ノ方得策ナラントノ趣ニテ為メニ誠ニ氣ノ毒ナカラ下船ヲ要求スル次第ナリトノ事ニ有之候當時該船ニ出張シ居タル水上警察署長ハ事態容易ナラスト認メ本官ニ報告ヲナスト同時ニ一面井坂支配人ニ其理由ヲ糺シ且ツ当局者ニ於テモ同行ノ渡米ニ付テハ相当配慮セラレ居ル義ニシテ殊ニ黃興ハ米国官憲ノ有力ナル人ノ入国承認ノ書面ヲモ携帯シ居ル訳ナレバ万々入国拒絶等ノ事無之カルヘク這ハ警察署長トシテ言フニアサルモ一己人トシテ實際ニ外務当局ヨリモ此間ノ消息ヲ聞キ居ル次第ナレハ予定ノ通乗船セシメラレ度旨ヲ告ケタルニ会社ヨリハ更ニ支配人本船ニ来リ黃興ノ携帯セル書面等ヲモ一覽シタル後船長ト熟議ノ結果再乗船セシムルコトニ決シ故障ナク出帆スルニ至リタル次第ニ有之候

右及報告候也

追而出帆ハ午後三時ノ予定ナリシモ機関ニ故障アリテ修繕ノ為メ四時ニ相成候訳柄ニ有之候

五三二 七月一日 在中国小幡臨時代理公使ヨリ
加藤外務大臣宛

各省都督裁撤及將軍府設立ニ関スル大總統令

各省都督ハ皆ナ深ク大義ヲ明カニシ準繩ヲ恪守ス方鎮ノ名詞ニ因リテハ以テ軍民ノ耳目ヲ移易スルナク即省制ヲ実行センニハ窒碍殊ニ多シ応サニ各省都督ハ一律ニ裁撤シ京師ニハ將軍府ヲ建テ並ニ將軍ノ諸名号ヲ設ケ各省ノ軍政督理者ハ所駐ノ省分ニ在リテ府ヲ開キ牙ヲ建テシメ出テハ則チ閩寄ニ膺ラシメ入ツテハ則師屯ヲ總ベシメ内外相維シ呼吸一氣ニ全國ノ軍ヲ合シテ同体トナシ畛域胥ナ化シ指臂相聯リ欧米ノ強ニ漸進シ叔季カ軍民牽合ノ弊ナカラシム此ヨリ分途功ヲ程リテ相侵越セス戎備ヲ司ルモノ意ヲ軍謨ニ専ラニシ民事ヲ治ムルモノハ益々精ヲ吏理ニ求メシメ拊循共勗、文武交歆シ永ク割裂ノ端ヲ息メ同シク昇平ノ化ニ進マン本大總統厚望アリ焉

ト有リ之ノ外各別ニ策令ヲ以テ陸軍總長段祺瑞ヲ建威上將軍ト為シ將軍府事務ヲ兼理セシメ張勳ヲ定武上將軍トナシ長江巡閱使ヲ兼ネシメ又文官出身ノ都督ニハ將軍銜ヲ加ヘ其他ノ都督ニ對シテハ夫々將軍ノ名号ヲ与ヘ且ツ該省軍務ヲ督理セシムル旨ニ二十六通ノ策令ヲ公布セラレ候

右ハ專ラ省制實施ノ順序上所謂各省民政長官タル巡按使ト軍隊ノ管理統率者トノ權限關係ヲ按配スルノ用意ニテ恰カ

公布ノ件

附屬書 六月三十日附將軍府設立ニ関スル大總統令
公第二二八号 (七月六日接受)

大正三年七月一日

在支那

臨時代理公使 小幡 酉 吉(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

各省都督撤廢將軍府建設ニ関スル件

革命後都督政治ノ利害ニ就テハ久シク議論アル処副總統黎元洪カ卒先シテ軍民分治ヲ唱道シ各省ニ民政長ヲ設置セルヨリ以來都督ノ名称ハ早晚改廢セラル可シト期待セラレ殊ニ最近各省官制公布實施以來其軍区ノ組織改廢ノ名称ニ就テハ種々ノ伝説アリシカ六月三十日附本件ニ関スル大總統申令左ノ如シ

都督ノ稱ハ漢魏ヨリ始マル武昌事ヲ拳クル倉猝ニ名ヲ定ム其時兵事始メテ興リ人心未タ定マラズ晉齊ノ雄長ニ類シ楚漢ノ剖分ニ似タリ民國紀元未タ變置ニ遑アラス黎副總統ハ軍民分治ヲ首倡シ所陳ノ十害三無ノ弊ハ劇目^シ忱^シ心海内ノ賢達咸ナ同情ス方今大難削平シ主權統一シ

モ前清總督巡撫カ兵部尚書侍郎銜タリシト同一筆法ニ出ツヘキモ漢唐時代ノ將軍名号ヲ規復シタルノミカ中央ニハ陸軍部參謀本部ノ外總統府ニ陸海軍大元帥統率弁事処アルノ外本令ニヨリ更ニ將軍府ナル統率機關設置サル、事ト相成其相互關係ノ如何ハ別問題トシ兎ニ角革命反動復古ノ一微証ト見ル可ク候

委細ハ別紙ニヨリ御閱悉相成度此段及報告候也

(附屬書)

命令

大總統申令

都督之稱肇自漢魏武昌舉事倉猝定名其時兵事初興人心未定類晉齊之雄長似楚漢之剖分民國紀元未遑變置黎副總統首倡軍民分治所陳十害三無之弊劇目忱心海内賢達咸表同情方今大難削平主權統一各省都督皆深明大義恪守準繩若復因仍方鎮之名詞無以移易軍民之耳目即欲實行省制而窒礙殊多應將各省都督一律裁撤於京師建將軍府並設將軍諸名號有督理各省軍政者就所駐省分開府建牙俾出則膺閩寄入則總師屯内外相維呼吸一氣合全國之軍有如同體畛域胥化指臂相聯漸進歐美之強而無叔季軍民牽合之弊從此分途程功不相侵越司戎備

者得專意夫軍謨治民事者益精求夫吏理拊循共勗文武交歡永
息割裂之端同進昇平之化本大總統有厚望焉此令

大總統
統印

中華民國三年六月三十日

國務卿 徐世昌

五三三 七月一日 在本邦中国公使ヨリ
加藤外務大臣宛

在日中国革命党取締方ニ関シ黨書提出ノ件
節略

邇來孫文黃興第三次革命計畫東京各報皆有登載又六月三十
日東京毎日新聞日日新聞讀賣新聞及其他數種之報皆載有中
國亂黨於神田印刷所密印中華民國軍用手票六七百萬圓署名
者爲黃克強陳英士云々查黃克強即黃興之別字陳英士即陳其
美之別字皆屬我國亂黨之首領今該二人出名私造軍用手票六
七百萬圓之多與偽造紙幣固同爲刑事上之重犯者也
又千葉縣千葉町松葉館爆炸彈破裂事件三十日各報皆有記載內
載李明欽或名趙宇臣者均係大森浩然學舍之生徒與野口忠雄
中尉私製爆炸彈且有現役池田大尉爲之證明購料其行使之目的

第五〇号

久シク本邦滞在中ナリシ支那亡命者黃興ハ隨員四名ト共ニ
(六月二十八日付政務局長書面参照) 六月三十日横浜出帆
ノ天津丸ニテ貴地ニ向ヒタル処同人ハ「カリホルニヤ」州
某有力者ノ尽力ニ依リ國務卿ヨリ上陸許可ノ内諾ヲ得居レ
リト称シ居ル由ナルモ旅券ヲ携帯シ居ラサルヲ以テ或ハ上
陸拒絶等ノ問題ヲ生スルヤモ計リ難キニ付其際ハ東洋汽船
会社ノ迷惑トナラヌ様可然御配慮相成タシ

五三五 七月五日 在中国小幡臨時代理公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

中日実業ノ黃興ヘ二万円融通ニ関シ袁大總統
ト会谈ノ際ノ心得方ニ付請訓ノ件

第五〇三号

貴電第三〇九号ニ関シ黃興退去ノコトハ既ニ東京來電トシ
テ当地新聞ニモ伝ハリ居ル所兩三日前在東京陸公使ヨリ楊
士琦ノ許ヘ本件ヲ内報シ併セテ黃カ日本出發ニ際シ中日実
業会社ヨリ二万円余ノ融通ヲ受ケタル趣新聞紙上ニ伝ヘラ
レ居ル所右ハ果シテ事實ナルヤ否ヤト内々電問シ來レル由
ニテ楊ハ衷其他ニ対スル迷惑如何ヲ氣遣ヒ頗ル迷惑シ居ル

一四 中国革命党關係者ノ動靜ニ関スル件 五三五 五三六

雖未十分判明其爲企圖暗殺固無疑義查大森浩然廬學舍秘密
結集專習暗殺之術本公使曾奉本國政府訓令兩月前曾委劉崇
傑祕書面告小池局長請求

貴政府查明解散以杜後患日久未蒙

賜覆今果在千葉發現炸彈是該亂黨等竟以

貴國地方爲謀亂本國之策源地犯證昭著必非

貴政府容留該黨人之本意且大違犯

貴國之法律及治安深望

貴政府對於以上偽造軍用手票及密製爆炸彈各犯依法處治以重
法紀外並望對於謀害中國之亂黨及大森浩然學廬之機關應如
何取締解散以示嚴明之處分則所以增兩國之親睦保東亞之平
和者當感

貴政府盛意於無既矣

(欄外註記)

「七月一日陸公使松井次官ニ手交」

五三四 七月三日 加藤外務大臣ヨリ
在桑港沼野總領事代理宛(電報)

黃興一行ハ旅券ナキニ付上陸拒絶等ノ場合可
然配慮方訓令ノ件

趣ナリ然ルニ本官ハ近日大總統ト会见ノコトニ相成リ居ル
所或ハ本件ニ関シ袁ヨリ何等談及スルヤモ計リ難キニ付テ
ハ本件ハ或ハ我政府予テノ御考案御決行ノ結果トモ察セラ
ルル所此際寧ロ本件ヲ利用シ袁ニ安心ヲ与フル様ノ説明ヲ
ナシ置クモ一策カト存セラルルニ付テハ其辺ノ御意嚮本件
ノ内情ト共ニ至急電報ヲ請フ

五三六 七月六日 加藤外務大臣ヨリ
在中国小幡臨時代理公使宛(電報)

黃興ヘ二万円融通問題ニ関シ回訓ノ件

第三一三号

貴電第五〇三号ニ関シ

黃興出發前中日会社ヨリ金員ヲ受領シタルハ事實ナルモ右
ハ曩ニ黃興カ同社ヲ脱退シタル結果今回其名義ニ属スル株
式払込金ノ返還ヲ求メタルニ対シ同社ヨリ一万七八千円ヲ
交付シタル次第ニテ特ニ融通ヲナシタル義ニハアラス帝國
政府ハ御承知ノ通革命派ノ人物カ本邦内ニ在住セサルコト
ヲ希望シ居ルヲ以テ今回黃興渡米ノ計畫アルヲ聞知スルヤ
乗船等ニ付便宜ヲ与ヘ退去ヲ容易ナラシメタリ今後モ同様
ノ場合ニハ成ルベク彼等ヲシテ退去セシメタキ方針ニテ便

タルモ画策經營維持ノ効ハ決シテ歿ス可カラサルモノアリ
テ現ニ民国元年ノ計算ニヨレハ単ニ為替手数料ノ收入丈ケ
ニテ二十万七千兩二年度八十四万兩ヲ示シ單純ナル營業銀
行トシテモ可ナリノ実績ヲ挙ケ居ルハ特ニ注目ニ値ス

然ルニ本年三月十六日當時ノ國務總理孫寶琦財政總長周自
齊交通總長朱啓鈴連名呈請ノ結果中國銀行ニ對シ前清大清
銀行章程ヲ變革シテ中國銀行則例ヲ制定公布シタルノ前例
ニヒ新タニ交通銀行則例廿三条ヲ制定公布セリ此則例
ニヨレハ資本ヲ一千万兩十萬株ニ分チ以前郵傳部補助ノ四
萬株ヲ固定資本ト定メ旧來ノ取扱項目ノ外ニ國庫事務委託
分程（第八條）國外資金出入ノ委託取扱（第九條）ヲ規定
シ其權限範圍ノ大ヒニ擴張セラレ間接ニ中國銀行事務侵蝕
及ヒ借款事務取扱ヲ規定シタルノ觀アリ而シテ又タ本則例
ニヨレハ總理一人ハ四百株以上ノ株主中ヨリ又協理一人ハ
三百株以上ノ株主中ヨリ選舉シ別ニ交通部路政局長ヨリ委
任ノ幫理一人ヲ置キ二百株以上ノ株主ヨリ五人以上十一人
以下ノ重役ヲ選舉スル事ヲ規定シ此新則例實施ノ結果トシ
テ本年五月廿四日北京ニ於テ株主大會ヲ開キ選舉ヲ行フ其
結果梁士詒ハ四千六十五權（十株ヲ以テ一權トス）ノ多數ニテ總理ニ選舉

セラレ彼ノ交通銀行ニ於ケル勢力根拠ハ牢トシテ抜ク可カ
ラサルニ至ル而シテ株主名簿中重ナル株主ハ

四百株鄧君翔 四百七株梁士詒ニテ三百株以上十四人任
鳳苞、汪彥時、李叔雲、張蔭生ニテ其他壽記、公記、劉源
記外周五常即チ仁、義、礼、智、信ノ各三百株、又タ二百
株以上廿二人陳靜育、張仲熔、張勳、施省之、陳錦濤、朱
桂辛（啓鈴ノ号）、周自齊、蔣邦彥、趙慶華其他ハ多ク鴻
記、福記等ノ記号ヲ用ユ而シテ記号者ハ總協理役員ニ當選
スルモ無効ナル旨ヲ表示シ居レリ

交通銀行カ固定資本ト称スル官資四萬株ニ對シ實際幾千ノ
払込ミヲ為シ居ルヤ又タ其他ノ応募商人株ハ幾千ナルヤ其
払込額ハ幾何ナルヤ等到底之ヲ確知スルニ由ナキモ前述二
百以上ノ大口株數ヲ概算スレハ約九千七百餘株ニ過キス且
ツ最初本銀行ノ成立ハ多ク政府ノ提倡維持セル処ナルニ今
回新ニ公布サレタル則例ニヨレハ殆ント政府ノ管束ヲ脱離
シ純然タル商業銀行タルノ觀アルノミナラス今ヤ梁ハ四千
六十五權即チ四萬六千五百五十株ノ投票ヲ得テ其總理ニ選舉セ
ラレ任鳳苞ハ協理ニ其他施省之、鮑星槎、孟玉雙、陳錦
濤、趙慶華等其一味同系統者カ重役ニ選舉セラレ又其幫理

ナルモノモ亦其同系タル路政局長葉恭綽ヨリ委任セラル可
ク反對派ノ交通銀行橫領ヲ絶叫シ或ハ國有說ヲ唱ヘ破壞ヲ
企シル蓋シ所以アルナリ今ニシテ溯思スレハ交通銀行則例
ノ制定ハ梁カ周到ナル準備ニシテ尤モ彼レノ實勢力ノ存ス
ル所袁總統ノ之ヲ認可公布セシムルニ至レルハ梁ノ力量ニ
倚賴スル所アル表徴トモ見ルヲ得可シ實ニ梁士詒ノ勢力根
拠ハ此交通銀行ニヨル財政上ノ活動力ニアリ此財政上ノ活
動力ハ實ニ袁世凱ヲ臨時政府以來擁護シ來レル一大動力ナ
リシト云フモ過言ニアラス蓋シ革命以來中央政府ノ財源ハ
全然杜絶セラレタルニ拘ハラス所謂交通收入即チ鐵道電信
等ノ收入ハ左マテノ影響ヲ受クルナク交通銀行ニ收入活用
セラレ僅カニ袁政府ノ至難ナル財政ヲ縫維持シ來リシナ
リ聞ク民国二年度ノ鐵道收益ノミニテ京奉線六百廿二萬九
千元京漢線六百四十八萬京張線六十五萬正太線三十六萬平
沢十七萬八千元ト既ニ如斯収支活用ニ資スルニ足ルモノア
ルノミナラス民国以來外資輸入實業開放ノ政策ヲ標榜シテ
各種ノ鐵道借款ヲ成立セシメ一面ニハ其前貸金ニヨリテ袁
政府焦眉ノ急ヲ救ヒ一面ニハ其得ル処ノ「コンミッシン」
ニヨリテ愈其財政的根拠ヲ確定セルモノト認メラル海

蘭鐵道契約ノ成立スルヤ政府ハ八百萬兩ノ前貸ヲ受ケ其返
還ヲ余儀ナクセラレタル關係等モアリ更ラニ同成鐵道契約
ヲ成立シ四百万兩ノ前貸ヲ得テ其一半ノ還償ヲ為シタリト
其真否ハ固ヨリ確知スルノ限リニ非ルモ現ニ既報公第五六
号報告ノ財政部發表ノ短期內償ニ同成鐵道前貸二十五萬磅
乃チ二百五十萬元ヲ計上シ居ルノミナラス交通銀行ニ對ス
ル債務トシテ八百萬元ヲ計上シアル等ニ徴スレハ此間ノ消
息推知ニ難カラサルモノアリ又聞ク処ニヨレハ梁一派カ各
種借款ニヨル收得約一千万元ハ之ヲ交通銀行基金充實ニ當
テ現ニ同行ノ發行スル紙幣ハ約五千万元ニ上リ而カモ同行
ハ毎ニ鐵道收入ヲ融通シ得ル便宜アルニ因ツテ如何ナル場
合ト雖モ民間ノ兌換ニ応シ得ル等ノ点ヨリ今ヤ一般經濟界
ノ信用ハ中國銀行ヲ凌駕シアルノ有様ナルノミナラス袁總
統カ速急焦眉ノ需要ニ際シ立ロニ五十萬百万ノ融通力アル
モノハ独リ梁士詒一派ノ手腕ニ俟ツノ外ナク是レ實ニ梁カ
陰然トシテ其勢力ヲ失ハサル所以ニシテ六月十三日ノ亞細
亞日報ハ「中國銀行ハ交通銀行ニ合併ス可キ耶」ト題シ
聞ク梁氏ハ交通銀行ヲ以テ中國銀行併吞ノ手段ヲ実行セ
ント企テ即チ財政部中ニ一司ヲ設立シテ其形式上ノ事務

ヲ弁理セシメ其紙幣発行及為替公金ノ取扱等ハ一切交通銀行ニ帰セントスルニ在リ

云々ト記載セリ固ヨリ反对派ノ捏造ニ過キサル可キモ其前日乃チ先六月十二日附ヲ以テ周財政総長カ中国銀行ヲ財政部ノ直轄ニ帰スルコトヲ呈請シ其許可ヲ得タル等（六月十五日布告細公債第ニ〇号報告）ノ關係ヨリ以上ノ臆測ヲ試ムルモノナル可キカ而カモ事ノ余リニ突如タルニ顧ミレハ右ノ記事ハ或ハ何等ノ消息ヲ洩ラスモノニアラサルナキカ兎ニ角梁士詒カ交通銀行ヲ根拠トスル勢力ハ大概前述ノ如シ

梁カ交通銀行ニ牢乎タル根拠ヲ得ルニ至レル順序トシテノ彼レカ交通系乃チ鐵道界ニ於ケル勢力ヲ述フルノ要アリ彼レカ經濟特科以来ノ官歴ハ凡テ交通系ニ在リ郵伝部左參議鐵路局々長兼郵政局長革命後郵伝部首領ニテ度支部首領ヲ兼ネタル次第ハ尚人ノ記憶ニ新ナル処ナリ民国元年南北統一政府成リ孫文ハ臨時大總統ノ印綬ヲ袁世凱ニ譲リテ後十年ニシテ二十万里ノ鐵道ヲ築成シ毎年六億ノ收益ヲ挙クルノ説ヲ唱道シ自ラ民国鐵道協會ヲ上海ニ起シ鼓吹尤モ勉ムルヤ梁ハ更ラニ中華全國鐵道協會ヲ唱道組織シ交通系全体ノ人物ヲ網羅シ六月三十日ヲ以テ成立大会ヲ北京ニ挙

ヨリ阿富汗ノ「ガブルハロト」波斯ノ「マス、テヘラシ」土耳其小亞細亞ニ入り「コンスタンチノーブル」ニ達ス

（北路）北京ヨリ綏遠城、烏蘭諾爾、烏里雅蘇台、塔爾巴哈台ヨリ境ヲ出テ「ラルチス」河ニ沿ヒ「ラムスク」

ニ至リ西比利亞鐵道ニ接続ス

而シテ稍詳細ナル具体的説明ヲ試ミタリ固ヨリ新主張ニハアラサルモ其研究ノ素養アルヲ銜フニ過キサルカ如シ而シテ孫ハ九月九日附ヲ以テ全國鐵道籌画全權ノ委任命令ヲ得テ得々トシテ帰南シ「ボーリング」ト廣東重慶線ノ仮契約ヲ締結シタルノ外何ノ得ル処ナク彼ノ鐵道協會サヘ有耶無耶ノ間ニ消滅セシニ不拘梁ハ頻リニ其主張スル如ク海蘭同成線ノ契約ヲ為シ意外ノ余瀝ニ浴シツ、其根拠勢力ノ益々充實ニ努力シ六月二十一日同協會第二年度大会ヲ舉行スルニ当リ来會者二千余名ト号シ再び自ラ正會長ニ選舉セラレ其他本会ノ顔触ヲ示セハ副會長ハ葉恭綽ニテ評議員ハ

權量 方仁元 周自齊 馮元鼎 鄭洪年 黃開文 閔冕 鈞 蔡序東 趙慶華 施肇曾 任鳳苞 闕鐸 馮懿同 竜建章 詹天佑

ケ梁士詒ヲ會長ニ葉恭綽ヲ副會長ニ選舉シ規則ノ制定各種調査研究ノ分担ヨリ機關雜誌ノ発行迄整然トシテ大ヒニ見ル可キモノアリ孫ノ鐵道策ニ對スル對抗策トシテハ當意即妙ノ措置ナラストセス尋テ孫文カ前任臨時大總統革命ノ大元勳トシテ意氣揚々入京スルヤ八月二十九日ヲ以テ特ニ大会ヲ開イテ孫ヲ歡迎シ其声言セル三大幹線ニ對シ批判的主張ヲ声言スル機會ヲ捉ヘ其利害得失ノ如何ニ論ナク協會ノ俄カ組織ト云ヒ線路ノ協議主張ト云ヒ苟モ事鐵道ニ関スル限リ我等ノ勢力範圍ニ属ストノ意氣込ミヲ示スモノニ外ナラス當時孫文主張ノ三大幹線トハ

（甲）南路南海ニ起リ廣東、廣西、貴州、雲南、四川ヨリ西藏ニ入り天山ノ南ヲ繞ル

（乙）中路揚子江口ヲ起点トシ江蘇、安徽、河南、陝西、甘肅ヲ經新疆ヨリ伊犁ニ到ル

（丙）北路秦王島ヲ起点トシ遼東ヲ繞リ折レテ蒙古ニ入り外蒙ヨリ烏梁海ニ達ス

而シテ梁士詒協會ノ主張ハ

（中路）ハ江蘇ノ北ヨリ起リ開封、西安、蘭州、哈密、天山南路、喀什噶爾ヨリ境ヲ出テ「バミル、クレミル」

實ニ交通部系ニ於ケル歴々者ヲ網羅セルモノナルヲ見ル可ク此団体ハ梁士詒鐵道政策交通財政の運用ト相關連シテ輕視シ難キ一勢力タルハ勿論ナリ

次キニ稅務督弁ノ位地ニ言及セン稅務処督弁大臣ナルモノハ光緒三十二年六月二日附上諭ニヨリ初メテ設置セラレタルモノニシテ從來外務部及ヒ度支部ニ分属シタル條約ニ關連スル稅權ノ統一ニ出ツト云フモ實ハ當時流行ノ利權回收熱ノ結果總稅務司ノ權限ヲ縮小シテ一面ニハ幾分タリトモ當時ノ親貴内閣ノ財源ヲ確實ニセントスルニ出テタルナリ処ニハ四股ヲ設ケ第一股海關ニ關スル事務機械製造品ノ課稅礦物稅開港場規則事務第二股ハ常關事務及ヒ免稅品事務外債償金ノ稽查稅則ノ查察、第三股ハ阿片稅事務及三聯單事務、第四股ハ郵政事務ヲ管理ス事ノ條約交渉ニ關スル限リ重要ナル地位ニテ追テ革命事變以前ノ狀況ヲ恢復スルニ至ラハ其收稅金ノ收支關係上更ラニ一層意味アル地位タルハ推測スルニ余リアリ

要之梁士詒ノ稅務督弁任命ハ彼カ袁總統ニ接近スルノ時會ヲ少フセルハ事實ナルモ而カモ猶ホ總統府財政會議ニ列席シツ、アリト聞ク彼ノ歿落ヲ想像スルハ早計ナリ彼ハ今ヤ

其旗鼓ヲ歛メテ其本拠ニ帰り疊壁ヲ高フシテ元氣ヲ養成シツ、アルモノニ非ルナキ乎
第二善後借款ハ幾多ノ曲折ヲ經テ尚未タ成立スルニ至ラス其間種々ノ事情理由アルニヨルハ申迄モナキモ梁士詒反對者側ノ推測ニヨレハ嚴格ナル大借款ノ成立ハ彼等一派ノ財政の交通実業政策ノ活動方針範圍ヲ侵蝕セラル、ヨリ裡面陰險ナル妨害運動ヲ試ムルニヨル彼レハ徐國務卿カ短期内外債償還ニ関シ必ラス彼ノ援助ヲ求メ来ルヲ期待スト臆測スルモノサヘアリ要スルニ梁士詒ハ喰ヘヌ人物ナリ
右何等御参考迄報告ニ及ヒ候也

五三八 七月八日 松井外務次官ヨリ
在本邦中国公使宛

在本邦中国革命党取締ニ関シ回答ノ件

拝啓陳者貴国革命党取締方ニ関シ本月一日御手交ノ覚書ニ付テハ取調ノ結果左之通及御回答候
一革命党軍用手票印刷ノ件ハ當該官憲ニ於テ精細調査ヲ遂ケタルニ新聞紙ノ記事ハ何レモ無責任者ノ通信ニ基キタルモノニ有之事実全然無根ナルコトヲ確メ候
一千葉町ニ於ケル爆裂彈事件ハ目下當該官憲ニ於テ折角調

私塾ヲ開キタリトノ趣ニ付本文中ニハ記載セサルコト、セリ

五三九 七月九日 警視庁ヨリ
外務省宛

中国革命党員会合情況ニ関スル件

乙秘第一三二〇号 七月九日 (七月十日接受)

昨八日築地精養軒ニ於ケル支那革命党員会合ノ件ニ就テハ既報スル処アリシガ尚ホ精探スル処ニ依レバ其狀況左ノ如シ

一、右会合ハ既報ノ通り革命党本部ノ発会式ヲ兼テ同党員ノ懇親会ナリシモ其裏面ニハ在京民國人ノ多数ヲシテ革命ニ加担セシムル手段ト又タ或意味ニ於テ第三次革命ニ對シ平素孫文一派ニ属スル以外ノ民國人ニシテ如何ナル感想ヲ有シ居ルヤヲ試ミンガ為メノ策ニ出デタルモノ、如ク本会合ハ最初ハ民国社ニ於テ開会セントノ計画ナリシモ前記ノ趣旨ヨリ出テタル会合ナルヲ以テ唯ニ革命党員ニ限ラズ多数ノ同國人ヲ一堂ノ下ニ集メントシ孫配下ノ黨員ヲシテ各方面ニ涉リ出席ヲ勧誘セシメタル結果出席者多数ニ上ルベキ形勢ヲ呈シタルヨリ俄カニ其場所ヲ精養軒ニ変ジタルモノニシテ出席者ノ総数二百五名、内

(記 註 外 關)

查中ニ付追テ事実ノ真相判明スルニ至ルヘシト存候
一浩然学舎ノ件ニ関シテハ去ル三月卅一日劉秘書閣下ノ命ヲ奉シ小池政務局長ヲ来訪シ申出テラルル所アリタルニ依リ同局長ヨリ同学舎ノ性質大要ヲ説明シ且當該官憲ニ於テ十分注意ヲ加ヘ居ル旨ヲ答ヘタルニ劉氏ニ於テ之ヲ諒解シ引取ラレタルコトアルモ其際劉氏ヨリ更メテ帝國政府ノ回答ヲ求メラレタルコトナク又小池局長ヨリモ回答ヲ約シタルコト無之從テ今回御申出ノ次第ハ甚タ意外トスル所ニ有之候

閣下ノ覚書所載ノ件々ハ大要前記ノ通ニ有之候処近來革命党ノ行動ニ関シ頻々新聞紙上ニ記述セラルル事項中ニハ何等為メニスル所アル輩ノ捏造ニ基クモノ尠ナカラサルコトハ爭フベカラサル義ニ有之閣下ニ於テモ御承知ノコトト存候而シテ貴国革命党ニ對スル帝國政府ノ方針ハ已ニ御熟知ノ通ニ有之候間閣下ニ於テ帝國政府ノ公正ナル態度ニ信頼セラレ苟モ一片ノ流言ニ重ヲ措カルルカ如キコト無之様致度候 敬具

(欄外註記)

「三十日解散セラレタリトノ警視庁報告アルモ青柳ニ於テ別ニ

氏名ノ判明シ居ル者ハ徐蘇中、徐忍茹、王統一、田桐、蘇無涯、夏重民、陳陽鑑、閻崇義、陸惠生、夏之奇、劉恢宇、徐朗西、張百麟、蔡銳靈、王介凡、胡仰、安健、凌鉞、陳階、潘敬賢、周応時、雷靈、梅華、唐天成、金佐之、陳其美、葉夏声、居正、陳家鼎、熊尚文等ニシテ会場入口ノ戸ヲ閉鎖シ扉外ニハ二名ノ者見張りヲ為シ居リテ何人ヲモ接近セシメズ會員一同ハ一定ノ徽章ヲ胸間ニ附シ田桐、夏重民、徐蘇中、周応時、王統一等会衆ノ応接其他ノ世話ヲナシ居リテ席定マルヤ居正ハ起テ今回革命党本部ヲ設置セシ理由並ニ本日懇親会ヲ開催セシ趣旨ヲ述べ次ギニ孫文ハ同人ノ紹介ニヨリ約一時間半ニ涉リ大要左記意味ニ於ケル演説ヲ為シ夫レヨリ陳家鼎、蔡銳靈、田桐、熊尚文(基督教教師)等ノ演説アリテ同六時三十分頃無事散会セリ
追テ邦人和田瑞モ来会シタレトモ会場ニハ列席セズ控席ニ在リテ狀況ヲ觀察シ居リタリ又タ孫文ノ演説中胡仰ハ孫ノ演説ヲ紙片ニ筆記シ居リタルノミナラズ其ノ挙動ニ稍々不審ノ点アリシトカニテ王統一外二三名ノモノ協議ノ上同人ヲ退場セシメントシタルモ斯クテハ却テ不都合

ヲ生ズルヤモ計ラレザルヲ以テ其儘ト為シタリト云フ
孫文演説ノ概要

吾々同志ハ目下日本ニ亡命シ居ルモ母国ヲ追慕スルノ念ハ瞬時モ腦裡ヲ去ラズ将来我民国ヲ如何ニシテ世界ニ介立シ得ルカハ大ニ諸君ト共ニ考慮セザルベカラザル事ト思惟ス唯今民国内地ノ状況ヲ見ルニ土匪、馬賊又ハ白狼等草賊ノ輩各地ニ蜂起シ掠奪ヲ事トシ民心一日モ寧カラズ又タ外交、財政等ニ於テモ唯ニ因循姑息ヲ事トシ居リテ何等見ルベキナク此儘推移スル時ハ破綻スルノ不得止境遇ニ立至ルヤ必セリ故ニ吾々国民タル者ハ之ヲ未倒ニ救済スルノ方法ヲ講ジ祖国ノ為メニ尽サルベカラザルヤ言フ俟タズ吾々同志ハ一層愛國心ヲ發揮シ私意私利ヲ抛テ専心国家国民ノ福利ヲ計リ延テ東亜ノ平和ヲ保持スルニ力メザルベカラズ将来世界ノ戦争ハ黃白人種ノ争ヒニ歸スベケレバ余ハ唯ニ支那トカ日本トカ云フガ如キ一国ノミノ平和ヲ云々スルモノニアラズシテ東亜ノ平和ヲ籌ラン事ヲ期スル者ナリ釁テ我民国ニ於ケル時代ノ要求タル第三次革命ノ起ル事アル場合ハ我々同志ハ平素ノ団体ノ何タルヲ問ハズ苟モ志ヲ同ジウスル士ハ一致協力

支那人ノ歡迎盛ナリ

五四一 七月十五日

在中国小幡臨時代理公使ヨリ
加藤外務大臣宛

孫文等ノ陰謀ニ関スル大總統令送付ノ件

附屬書

七月十四日附孫文等ノ陰謀ニ関スル大總統令

公第二五〇号

(七月二十日接受)

大正三年七月十五日

在支那臨時代理公使 小幡西吉(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

孫文等ノ陰謀ニ関スル申令公布ノ件

近来白狼匪ノ跋扈跳梁容易ニ終熄ニ至ラサルノミカ從容千里再ヒ河南省魯山ノ旧巢ニ休養ヲ試ムルノ態度ニ出テ革命党トノ聯絡ハ動カシ難キ事実ト認メラレ且ツ最近山西省ニ於ケル弓富奎ノ一揆ト云ヒ湖北仙桃鎮一帶ヲ騷擾スル季雨霖殘党湖南哥老会ノ蜂起ノ謡伝ト云ヒ所謂第三革命ノ伝説ノ漸ク盛シナルニ連レ是等ハ皆革命党ト何等カハ關係アル可シトハ民国總統政府者間ノ寧ロ当然揣摩スル処ナルヘク七月十四日大總統申令ノ要旨ニ云ク

乱党孫文等カ海外ニ亡命以來専ラ金錢ノ騙取ト秩序ノ擾

一四 中国革命党関係者ノ動靜ニ関スル件 五四一

誠心誠意同一ノ歩調ヲ執リテ国家百年ノ計ヲ念頭ニ置キ活動ニ努メザルベカラズ然レドモ唯ダ事ハ待ツベク求ムベカラズ功ハ自然ニアリテ競フベキニアラズ自ラ踏ムベキノ条理ヲ守リ時機ノ来ルヲ待テ已ムヲ得ザルノ義務ニ依テ起ツヲ期スベキノミ若シ徒ニ事ヲ為スニ孜々トシテ功ヲ立ツルニ汲々タルアラバ必ズ輕拳ニ失セザルヲ得ザルヲ以テ隱忍時機ノ来タルヲ待タザルベカラズ要スルニ吾々同志ハ進退ヲ共ニシ各自ノ行動ヲ慎ミ決シテ輕拳妄動ニ出デザラン事ヲ望ム又タ頃日新聞紙上ニ革命党ニ関スル種々ナル記事アルヲ見ルモ何レモ譏誣中傷ノ浮説ニシテ一モ事實ニアラザル事ハ諸君ニ於テ知得セラル、処ナルモ決シテ是等ノ浮説ニ惑ハサレザラン事ヲ望ム云々追テ来ル十二日午後一時ヨリ神田一ツ橋通り帝國教育会ニ於テ第二次革命討袁死難同志追悼会ヲ開ク筈ナリ

五四〇 七月十五日

在桑港沼野總領事代理ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

黃興一行桑港到着無事上陸ノ件

第二〇一号

貴電第五〇号ニ関シ黃興一行五名七月十五日到着無事上陸

乱ヲ目的トシ其種々ナル鬼賊手段ハ中外ノ共ニ知ル処也近ク上海並ニ各処ノ查獲報告ニヨレハ該党ハ新ニ紙幣ヲ偽造シ其一種ハ孫文刊発ノ定期偽國債券一種ハ黃興陳其美ノ写真ヲ掲ケ查印シタル軍用手形又一種ハ広東及中外各銀行紙幣ヲ模造シタルモノニテ之ヲ内地ニ分送シ軍隊ヲ誘惑シ内乱ヲ謀ルノ用ニ供スルニアリト各軍隊ニシテ其愚ニスル所トナラハ必ス法網ニ罹リ且ツ商民無窮ノ害ヲ受ク各省將軍巡按使及各統兵長官ハ嚴重査緝シ且ツ乱党ノ之等偽造債券偽紙幣ヲ散放スルモノハ立ロニ法ヲ正シ軍人ニシテ情ヲ知り之ヲ收受スルモノハ一併法ヲ按シ嚴懲ス可シ

云々ト有之候

右ノ申令中上海等各処查獲ノ報告云々トアルハ果シテ何ノ根拠スル処アルヤ究査ノ限リニアラサルモ近來本邦ニ於ケル支那人関連ノ紙幣偽造ノ件ハ屢々本邦新聞ニヨリ報道セラル、ノミナラス民国政府ノ明暗裡ニ本邦ニ派遣シアル探偵者カ飛耳張目誇大ノ報告ヲ為シ其功績ヲ街フニ勉ムルモノ多々ナルコト充分推察ニ余リアリ所謂第三革命ノ企圖ト共ニ痛ク民国總統政府ノ神經ヲ過敏ナラシメツ、アルハ勿

論今此申令ノ如キ正ニ其一端ト見ルヲ得ヘク候
右及報告候也

(附屬書)

大總統申令

亂黨孫文等自通逃海外以來專以詐騙金錢擾亂秩序爲目的の種
種鬼蜮久爲中外所共知乃近據上海等處查獲並各處報告該黨
新造偽紙幣多種一係係文刊發之限期偽國債票一係刊印黃興
陳其美等照像及簽名之軍用票一係仿造粵省紙幣及中外各銀
行鈔票分批運往內地以爲哄誘軍隊圖謀內亂之需各該軍隊倘
爲所愚必至誤罹法網且使商民受害無窮言之曷勝痛憤著各省
將軍巡按使及各統兵長官一體飭屬嚴行查緝倘有亂黨散放銷
售偽國債票偽軍用票及各種偽造紙幣一經查獲立即正法兵丁
人等如敢知情收受一併按法嚴懲毋得寬縱此令

大總統
統印

中華民國三年七月十四日

國務卿徐世昌

五四二 七月二十四日

在哈爾濱川越總領事代理ヨリ
加藤外務大臣宛

行ノ結果巡防隊士官及兵卒ハ多数淘汰(從前五十一營ノ陸
軍ハ十八營ニ減セリ)セラレタル次第ハ既ニ御承知ノ通ナ
ルカ是等ハ元ト現任旅團長巴英額及獨立騎兵旅團長英順ノ
部下其多数ヲ占メ將卒ノ不平ト巴、英兩旅團長ノ部下ニ對
スル体面上自然何等動搖ヲ惹起スヘシトノ推度ノ下ニ將又
巴旅團長カ元ト馬賊出身ニシテ横暴ノ性情ヲ有ストノ弱点
トニ鑑ミ此機ヲ利用シ先ツ巴英額ヨリ順次英順ヲ説イテ孫
文側ニ抱込ミ置キ他日有事ノ際新旧部下ヲ率ヒテ拳兵セシ
メントスルノ籌劃ニアリト推断被致候而シテ山田一行カ
右密旨遂行ノ手段トシテハ曩ニ当地ニ密派シ置キタル某支
那人ニ旨ヲ含メ巴英額ノ駐屯地ト称スル黑竜江省巴彥州
(松花江左岸ヲ距ル約三十清里)ニ派往セシメ使者カ巴英
額ヲ取付クルヲ俟テ更ニ山田ハ单独巴英額ト会商諸般ノ打
合セヲ為スヘク現ニ使者ノ帰還ヲ待受ケ居リ候而シテ巴旅
團長拳兵ノ行動ニ関シテハ山田自身未タ具体的ノ成案ナキ
モノノ如クナルモ八月末北滿一帶高粱繁茂シ行動ノ自由ニ
至ルヲ俟テ拳兵行々糧食ヲ掠奪シテ漸次南下ノ企圖ナルヤ
ニ想像セラル若夫果シテ拳兵ノ場合露国側ニ對シ何等藉口
ノ端ヲ誘致スルノ虞ニ至リテハ山田ニ於テモ相當ノ考量ヲ

一四 中国革命党関係者ノ動靜ニ関スル件 五四三

山田純三郎渡滿ノ使命ニ関スル件

政機密第三六号

(八月一日接受)

大正三年七月二十四日

在哈爾濱

總領事代理領事官補 川越 茂(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

今回孫逸仙ノ密旨ヲ帶ヒ渡滿シタル滿鉄社員山田純三郎ノ
行動注意方ニ関シ七月十四日附政機密送第三二二号貴信ヲ以
テ御下命ノ趣敬承致候同人ハ本月六日東京出發朝鮮經由急
行列車ニテ十日当地着本邦旅館ニ滞在中ニ有之候尚同人ハ
同様關係ヲ有スル上海滿鉄出張所員石田雄介(実ハ日本土
官学校出身支那人蔣介石当二十七年)及同シク上海滿鉄出
張所員長野周作(実ハ武昌武備学堂出身支那人丁人傑当二
十三年)ノ二名ヲ東京ヨリ帶同致来リ候
同人等來哈投宿以來當館ニ於テモ内々其行動ニ注意ヲ加ヘ
居リ候次第ニ有之彼ノ目的ハ全ク北滿ニ於ケル革命黨員ノ
実情ヲ探知セントスルニアルモ其主眼トスル所ハ「本年四
月間北京政府ニ於テ黑竜江省巡防隊ヲ新式陸軍ニ改編セン
トシ爾來屢々紛擾ヲ惹起セシニ不拘過般愈々之カ改編ヲ斷

加ヘ居ルモノノ如クニ有之候
抑モ革命黨員拿獲ノ儀ニ関シテハ本年二月間吉林民政長ヨ
リ当地道尹ニ訓飭アリ道尹ニ於テハ部下ノ日露語両通訳ニ
飭令シ民政長ヨリ送來ノ之カ偵察費五百元(五百元ハ省財
政窮乏トノ理由ニテ)並ニ逮捕狀ヲ分給シテ爾來極力査拿
ニ努メシメツツアリ此事実ハ曾テ右日本語通訳カ當館根津
通訳生ト交情親密ノ間柄ナルヲ利用シ且ツ革命黨員カ往々
当地本邦旅館ニ來宿ノコトアリトノ見込ヨリ彼カ所持セル
逮捕狀ヲ同官ニ内示シ使命遂行ニ援助ヲ与ヘラレ度旨懇求
セシコトアリ同官ハ無論ニ之ヲ聞流シニ付シ置タルコトナ
ルカ如此當地支那官憲ノ取締嚴重ナルニ鑑ミ本官ハ極メテ
不即不離ノ態度ニテ前記二名ノ支那人ニ對シテハ山田ヲ經
テ夫レトナク注意喚起為致置候

叙上巴旅團長勸説ノ如キ到底至難ノ業タルヲ免レス候得共
其ノ成否並ニ一行今後ノ行動ニ関シテハ精々注意ヲ払ヒ隨
時査報可致候右不取敢茲ニ報告申進候 敬具

五四三 七月二十八日

在中国小幡臨時代理公使ヨリ
加藤外務大臣宛

北京ガゼット紙掲載ノ中国政局ニ関スル「モ

リンソ」 「ブランド」ノ論説送付ノ件

附屬書一 七月二十三日附北京ガゼット所載「モリソン」

演説全文

二 七月二十五日附北京ガゼット所載「ブランド」
ノ「モリソン」演説等ニ対スル駁論

公第二六九号 (八月三日接受)

大正三年七月二十八日

在支那

臨時代理公使 小 幡 酉 吉(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

北京ガゼット切抜送付ノ件

当国大統領政治顧問「ドクトル、モリソン」カ過般倫敦商業會議所ニ於テ支那政局ノ現状ニ就キ一場ノ演説ヲ試シ旺ニ袁總統独裁治下ニ於ケル民国新政ヲ泰平ヲ謳歌シタル次第ニ関シテハ既ニ路逵通信等ニ依リ疾クニ御承悉之義ト被存候処本月二十三日発行ノ北京「ガゼット」ハ別紙切抜ノ通り特ニ該演説ノ全文ヲ掲載致シ更ニ廿五日ノ同紙ハ“‘The Chinese Paradox’”ト題シ曩ニ「モリソン」カ「タイムズ」及其他各新聞記者ニ与ヘタル「インターヴュー」

ニ於テ発表シタル支那樂觀説ニ対スル「ブランド」ノ駁論ヲ「オブザーバー」紙ヨリ轉載致居候
右「モリソン」演説ノ全文ハ各支那新聞悉ク之ヲ轉載致居リ旁々右ハ特ニ支那政府ニ於テ全文發表方取計タルモノト信セラレ本邦ヘハ未タ詳細ノ所報無之事ト被察候ニ就テハ何等御參考迄別紙切抜及送附候条御査閲相成度候也
(附屬書一)

七月二十三日附 Peking Gazette 所載「モリソン」演説全文

DR. MORRISON IN LONDON.
SPEECH BEFORE THE CHAMBER
OF COMMERCE.

(Through Reuters' Agency)

The following is the full text of Dr. Morrison's speech made before the London Chamber of Commerce on July 6, 1914.

Although I have come to England on furlough without any intention of making any public appearance on behalf of the country in whose service I am, I am glad to have an opportunity of correcting or attempting to correct what I conceive to be the misrepresentation

advised contracts for loan monies and then applying those monies to unproductive uses.

Fully aware of the injury that has thus been done during the past two years to the credit of the country, the President himself now supervises the operations of the Ministry of Finance and no contract can now be held binding until it has received Presidential sanction.

No one, and least of all the President, pretends that all China's difficulties at home and abroad are past, but it can be affirmed with confidence that the difficulties are less now than at any time since the Revolution. No one pretends that the campaign of calumny waged by a small remnant of irreconcilables who failed to bring about the second Revolution, who failed to divide China into north and south, who failed to repudiate China's foreign obligations, who failed to expel the President Yuan Shih-kai, the most progressive ruler ever known in China, have not had some effect, but the effect is diminishing and must, I believe, disappear.

Order is being maintained with the exception of the far distant district which is exposed to the depredations of the followers of the White Wolf, but here

to which many of the recent actions of the Chinese Government have been subjected in a certain section of the English Press. Statements that we have read in China with amused indifference have had their effect and the prevalent view held here seems to be that China or at any rate a large part of China is at present in a state of anarchy, the country fast drifting to perdition under the regime of an autocratic Dictator of unbridled ambition who, having taken a leading part in ensuring the abdication of the Manchu dynasty, is now alleged to be bent upon restoring that dynasty to the throne of China. Such a view seems to me to be in direct conflict with all evidence available to me.

I am not here as an advocate of the Chinese Government. I am not here in connection with any loan. As a matter of fact all the influence of the foreign advisers and of the more thoughtful Chinese is opposed to the obtaining of foreign loans except for certain restricted uses. We believe that the credit of China has suffered by the hawking about London of Treasury Bills issued mainly by the Provisional Government of Nanking and bearing high rates of interest and by the action of irresponsible officials in effecting ill-

also the area is being restricted. While it is too much to expect that no such sporadic outbursts will ever occur it can be contended that with every day of settled government the Government can more successfully cope with outbreaks of this kind, while the continuous extension of communications, railways, posts, telegraphs and inland stream navigation is steadily strengthening the authority of the Central Government.

Let me give you a brief retrospect.

The Revolution which broke out on the 10th October 1911 had for its object the removal of the Manchu dynasty, the most effect of all governments, with its Eunuchs, its worthless princes, its corrupt Manchu officials who held an immense proportion of all offices in China although their numbers were numerically insignificant. The movement spread. It was a popular movement. Support was given to it in every part of China. There was practically little bloodshed. By the intervention of Yuan Shih-kai, who was recalled from retirement, terms were made with the Manchu dynasty, by which they decreed their own abdication. A Provisional Government was established in Nanking with Sun Yat-sen as Provisional President. A Provi-

sional Constitution was formulated. Then there was the fine act of Sun Yat-sen in withdrawing his candidature for the Presidency of China and in supporting the candidature of Yuan Shih-kai, who by universal consent, both Chinese and foreign, was hailed as the man of Destiny best fitted to fill this high office.

Then there was a Parliament in Peking of Senate and House of Representatives, largely consisting of young students who had no administrative experience-how could they have administrative experience under the Manchus-who had an imperfect knowledge of their own country but who had imbibed advanced ideas of government in Japan, America and England. Then the trouble began. A Committee of members selected by Parliament was chosen to draft a constitution for China in place of the Provisional Constitution previously drawn up in Nanking.

All advanced students, these men, with eager impetuosity, determined to leap from an archaic autocracy to the most advanced form of modern parliamentary Government. They ignored the conditions of China. No one disputes their patriotism, but they did not realise that they were representatives not of the

Chinese as they are but of the Chinese as they might hope to become in the future.

They devised a constitution stripping the executive of all authority and placing paramount power in the hands of Parliament. Although China had engaged the services of two great Constitutional Jurists, Professor Ariga of Japan and Professor Goodnow of Columbia University, these distinguished men were not even consulted by the Committee whose deliberations they had been engaged to assist. It was enough that they had been engaged by the President, and therefore they were regarded as suspect. A climax was reached when, the constitution nearing completion, the delegates of the President were even refused a hearing. Every kind of interference was devised to thwart the Executive. Foreign obligations were to be repudiated. Loan contracts were not to be signed although money was urgently needed. Attempts to settle foreign international questions were blocked. The position became intolerable. It became still more intolerable when the two responsible leaders of the Senate appealed to the country to repudiate a contract entered into by the Government and not to remit taxes to Peking. A

revolt, organised by the irreconcilables, broke out and there was a definite policy to separate north from South.

That the President acted with restraint, that he only struck when he was compelled to strike, and after careful consultation with his ministers cannot be questioned. He dismissed the Rebel party, suspended Parliament and broke up the Provincial Assemblies. Then he summoned a body of 70 picked men to whom he submitted the constitution as drawn up in Nanking and subsequently modified in Peking and called upon them with the help of Professors Ariga and Goodnow to amend it.

That amended constitution, consisting of 68 articles, is the present Provisional Constitution of China.

In a careful study of this provisional Constitution Professor Goodnow points out that the form of Government in China is truly republican. Based as it is upon the constitution of America and the constitution of Japan it is in conformity with the historical development of European Constitutional Government, it is one well adapted to the people and well fitted to prepare

the people to evolve from the rigid autocracy of the past a form of representative Government for the future.

By this constitution the President holds office for five years. The President has pledged himself to this reformed Government. There is nothing in the past action of the President which should lead us to consider that he will not faithfully fulfil his pledges. Under this constitution the powers given to the elected President are much the same as the powers given to the Emperor of Japan. Under this form of government the Japanese have been successful in consolidating Japanese power and introducing into Japan the most beneficial features of western life.

At the present time the President is supported by a Council of State consisting of 70 men of administrative experience, many of whom held office under the Manchu regime, and other men of standing and education among whom is a reasonable proportion of foreign-trained students. To speak of the President, who has always been in the forefront of Progress, as reactionary, to speak of that body of 70 men as reactionary or to speak of the present officers of state

as reactionary, seems to me a misuse of terms.

The 70 men assembled in Peking are led by the Vice President, Li Yuan-hung, who enjoys a reputation throughout China second only to that of the President, whose republicanism has never been doubted and who is bound to the President by the ties of family relationship as well as sympathy and friendship. The Vice-Chairman is a former Minister to London. This Council of State will now draw up the permanent constitution of China, which will then be submitted to a National Assembly of the People and which before it can become law must be passed by the Assembly clause by clause by a two-thirds majority in a quorum of two-thirds.

Under the President the present Executive is in the hands of the Secretary of State as in America and nine other Cabinet Ministers, each head of the departments of State. There is no Prime Minister.

The Secretary of State was the first Viceroy of Manchuria when the government of Manchuria was reorganised. Judged by all standards he was an able administrator who conducted the affairs of Manchuria throughout a critical time, winning the confidence not

only of the Chinese but of the Japanese with whom he had to handle many serious and delicate questions.

The Minister of Foreign Affairs was Governor of Shantung. When Provincial Assemblies were first established in China and his address on the opening of the Assembly was regarded even by the foremost Chinese as one of the ablest presentations of the case for Parliamentary Government in China. He has been Minister to France and to Germany and speaks French and he certainly has conducted the foreign affairs of China in a way of which no Chinese need be ashamed.

The Minister of Finance was one of the first officials selected by the Reform party to be the Governor of Shantung Province. He has lived many years in America and abroad and speaks excellent English. The Minister of Communications, Liang Tun-yen, formerly Minister of Foreign Affairs under the old Manchu regime, is a graduate of Yale-a Cantonese who was for many years Adviser of the Viceroy Chang Chih-tung. He took a prominent part in drafting the Yangtse compact of 1900 by which the great Yangtse Viceroy undertook to disregard the orders of the Empress Dowager that all foreign men, women and

children in the Yangtse Valley should be exterminated.

There was no foreigner in China at that time who was not directly or indirectly indebted to this man. The Minister of Commerce, although he has never been abroad, is the foremost Captain of Industry in China. The Minister of Justice was trained in Japan. The Minister of the Navy has been many years in England. Kang Yu-wei, the noted reformer, is not in the service of the Chinese Government. He has always refused office, but his son-in-law is the Director of Foreign Affairs in the Province of Shantung, a territory as large as England and Wales. Liang Chi-chao, the other famous Chinese reformer, is head of the Currency Department and is one of the prominent members of the Council of State. Tang Shao-yi, who was the first republican Prime Minister, is not in office but his son-in-law is the head of the permanent staff of the Foreign Office in Peking. To cite only one other name, the Finance Minister under the Provisional Government of Nanking is the financial representative of the President in this country.

To speak then of Government by these men as being reactionary seems to me to be a mis-description.

Judge it also by its acts and the description seems still more erroneous. Look at the foreign affairs of China. At the present time China has no question with Russia. She has come to a harmonious arrangement with Russia with regard to Mongolia and has settled the dispute which was a legacy from the corrupt rule of the Manchus. With Japan with whom during some time relations were strained, for Japanese during the second rebellion took an active part on the side of the rebels, every outstanding question has been settled in a manner satisfactory to both countries. With England the relations of China are unusually cordial. There is only one question of importance outstanding, namely Tibet, while the attitude of the British Government towards the opium question has won the approval of all Chinese whose opinion is worth having. With France there is no question. With Germany no question, while with America relations are exceptionally cordial.

Then as regards other matters, the industrial development of the country has a more promising appearance than at any time since I went to China. Railway construction is proceeding in more provinces

President. It is generally admitted that the future prosperity of China depends largely on the development of her mineral industry. A policy which all of us condemn has in the past prevented the development of China's mineral resources with foreign capital, but I have every hope that this policy will be abandoned.

Then I come to the financial question, the one in which you are naturally most interested. The outlook I consider good. Look at the facts.

During the revolution the Foreign Powers with much consideration permitted the suspension for one year of the payment of the Boxer indemnity. It was one year only. At the end of the year China resumed payments and paid up all the arrears with interest. The Customs revenue of last year was the largest on record. For the first three months of this year there was another record but the collection has since shown some shrinkage but by no conceivable possibility can this be other than temporary. Telegrams from Peking to the English papers only a few days ago announced that there is a "deficit in the Customs revenue" and stated that the Customs had to call upon the Salt collection for £100,000 to help to meet payments due

at the present time than at any previous time. Large railway contracts have been signed or are on the eve of signature, by which Canton will have a double trunk line of railway to the Yangtse valley while other lines of railways will stretch from the Yangtse towards the borders of Tongking. The two northern trunk lines from the Yangtse to Peking are being connected by two transverse lines, one to be built by the British now under survey while another now under construction by a Belgian-French group will be completed in September, and will be a second section of the great trans-continental railway of China. The Central Government has taken control of all provincial railways.

A great scheme for the conservancy of the Huai river, whose annual inundations devastate three provinces, is about to be taken in hand by American capitalists under the guidance of the Red Cross Society. American engineers under the Standard Oil Co. are prospecting for oil and there is every indication that there will be a development of the oil industry in China. It has to be admitted, however, that the mining regulations are still quite unsatisfactory. This is a question now engaging the attention of the

in June. This message requires explanation. All foreign loans prior to 1900 and the large Boxer Indemnity of 1901 are secured upon the Maritime Customs. This revenue is sufficient to meet all these obligations, paid as it is month by month into the foreign banks and from the foreign banks direct to the foreign bondholders, but in the month of June there is an unusual payment on account of the service of the £16,000,000 Franco-Russian loan of 1895. At the end of May the Inspector General of Customs considered that a sum of not less than £150,000 would have to be provided from the Salt revenue in order to permit the uninterrupted payment of this service and accordingly this sum was set apart from the Salt collection and was already held by the foreign banks against this payment. Now we learn from the telegram that only £100,000 are required. A different impression would have been created had the message said that instead of £150,000 already set aside to meet the exceptional payment in June only £100,000 would be necessary and the other £50,000 would be returned to the Chinese Government.

Of the Salt collection, which every month is

coming in better, you have read much. For the first year it was estimated that £2,400,000 would be obtained from this source. There was delay in getting the machinery into operation but in the seven months remaining of the year the total collection came to £3,400,000 paid into the foreign banks and there is every indication that every month the collection will increase. In Canton, for example, where the revenue is paid in depreciated notes the collection for this current year, now that the depreciated notes are being redeemed, should be £2,000 sterling per day instead of as at present £1,000 sterling per day. Upon this total Salt collection, amounting already to £300,000 per month, upon only a small proportion of which any call has to be made for any previous loan, there is secured what is known as the Crisp loan of £5,000,000 of 1912. The service of this loan is £250,000 per annum and the amount needed to meet the next coupon due six months later is always retained by the foreign banks. In the case of the quintuple loan of £25,000,000 of 1913, the service of which amounts to £1,250,000 per annum, the foreign banks at the present time hold in their possession sufficient to meet all payments

Sir Richard Dane has preserved what was best in the old system.

During the revolution provincial taxation was largely abolished. With the reinstitution of authority provincial taxation has been resumed, and larger amounts are steadily being remitted to Peking. In the month of May the Central Government received £700,000 over and above one million and fifty thousand pounds paid from the surplus of the Salt Revenue. And here perhaps you will let me explain an anomaly which is misleading to you, but which is characteristic of the methods of Government in China. It is very difficult indeed to make Chinese officials realise that utterances intended only to influence their own people in China will be read abroad. Orientals have a passion for hyperbole and for self depreciation. A Chinese Minister of Finance setting forth to influence the provinces to remit money to the Central Government in Peking will gravely declare that the country is bankrupt, that it is past all hope, that it is on the brink of a precipice, and that if immediate help is not forthcoming, there will be foreign intervention, and the country will be engulfed. A Finance Minister will

for the next year. This is explained by the fact that for the first year when the Salt was to be reorganised, contributions were to be made by provinces towards the service of this loan. These contributions were made. They are held by the Banks and in addition the salt collection always retains enough for the next coupon 6 months ahead.

That is to say, the Five Group Banks retain permanently in their coffers the sum of One Million, one hundred thousand pounds sterling from the salt collection in readiness to meet all charges as they mature six months later. All amounts above this are paid back to the Chinese Government. Thus the investors in the Crisp Loan of 1912, which is an earlier charge, and the Quintuple loan of £25,000,000 of 1913, which is a later charge, are protected by all reasonable safeguards. You, no doubt, are aware that of the Quintuple Loan £4,000,000 are still unexpended.

The Salt Administration, under the guidance of a distinguished Indian expert, is gradually abolishing the system of credit, is establishing a fixed and uniform rate of taxation, and is collecting that rate at the seat of production. Radical changes have not been necessary.

make such a statement, oblivious of the fact that his announcement will be telegraphed all over the world, and will seriously imperil the credit of the country. China is new to the present method of government, but I am hopeful that within reasonable time, well considered statements, drawn up with the help of foreign experts, will be published, giving an adequate account of the financial condition of the Country.

New taxes are coming in well and China has now every hope of being permitted to revise her Customs tariff. Treaties provide that China shall have a Customs tariff of five per cent ad valorem. These ad valorem duties, by arrangement with the Powers, were converted into specific duties according to the prices ruling in the three years prior to the Boxer rebellion of 1900. Prices have altered materially since, and the net result is that the present ad valorem duties instead of being five per cent, are probably not more than three and a half per cent, and in cases they are only two and a half per cent. To revise this tariff, and to bring it up to an effective five per cent, the consent of fourteen Powers must be obtained. England, as would be expected, immediately gave her consent, as

As you no doubt know, two loans, to the total amount of £4,635,000 are extinguished this year, the final payment of the seven per cent 1894 loan of £1,635,000 being made next November 1st, and the Six Per Cent Gold Loan of £3,000,000 of 1895 having its final payment on December 31st. Extinction sets free £240,000 per annum from the Customs Revenue. On the other hand there are larger payments to be made next year on account of the Boxer Indemnity.

But I have taken up too much of your time. I would, however, make one suggestion before I sit

A SOLUTION.
(BY J. O. P. BLAND.)

Those Englishmen who find leisure, amidst the crowding problems of home affairs, to endeavour to form clear ideas concerning the course of events in China, must have been greatly perplexed during the past fortnight by the sharp conflict between authoritative and official opinions on the subject. To appreciate the inwardness of the situation and its apparently irreconcilable anomalies, account should be taken of the traditional workings and traditions of the mandarin system, and of the fundamental fact that the Central Government, hard pressed for funds to pay the troops upon whom its very existence depends, is at this moment endeavouring to raise a new loan in Europe.

Dr. Ernest Morrison, who made his great reputation as "Times" correspondent at Peking, and who has since become Political Adviser to Yuan Shih-kai, speaks on Chinese affairs with the voice of one having authority. Yet even the most casual 'bus-top reader of the daily papers cannot fail to have been impressed

down. It has reference to press comment upon affairs in China.

In the case of the President of the Chinese Republic, the most disastrous incident of his life, the one which he recalls with the greatest regret, was the looting on the 29th of February 1912 of a certain section of Peking by the soldiers of the Third Regiment, which many years before had been his own regiment. This incident shook his prestige at home and abroad. Yet now I read in a high class English magazine of March last that the general belief in England is that this mutiny was deliberately planned by Yuan Shih-kai to overawe the southern delegates. This seems to me to be the limit of extravagant hypothesis.

Englishmen have made their reputation in Eastern countries largely by their good sense and their sense of justice. What China asks of you is that here at this distance from China you should bring the same characteristics of good sense and sense of justice to the consideration of Chinese affairs.

(附屬書二)

七月二十五日附 Peking Gazette 所載「ブラ
ンド」ノモリソン演説等ニ対スル駁論

of late by the fact that between this eminent expert's uncompromising optimism and the day's news from Peking there has suddenly appeared a wide gulf, full of things unexplained.

On June 25, for instance, Dr. Morrison announced, through "The Times" and other papers, that tranquility was firmly established throughout the length and breadth of China, that the general situation was better than it had ever been at any time in his experience, and the outlook more promising. Almost at the very moment that these views were being expressed, the rich city of Kalgan (one of the few that escaped sackings during the revolution) was being ruthlessly looted by the First Division of Yuan's regular army, thus emphasizing once again the elemental truth that China's chronic unrests is not political, but economic, in its origins.

THE TWO "YOUNG CHINAS."

Again, in the course of the same interviews, Dr. Morrison warmly repudiated the idea that Yuan Shikai's policy is in any sense that of a reactionary autocracy or that he has cut himself off from the Young China party. According to the Political Adviser, whose

utterances must be regarded as more or less official, "the 70 members of the Council of State which stands behind the President represent every shade of opinion in China... the best and most progressive politicians of the Manchu regime are working in the fullest harmony with the pick of the Young China party." Only a week later we find the correspondent of "The Times" at Peking describing this Council as "solely a Presidential organ—its 70 members all savouring of the past a regular mobilisation of the Old Brigade. There is no Young Chinese among them."

The wide discrepancy between these statements arises, of course, from the use of the expression "Young China" in two very different senses. Most competent observers on the spot, including the majority of the Diplomatic Body, consider that the President is fully justified in excluding Young China—meaning thereby the turbulent politicians of Sun Yat-sen's following—from his counsels and offices. But to blazon this truth abroad might be impolitic, since it might alienate the sympathies of many well-meaning idealists in partibus infidelium, and antagonise that important element in public opinion which has persistently

identified Young China with Christianity. Therefore, it is only natural that Dr. Morrison, Mr. Chen Chintao (Special Financial Commissioner) and others interested in maintaining China's credit abroad should be led to describe the English-speaking members of Yuan's present Cabinet, staunch classical mandarins such as Liang Tun-yen and Sun Pao-chi, as representatives of "Young China," but no intelligent person on the spot would thus classify them.

THE FINANCIAL POSITION.

Turning to the purely financial aspects of the situation—admittedly the most important—Dr. Morrison declares that China's financial position is growing stronger every day; furthermore, on Yuan's authority, he announces that China has no difficulty in meeting her obligations of the Boxer indemnity, and so far from having any idea of postponing payments thereof, intends rather to expedite them in future. "Large amounts of surplus revenue," he says "after the retention in the foreign banks of sums sufficient to meet all obligations for six months ahead, are being returned to the Chinese Government."

On close examination, all these statements merely

amount to proof that the President after firmly suppressing the activities of Young China, has been able, by the aid of his own adherents and foreign loans, to restore once again something of the Central Government's authority in the provinces and partly to re-establish the old financial and fiscal relations between them and the metropolitan administration. Accepting the official figures quoted by Dr. Morrison, the official Government's revenues for the current year up to date, amount to about seven million dollars (Mexican) from general taxation and thirty-four millions of dollars from the Salt Gabelle.

This total, equivalent in sterling to about £4,000,000, still falls short of the regular quota remitted by the provinces under the Manchu dispensation, and inasmuch as the country's foreign obligations have been greatly increased since the revolution, it is evidently insufficient to enable the Central Government to pay its way. The remittances from the provinces are in themselves a highly satisfactory sign of the re-establishment of effective authority emanating from Peking; and as that authority increases the contributions to the national exchequer may be expected to grow.

At the same time, it would be unwise to overlook the consideration that these recent provincial remittances may have been influenced to some extent by a desire to assist Yuan Shih-kai in the negotiation of new foreign loans, part of which would naturally filter through to the provinces for the redemption of their depreciated paper money. The necessity for keeping up the country's credit abroad is certainly recognised more clearly by the merchants and officials of the South than by the Minister of Finance at Peking.

BIG TRADE DEFICIT.

But, be this as it may, the really dangerous position of China's finances is shown by the facts and figures of the Trade Report for 1913, recently published by the Inspector-General of Customs. It shows a continually increasing trade balance against China, involving a deficit of about £20,000,000 per annum, with no unseen sources of revenue in any way capable of meeting this drain. The Chinese Government now hopes to relieve the situation by obtaining the consent of the Powers to a considerable increase of the Customs tariff, as provided for in the Mackay Treaty of 1901. But any relief thus effected can only be temporary at

best, unless exports can be simultaneously stimulated, and this is evidently impossible so long as brigandage and "squeeze" remain chronic in the interior. The elimination of White Wolves and predatory mandarins would do more for the Chinese people than a 12 per-cent, import duty.

Thus we come, once again, to the old, well-worn conclusion, that the first need of the Chinese is good administration and the strengthening of the executive. Dr. Morrison tells us so, and it is true. That Yuan has strengthened his executive is undeniable. It remains to be seen whether with the materials at his disposal he can evolve in time a good administration. —(Observer)

五四四 八月七日 李家長崎県知事ヨリ
加藤外務大臣宛

中国亡命者柏文蔚ノ動靜報告ノ件

高秘特収第二二三四号 (八月十日接受)

大正三年八月七日

長崎県知事 李家隆 介
内務大臣伯爵 大隈重信殿

外務大臣男爵 加藤高明殿
警視総監殿
神奈川、京都、大阪、兵庫、
山口、福岡、佐賀ノ各府県知事殿
支那亡命者ノ旅行ニ関スル件
長崎市居住亡命者
柏文蔚

右ハ八月六日午後十時五十五分長崎発列車ニテ在京都譚人鳳ノ許ニ赴クト称シ单独出發シタリ
先是八月五日午後四時在東京某氏ヨリ当市東山手居住亡命支那人陳策(柏ノ扈從者)宛「至急相談アリ上京セヨ」トノ電報到達シタリ是全ク柏ノ上京ヲ促シタルモノト認メラレシカ時恰モ柏ノ妻病臥中ナリシヨリ出發躊躇ノ模様アリシニ八月六日急遽出發スルニ至レリ
柏ノ言ニ依レハ譚人鳳京都ニ在リ且下病氣ニ罹リ困難セルヲ以テ之ヲ見舞ヒ旁々嵐山地方觀光ノ為メナリ上京ノ事ハ京都着ノ上ナラテハ判明セサルモ或ハ上京スルニ至ルヘシ云々又歐洲ノ時局問題ニ就キ柏及陳策等カ交々語ル所ニ依レハ今回歐洲ノ戦争ハ支那革命同志ニ取リテハ衷心歎フ所

リ
右及申(通)報候也

五四五 八月七日 在中国小幡臨時代理公使ヨリ
加藤外務大臣宛

在日中国革命党取締方要求ニ関スル外交部覚

書写送付ノ件

附屬書 七月十七日附右外交部節略写

機密第三四八号 (八月十七日接受)

大正三年八月七日

在支那

臨時代理公使 小幡 西 吉(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

黄興陳其美等乱党取締方要求ニ関スル外交部

覚書写送附ノ件

本件覚書接到ニ関スル成行ニ就テハ八月六日往電第五五一号具報ノ通りニ候処本文ハ別紙写ノ通りニ有之候委曲御査閱相成度為念及御送附候也

(附屬書)

寫

節略

據確實報告黃克強陳英士曾在神田印刷所密印中華民國軍用手票六七百萬元查黃克強即黃興別字陳英士即陳其美別字皆爲中國亂黨首領今在

貴國私造軍用手票係爲偽造錢幣無論何國刑律皆視爲重罪

貴國刑法亦列有明文黃興聞已赴美應請

貴國政府飭禁不准再回日本如違禁令即拘捕依法處治至陳其美一犯如尙逃匿

貴國應請立即拘捕治罪爲盼又據確報千葉縣千葉町松葉館有炸彈破裂之事該彈係由大森浩然學舍生徒李明欽或名趙宇臣與野口忠雄中尉所私製係爲刑事現行之犯有擾

貴國治安想

貴國必當根據法律嚴加懲辦惟大森浩然廬現雖據報告業由貴國警署封禁難保無更立名目另組織機關情事應請

貴政府嚴加禁阻爲盼中日邦交日篤而黃陳各亂黨等竟敢以貴國地方爲謀亂本國之根據地無非自恃有號稱國事犯之資格爲之保護今既明犯

貴國刑法當然失去此種資格特請

貴政府內重國法外顧邦交分別懲治禁阻並希見復爲荷

リテハ五百万弗ヲ獲ル見込ナリトノコトニ有之候

黃氏運動ニ対スル当市在留支那人間ノ氣受モ黃氏七分袁氏三分ナル由ニテ黃氏ハ其一身ニ対シ現政府ヨリ懸賞アリト伝ヘラルルニモ不拘更ニ懸念ナキ模様ニテ當館來訪ノ場合ニモ僅ニ一人ノ同行者アリタルノミ又且下「サクラメント、パーレー」地方ニ遊説ノ爲出發シタル程ニ有之候然ルニ之ニ反シ支那政府ノ宣慰使トシテ黃氏ト前後シテ來桑セル徐桂ナルモノハ在留支那人間ニ極メテ不評ニシテ演説會ヲ開キ現支那政府ヲ弁護セントシタル際ハ聴衆ヨリ激烈ナル反抗ヲ買ヒ且其後脅迫的所為ヲナスモノ続出シタルヤニテ遂ニ同氏ハ南部地方ニ避難シタル由ニ候

米國官憲ノ黃氏一行ニ対スル態度ニ関シテハ当地限リニテハ華府ニ於ケル移民副總監 Larned 氏カ黃氏ハ適法ニ入國セルモノナレバ徒ニ送還シ難シ云々ノ言明ヲナシタルノ新開報ヲ承知致居候ノミニ有之候ヘ共当地新聞ニ依レバ当地駐在支那總領事ハ黃氏ノ行動ハ友好國ヲ攻撃スル爲メ米國ヲ軍事行動ノ策源地ニ供スルモノナレバ改正合衆國法第五二八六条 (Sec. 5286 Revised Federal Statute) ニ該當シ中立法ニ違反スルモノナレバ米國政府ニ対シ同氏一行ノ逮

孫 寶 琦 七月十七日

五四六 八月一日 在桑港沼野總領事代理ヨリ
加藤外務大臣宛

渡米後ノ黃興ノ動静ニ関スル件

機密公第六二号 (八月十九日接受)

大正三年八月一日

在桑港

總領事代理 沼野 安太郎(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

黃興渡米ニ関シ七月三日貴電第五〇号及六月廿八日附政務局長私信ヲ以テ御來訓ノ次第敬承然ル処同氏ノ搭乘セル天洋丸ハ客月十五日無事當港着同氏一行ハ直チニ入國ヲ許可セラレ市内「フエアモント、ホテル」ニ投宿シ兩三日後當館ニ來訪シ本邦滞在中御配慮ヲ蒙リタリトテ本官迄謝辭申述候

黃興当地ニ於ケル動静トシテハ同氏ハ在留支那人ニ対シ前後數回ノ演説ヲ爲シ袁氏ノ政府ヲ攻撃シ更ニ革命ノ必要アルヲ説キ軍資金ヲ募集シツ、アリ其同志支那人ノ揚言スル処ニ依レバ当地ニ於テ既ニ七十五万弗ヲ蒐集シ全米國ニ亘

捕ヲ要求スル意向ナルヤニテ七月三十一日華府來電新聞報ニハ既ニ同地支那公使ハ國務省ニ対シ其趣旨ヲ申入レタリトノコトニ有之候

右不取敢及報告候 敬具

五四七 八月十九日 警視庁ヨリ
外務省宛

元浩然廬塾長青柳勝敏中国第三革命ノ風説ニ

関シ談話ノ件

乙秘第一五三六号 八月十九日 (八月二十日接受)

青柳勝敏ノ談

元浩然廬塾長青柳勝敏ハ支那第三次革命ノ風説ニ関シ左ノ談ヲ爲セリ

近來支那第三次革命ノ機大ニ熟シ今回ノ歐洲動乱ヲ機會ニ今ニモ勃発スル様説ク者アルモ事實ハ全ク之ニ反シ現今革命党ノ内狀ハ全ク資力ヲ得ルノ望ミナク首領株モ多クハ各地ニ散在シテ日本ニ残リ居ル者ハ東京ノ孫文陳其美及京都ノ譚人鳳等ニ過ギズシテ歩調一致セザル憾アリ而シテ今日ノ処帝國政府モ革命ヲ幫助スルガ如キコトハ万ナカルバク最近ニ孫ノ手元ニ這入りタル金ハ僅カニ二

千円ニ過ギズ殆ンド生活費ニモ足ラザルノ状態ナリ去ル十四日孫ノ使者周応時来リ予ニ十万円ノ借款ヲ依頼セシガ出来得ル管ナシ無論政府ノ態度決シ革命党ニ助力ヲ与フルガ如キコトアラバ投機界ノ如キ幾分ノ影響ヲ与フルニヨリ出金者ナシトモ限ラズ然レトモ今日ノ場合絶望ト云フ外ナカルベシ支那内地ハ来月洪水、旱魃等アリ暴徒蜂起スルノ時ナレバ時機ヨリ云ヘバ好機ナリト云フコトヲ得ベシ故ニ孫一派ハ之レ等ト声息ヲ通ジ或ハ之ヲ煽動スル如キコトハ為シ居ランモ堂々ト革命ノ旗ヲ翻スニハ今ヤ一モ望ミナキ状態ニシテ革命ノ機熟セリナド世間ニ喧伝サル、ハ何事カ為ニスルモノ、浮説ニ過ギザルベシ云々

五四八 八月二十日 警視庁ヨリ
外務省宛

中国第三革命計画ニ関シ寺尾博士談話ノ件

乙秘第一五四八号 八月廿日 (八月二十一日接受)

寺尾博士ノ談

寺尾博士ハ其昵近者某ニ対シ支那革命党第三次革命計画ニ関シ左ノ如ク語ラレタリト云フ

本官心得迄ニ右取締方ニ関シ何分ノ義御電訓ヲ請フ

五五〇 八月二十三日 加藤外務大臣ヨリ
在鉄嶺森田領事宛(電報)

鉄嶺附近ノ中国革命党関係邦人取締方ニ関シ

回訓ノ件

第八号

貴電第九号ニ関シ此際殊ニ満洲ニ於ケル平和秩序ノ維持ハ絶対的必要ナルヲ以テ貴電御申越ノ如キ計画ヲ為ス本邦人等ニ対シテハ退去命令其他適宜ノ処分ヲ執ラレ厳重取締方可然御措置アリタシ尚彼等ノ氏名、身分、履歴、系統等取調ヘ詳細電報アリタシ

五五一 八月二十四日 在鉄嶺森田領事ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

鉄嶺附近ノ中国革命党関係邦人ニ対シ退去ヲ

命シタル旨報告ノ件

第一〇号

貴電第八号ニ関シ邦人ハ全部解散ノ上退去ヲ命シ支那人ハ当地ニ於テ挙事セサルコトヲ勧告シ今晚迄ニ引揚ケシムルコト、セリ邦人ハ岡山県人退役特務曹長岡崎藤次郎外十七

一四 中国革命党関係者ノ動靜ニ関スル件 五五〇 五五一

孫文一派ノ革命黨員等ハ今回ノ歐洲戦乱ヲ以テ第三次革命ノ拳ニ出ツルハ実ニ千歳ノ一遇ナリトシ大ニ謀議計画ヲ為シツ、アルモノ、如ク予亦革命其モノニ対シテハ好時機ナリト信スルモ目下ノ時局ニ於テ支那内地ニ動乱ヲ起サシムルハ我帝国ト英国外交関係ニ於テ帝国ノ為メ甚ダ得策ナラズ随ツテ彼等ノ革命其モノモ亦成功不可能タルヲ免カレザルノ事情アルヲ以テ彼等愈々此挙ヲ敢行スルコト、ナラバ予ハ断然之ヲ抑止スル積リナリ云々

五四九 八月二十二日 在鉄嶺森田領事ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

鉄嶺附近ノ中国革命党関係邦人取締方ニ関シ

請訓ノ件

第九号

自称第三革命黨員十数人邦人十数人ヲ同行シテ鉄嶺ニ来リ目下頻ニ(不明)数日中ニ昌圖開原鉄嶺各地ニ於テ事ヲ挙クル旨警察官ニ内話シタル趣鉄嶺城内(城内ニモ邦人アリ)ト鉄道附属地接近シ危険ノ次第ニ付鉄嶺ニ於テハ思ヒ止ラシムヘク勧告シタリ尚邦人ノ輕率妄動ハ之ヲ戒メサルヘカラスト思料セラル就テハ右邦人退去セシメタク就テハ

名支那人ハ何海鳴ノ配下ニ属スル邱丕振等数人ニシテ岡崎ハ大連ニ於テ何ヨリ挙事ノ援助依頼ヲ受ケタルモノナリ委細ハ公信ニテ御承知アリタシ

五五二 八月二十四日 福島関東都督ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

関東州及鉄道沿線附属地ニ於ケル革命党及宗

社党関係邦人ノ現状ニ関スル件

関東州及鉄道沿線附属地ニ於ケル革命党及宗社党ノ現状(大連)昨日退去ヲ命シタル何海鳴外六名支那人七日本人四(奉天)支那人一五日本人一(鉄嶺)退去ヲ命シタル支那人邱丕振日本人岡崎藤次郎ノ外日支人各一名アリ(開原)支那人一(公主嶺)日本人佐藤長次支那人^{リウカイシ}アリ佐藤ハ既ニ立チタリ(長春)支那人^{リウカイシ}日本人中野金藏馬賊ニ関係アリシモ目下謹慎其ノ他本溪湖、撫順、安東、遼陽、大石橋、營口、瓦房店、旅順管内一人モナシ以上挙げタル如ク日支人ニテ三〇余人アルモ監視厳重ニシテ彼等ヲシテ不穩ノ行動ヲ為ス余地ナカラシム御安心アリタシ

五五二

一四 中国革命党関係者ノ動靜ニ関スル件 五五三

五五三 八月二十四日 李家長崎県知事ヨリ
加藤外務大臣宛

孫臨時大總統発行ノ公債売却運動ニ関スル件

高秘特収第二三六四号 (八月二十七日接受)

大正三年八月二十四日

長崎県知事 李家隆 介

内務大臣伯爵 大隈重信殿

外務大臣男爵 加藤高明殿

警視總監 殿

頃日中華民国公債千円券三百枚ヲ東京ヨリ持来リ之ヲ売却セント運動シツ、アル者之アル由ヲ聞知シ内偵セシニ左ノ事実ヲ発見セリ

一 東京市青山南町四丁目居住警視庁編入乙号特別要視察人北輝次郎ノ妻スズ(三十年位)ハ十日頃頃当地ニ来リスズノ姉婿ナル当市八坂町五十七番地金銀細工業木本徳太郎方ニ投シ徳太郎ヲ介シテ中華民国元年二月八日発行同国軍需公債千円券二十六枚ヲ売却セントシ尚売買ノ契約成立スルニ至レハ更ニ東京ニアル二百七十四枚ヲモ持参スヘク売買ノ報酬ハ金額ニ対シ三分ヲ支給スル旨ヲ以テ

一而シテ当地ニ於ケル運動ノ結果ニ於テハ今日迄未タ売却ノ見込立タサル趣ニシテ一面スズニ対シテハ至急帰京方電報アリ一兩日中帰途ニ就ク模様ニ有之候尚其成行及譚人鳳其他革命黨員ノ關係如何ニ就テハ引続キ内偵中ニ有之候

右申(通)報候也

追テ上記ノ事実ノ真否ハ警視庁ニ於テ御調査ノ上何分ノ御通報ニ預リ度此段申添候

五五四 八月二十六日 在鉄嶺森田領事ヨリ
加藤外務大臣宛

鉄嶺附近ノ中国革命党關係邦人ノ動靜ニ関シ

報告ノ件

機密第二一号

(九月二日接受)

大正三年八月二十六日

在鉄嶺

領事 森田寛藏(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

第三革命計画ニ関スル件

本件ニ関シテハ本月二十四日附拙電第一〇号ヲ以テ及御報

一四 中国革命党関係者ノ動靜ニ関スル件 五五四

八〇八

シ為ニ多数ノ周旋者ハ各方面ニ涉リ目下奔走中ニ有之候一北スズノ密カニ語ル所ニ依レハ該公債ハ東京市愛宕下町今野晋三ノ所有ニシテ晋三ハ輝次郎ノ周旋ニ依リ第一次第二次ノ二回ニ亘リ革命軍ニ武器ノ売込ヲナシ其取引ハ譚人鳳トノ間ニ為シ居タリシ由ナルカ其代金未払ノ部分アリ譚ハ大總統孫逸仙ニ其支払方ヲ申込ミシニ当時現金ナカリシヨリ孫ハ八厘利付ノ該公債三百枚ヲ譚ニ渡シ之ヲ以テ一時融通方ヲ依頼セリ此ニ於テ譚ハ之ヲ晋三ニ交付セシモノニシテ其後ハ種々転々シテ担保トナリ数人ニ渡リ居タリシカ今回再ヒ晋三ノ手ニ歸シタルモノナリ晋三ハ第二革命ニ際シ非常ニ失敗シタルモ昨今第三次革命ノ議アルヲ耳ニシ該公債ヲ売却シテ資金トナシ再ヒ銃器ノ売込等ニヨリ前回ノ失敗ヲ回復セントノ希望ニテ之カ売却方ヲ輝次郎ニ依頼シタルヨリ輝次郎ハ東京ニ於テ運動セハ革命ノ軍資金ニ供スル嫌疑ヲ受クルノミナラス他ノ亡命者連ヨリ分配方ヲ申込マル、ヲ慮リ幸ヒ妻スズカ長崎出生ナルヲ便トシ密カニ同人ヲ当地ニ遣ハシ如上ノ売却運動ヲ為サシムルニ至リタルモノニシテ今日ニ於テハ譚人鳳ニハ何等ノ關係ナシト云ヘリ

告置候通りニ有之候処本邦人岡崎藤次郎ハ退役特務曹長ニシテ従前我京都ニ於テ桜橋協会ナルモノニ關係セシモノノ由ナルカ本年六月大連ニ渡来仮居シ同地ニ於テ革命黨員何海鳴一派ノ邱丕振等ト面識トナリ何及邱等ヨリ革命党ニ関与シテ行動ヲ共ニセラレンコトノ依頼ヲ受ケ本月二十日革命党援助ノ為メ当地ニ来リタルモノニシテ今回彼レカ引連レ来リタル邦人等ハ別紙ノ通何レモ大連方面ニ居住セル下層労働者輩ニシテ一時ノ糊口ヲ凌カンカ為メ岡崎等ノ招キニ応シタルモノナルカ嘗テ革命ニ關係シタルコトモナク又所謂支那浪人ト称スヘキモノニテモ無之候尚邱丕振等ハ何海鳴ノ輩下ニアリ従来機ノ到来ヲ窺ヒツ、アリタル折柄今回ノ時局ニ際会シ当地方面ニ挙事セントシ最初昌図又ハ開原城ヲ攻略シ之ヲ根拠トシ馬賊ト連絡ヲ取り徐ロニ同志ヲ糾合セント計画セシニ開原地方ニ於テ右革命党ニ参加セントセル馬賊ト巡警トノ衝突ノ結果支那側警戒遽カニ嚴重ヲ加ヘ容易ニ手ヲ下ス能ハス然ルニ本月二十日岡崎等一行ノ大連ヨリ来会シタルヲ以テ先ツ当地ニ於テ一時ニ勃発シテ以テ各方面ニ及ハントシ尚二十一日以来大連方面ヨリ姜明九、邱少尹、孫錫思等モ来鉄シ(邱丕振、李明鑑、陳幼

八〇九

閣、許賢臣等ハ十九日以来在鉄セリ一面八方二人ヲ派シテ同志及馬賊ノ糾合ニ努メツ、アル旨探知シタレハ貴電ニ依リ邦人岡崎等十八名ニ対シテハ当地ヲ退去セシムルト同時ニ当館管内ニ立入ルコトヲ嚴禁シ彼等ハ二十四日夕奉天ニ於テ旅費調達ノ上大連ニ帰着スヘク当地ヲ立去リ尚關係支那人ニハ当地ヲ立退クコト及当地附近ニテ再挙ヲ企テサル様敵ニ勸告シ其一部ハ大連方面ニ一部ハ長春方面ニ退却致候条右ニ御承知相成度此段御報告申進候 敬具
本信写送付先 在支公使在奉天総領事 在長春領事

五五五 八月二十七日 警視庁ヨリ
外務省宛

中国第三革命計画ニ関シ山本条太郎談話ノ件

乙秘第一六五五号 八月廿七日 (八月二十八日接受)

支那革命ニ関スル山本条太郎ノ談
元三井物産会社重役山本条太郎ハ支那革命ニ関シ左ノ如ク語レリ
一昨廿六日孫文ト和田瑞ト會談中自分ヨリ和田ニ対シ數回電話ニテ何事カ頻リニ交渉スル処アリタリト云フ風説アル旨ヲ耳ニシタルガ之レ全然自分ノ関知セザル処ニシテ

以テ一挙ニ袁政府ヲ仆シ一日モ速ク彼等ヲシテ民国政府ニ立タシメンコトヲ切望ニ堪ヘズ尚ホ自分ハ愈々彼等ニシテ事ヲ挙クルトセバ人ヲ率フルノ器トシテハ孫文ヨリハ老成家トシテハ譚人鳳、少壯家トシテハ戴天仇ヲ推サントスル者ナリ云々

五五六 八月二十九日 警視庁ヨリ
外務省宛

浩然盧解散後ノ情報ニ関スル件

乙秘第一六七七号 八月廿九日 (八月三十日接受)

青柳塾閉鎖ニ関スル件

府下荏原郡入新井村浩然盧解散後青柳勝敏ノ私塾ト為シ引續キ支那留学生ヲ收容教授スルコトナリシ旨本月十日内報ヲ經タルガ青柳塾モ亦今回解散スルコト、ナリ昨廿八日午前十時青柳ハ職員一同ヲ職員室ニ集メ当塾モ不得止事情ノ為メ本月限り全部解散ト決定セシヲ以テ諸子モ事情御諒察ノ上夫々準備アリタシト告ゲ一同ハ異議ナク之ヲ承諾シ続テ塾生一同ヲ校堂ニ集メ当塾ハ本月限り解散ト決定シ明廿九日午前十時閉塾式ヲ挙行スルニ付一同校堂ニ参集スベシ尚ホ塾生ハ本月限り退転ノ準備ヲ為スベシト申渡シタ

現ニ昨日ハ自分ハ所用ノタメ終日外出不在中ナリシガ自分ヨリ和田ニ対シ電話ヲ通セシ事モ無ク又和田ヨリ電話モナシ右ノ風説ハ思フニ何者カ為メニスル所アリテノ事ナランカ甚タ疑ハシク從來モ時々自分ノ名義ヲ利用サレ迷惑ヲ感セシコトアリ
和田トハ本年始メノ頃洪沢男ノ紹介ニヨリ孫文ノ件ニ関シ會見シタルコトアルモ未タ親シク交際シタルコトナシ孫文借款ノ件ニ関シテハ昨年中洪沢男、安川敬一郎等ノ有力者ト共ニ借款ニ応セントシタルコトアリシモ何分外務陸軍等ノ当局者ノ意見区々ニシテ纏マラザリシタメ立消ノ姿トナリタリ其後自分ハ孫文、洪沢男、中野武營等ト數回往復シタルコトアルヨリ孫文ト何等カノ脈絡關係アルカノ如ク吹聴スル者アレトモ其ハ甚タ誤解ナリ
然レトモ自分ハ支那ニ関シテハ素ヨリ南方ニ同情ヲ有シツ、アリ大隈首相、加藤外相等トモ親シク會談シタルコトアリシガ何レモ袁政府ハ悦ハサルモノノ如シ然レトモ時局ノ推移ハ対支那策ニ如何ナル變動ヲ来スヤモ計リ知ル可カラズ故ニ政府トシテハ濫リニ方針ヲ明カニスルコト能ハサランモ自分ハ此ノ機会ヲ利用シ革命派ヲ援助シ

リ

右解散ノ原因ハ塾生ノ關係ヲ有スル亡命者ノ首領連ガ昨今第三次革命ヲ起サント計畫シツツアル為メ塾生ノ多クモ其熱ニ冒サレ真面目ニ勉学セザルト一ハ經費不足ノ結果維持困難ナルニ由ル尚ホ塾生ノ行動ハ嚴密視察中ニ属ス

五五七 八月三十日 加藤外務大臣ヨリ
在上海有吉總領事宛(電報)

中国革命党関係者上海へ出航シタル件

第三四号

貴電第四八号末段ニ関シ

吳健民以下約百二十名(總テ革命關係者ナリヤ否ヤ不明)ノ支那人八月廿六日長崎発山城丸ニテ貴地ニ向フ尚蔡鏡露及宋嘉樹モ最近貴地ニ向ヒタル模様

五五八 九月二日 在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛

外交部ニ於ケル曹汝霖次長ノ勢力及同人ニ対スル袁總統ノ信頼ニ関シ報告ノ件

機密第三八七号

(九月八日接受)

大正三年九月二日

在支那

特命全權公使 日 置 益(印)

外務大臣 加藤高明殿

近來對支外交重要案件ニ関シ孫総長ヲ差擱キ曹次長ト折衝スル場合多ク右ハ閣下ニ於テ或ハ御不審モ可有之ト存シ御含迄左ニ其事情開陳致候

孫宝琦ハ嘗テ独逸ニ在勤シ居リタル關係上親独の傾向アルノミナラス且ツ頭腦明晰ヲ欠キ大局ニ通セス從而同人ト折衝スルモ不得要領ニ終ル場合多ク之ニ反シ曹汝霖ハ頭腦手腕遙ニ孫ノ上ニ在リ袁總統ノ信用頗ル厚ク目下外交部ヲ彼ノ双肩ニ荷ヒ居ルヤノ觀アル趣ハ先般來本使ノ屢々聞込ミタル所ニ有之候処最近兩人ト接觸ノ結果右ハ大体事實ニ相違ナキコトヲ確ムルニ至リ候尚聞ク所ニ依レハ曾テ或ル支那大官カ袁總統ニ向ヒ曹ノ人物ヲ稱揚シテ何故同人ヲ外交総長ニ任命セサルヤト推問セシニ袁ハ自分モ氣付カサルニ非ルモ若シ曹ヲ総長ニ任命スレハ外交上ニ関スル毀譽褒貶曹ノ一身ニ聚リ却テ彼ノ地位ヲ危フスル虞アルヲ以テ彼ハ暫ク現今ノ地位ニ置キ充分彼ノ手腕ヲ發揮セシムル方、同人ニ取リテハ勿論、國家ニ取リテモ利益ナリト考フト答ヘ

外務大臣男爵 加藤高明殿

客月廿八日長崎県通報中華民國公債売却運動ニ関スル件左ノ如シ

今野晋三ト譚人鳳ノ關係

芝区愛宕町三ノ一居住今野晋三八手広ク襦衣製造業ヲ営ミ上海ニモ支店ヲ有シ居レルガ支那第一次革命前同地ニ於テ宮崎虎藏^{つぐざう}ト知合トナリ同人ノ紹介ニテ哥老会ノ首領タル譚人鳳ト交際スルニ至リ第一次革命ノ際今野ハ譚ニ銃器ノ売込ヲ為ス目的ニテ独逸商館ト契約ヲ結ビ既ニ武昌ニ運搬セントシタルニ南北和解ノ結果時已ニ後レ目的ヲ果サス次第第二次ノ革命亂ニ当リ譚ニ多額ノ食料品ヲ供給シ其代金トシテ譚ヨリ中華民國公債千円券三百枚ヲ受領シタルモノナリト云フ

今野晋三ト北輝次郎ノ關係

北輝次郎ハ故宋教仁ト親交アリシタメ第一次革命後北ハ宋ノ秘書役ノ如キ位置ニアリタレバ從テ上海方面ノ支那人間ニハ多少ノ信用アリタルガ客年六月今野ガ上海ヨリ帰朝ノ際計ラズ北ト同船シ互ニ知合トナリ北ガ支那ノ事情ニ通ゼルヨリ爾來同人ヲ介シ支那米ノ輸入計画ヲ為シ今日迄交際

一四 中国革命党関係者ノ動靜ニ関スル件 五六〇

タル趣ニ有之候処現ニ本使カ九月一日袁總統ニ会见ノ際此時局ノ為今後彼我ノ交渉頻繁トナリ自然親シク貴總統ト面談シタキ事項モ多々起ルベキガ左リトテ其都度貴總統ヲ煩スコトモ如何アルヘキカト被存ニ付双方ノ意思ヲ充分ニ疏通スル為貴總統ノ最モ信頼セラル、適當ノ人ヲ指名セラル、様希望スル旨ヲ述ヘタルニ袁ハ言下ニ列席シ居リタル曹ヲ指シテ此人ハ予ノ最モ信頼スル者ナルヲ以テ今後事大小トナク悉ク曹ニ御申聞ケアリ度左スレハ直ニ巨細漏レナク本總統ニ通スルニ付左様御含置アリタシト答ヘタル位ニ有之候尚ホ森恪カ楊士琦ヨリ聞キタル所船津カ財政総長周自齊ヨリ聞キタル所ニ拠ルモ何レモ袁ニ對スル曹ノ信用甚タ厚キモノアルヲ認メラレ候

右御参考迄申進候也

五五九 九月三日 伊沢警視總監ヨリ
加藤外務大臣宛

孫臨時大總統發行公債売却運動ニ関スル件

甲秘第一四九号 (九月四日接受)

大正三年九月三日

警視總監 伊沢多喜男

ヲ繼續シ居レリ

公債ノ性質

譚人鳳ハ第一次革命後南方派臨時大總統孫逸仙ニ對シ湖南省軍資金參拾万円ヲ日本実業家ヨリ借入レアリト称シ右ノ金額ヲ孫ニ請求シタルニ孫ハ當時現金ヲ有セサリシタメ八分利付一千円券參百枚ヲ發行セシメ之ヲ譚ニ交附セシモノナリ然ルニ右公債ハ現支那政府ノ登記ヲ經サルモノナルガ故ニ今野モ之ヲ持テ余シ北ニ売却方ヲ依頼シ北ハ自己又ハ他人ニ依頼シ奔走中ノ次第ナリト云フ

附記

北ノ妻ハ客月三十日長崎ヨリ帰京シタルニ翌三十一日ニ至リ同地ニ住スル姉婿木本徳太郎ヨリ公債携帯至急來ルヘキ様電報ニ接シ夫輝次郎同道再ビ同地ニ向ヘリ
右及申報候也

申報先 内、外各相、京都、大阪、山口、福岡、
熊本、長崎各府県

五六〇 九月四日 在廣東赤塚總領事ヨリ
加藤外務大臣宛

廣東ニ於ケル革命運動近況報告ノ件

機密第二七号

(九月十六日接受)

大正三年九月四日

在広東

総領事 赤塚 正 助(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

歐洲ノ戦争以來革命党ニ対シ厳密ナル警戒ヲ加フヘシトノ電訓屢々中央政府ヨリ至ルト同時ニ南洋其他ニ在ル革命黨員続々香港若クハ澳門ニ潜入シ来ル形跡アリテ竜將軍ハ李巡按使ト協議ノ上盛ニ各地ノ警戒ヲ嚴ニシ殊ニ香港並ニ澳門ヨリ内地ニ入ラントスル革命黨員ヲ取締ル為メ九竜停車場並ニ香山県下ヲ警戒シ居レリ革命党側ニ於テハ土匪盜賊ノ徒ニ聯絡ヲ付ケ又一面ニハ李福林、陸蘭清等ノ旧緑林ノ兵ニ運動シツアル模様アリ数日前竜將軍ノ部下新会県ニ於テ一部ノ秘密計画ヲ探知シ之レヲ取押ヘタル際大元帥(朱)副元帥(陳)第二路元帥(譚)副元帥(元)等ノ白文字ヲ赤地ニ現ハシタル旗數十旌ヲ差押ヘタル趣ニテ大元帥(朱)ハ前信ニ報告シタル国民党ノ運動ノ巨魁ニシテ澳門ニ潜伏シ居ル朱執信ニ相当スルモノニアラズヤトノ疑アリト云ヘバ国民党ニ於テ潜ニ陰謀ヲ企画シツアルハ蔽フ

事

五六一

九月八日

加藤外務大臣ヨリ
在上海有吉總領事宛(電報)

蔣介石及陸惠生上海向出帆ノ件

第三九号

貴電第四八号末段ニ関シ支那亡命者蔣介石及陸惠生ノ兩名ハ九月三日門司出帆ノ春日丸ニテ貴地ニ向ヒタル模様

五六二

九月九日

警視庁ヨリ
外務省宛

中国第三革命計画ニ関シ頭山満談話ノ件

乙秘第一八〇二号 九月九日

(九月十日接受)

頭山満ノ談話

刻下ノ時局ニ際シ支那第三次革命ノ旗ヲ翻ス事ハ最早既定ノ事實ニシテ動スベカラサル者ノ如シ彼等革命黨員等ノ活動モ目醒シキモノアリ既ニ第一步ノ準備ハ成シ竣リタル者ノ如シ第二步即チ実行ノ期ハ何時ナルヤ知ルヲ得サルモ余ノ見ル所ニテハ目下支那ノ天地ニハ既ニ革命ノ曙光現ハレ居ルガ如クナレバ其時機蓋シ遠キ将来ニハアラザルモノト見テ間違ヒナカラン乎我政府ガ今次ノ時局ニ対シ執リタル

一四 中国革命党関係者ノ動靜ニ関スル件 五六一 五六二

ヘカサル事實ト云ハザルヘカラス然レトモ今日迄ノ処其一般ニ涉リ系統アル裏面ノ運動ハ竜將軍ニ於テモ未タ發見セサル趣ナリ尚竜將軍ハ広東第二回米作ノ不作ヲ懸念シ本年十月十一月頃最モ危険ナルヘシトノ予想ノ下ニ之レニ備ヘル為メ過日米糧食殊ニ米ヲ買ヒ入レ居レリ革命運動ニ関シ北京政府ハ此際日本人ノ動靜ニ特ニ注意スベキ旨訓令シタル趣ナル処昨日香港ヨリ竜ノ許ニ頭山満ノ紹介ニ依リ孫文ノ為メニ三井物産ヨリ六十万円借入ノ約束ヲナシ此金額ハ香港三井支店ニ於テ林虎ニ交付スルコトナリ居レリトノ密報香港ヨリ到着シ又同文書院学生九名内地ニ入リテ測量ヲナシタリトノ報告アリタル趣ニテハ特ニ竜等ニ於テ日本人ノ行動ヲ注視スヘシトノ訓令ヲ各地ニ下シタル結果ニ相違ナク右ノ情報ニ対シ昨日(九月三日)恰モ本官電訪問ノ際竜ヨリ之レヲ本官ニ示シ其實否ヲ問ヒタルヲ以テ其全ク根拠ナキ臆説ニ過キサルコトヲ弁シ竜モ安心シタル模様ナリキ竜ノ語ル処ニ依レバ広西方面ハ安全ナルモ雲南地方ハ稍々不安安全ニシテ警戒ヲ要スル模様ナリト云フ

右及報告候 敬具

本信写送付先 北京公使、上海、香港總領事、汕頭領

外交政策ニ就テハ聊カ慊焉タルモノナキニアラサルモ言フベキ時ニアラザレバ沈黙ヲ守リ居レリ革命黨員等ハ日本政府ガ英國ニ対シ此際支那内地ニ革命騒乱ノ起ルガ如キ事アリタル場合ハ責任ヲ以テ之レヲ鎮圧ス云々トノ協約ヲナシタリト唱ヘテ大ニ感情ヲ害シ居ル模様ナルガ果シテ我政府ガ英國ニ対シ如此誓約ヲナシタル事實アリヤ否ヤハ余等在野老耆大ノ知ラサル所ナレトモ議會ニ於ケル秘密会ニ於テ犬養ガ之ノ点ニ付キ政府当局者ニ質シタリトカ聞ケバ強チ事實ニアラズト否定シ難ク之等感情ノ相逆フ所乖離ノ端ヲ生シ将来ノ日支外交ニ障礙ノ因トナルナカラン乎甚ダ杞憂ニ堪ヘザルナリ日英同盟又ハ日英親善トカ云フガ如キモ亦タ将来如何ニ変遷スルヤモ知レザルノミナラズ或ハ却ツテ我東洋ニ禍根ヲ残ス素トナルヤモ計ラレズ徒ラニ英國政府ノ干涉ヲ受ケ姑息ノ策ヲ施シ革命党ノ感情ヲ拭フハ策ノ得タル者ニアラサル可シ袁政府モ目下ノ状態ニテハ其余命幾許モ無カラン我政府ガ徒ラニ東洋ニ關係薄キ国ヨリ言質ヲ採ラレ支那ノ内乱ニマデ干涉スルガ如キコトアラバ将来日支關係上集拾スベカラサルノ結果ヲ見ルニ至ルノ秋ナキヲ保セズ實ニ憂慮ニ堪ヘズ当局者ニ於テモ此辺ニ充分留意セ

ラレンコトヲ切ニ望マサルヲ得サルナリ
本日新聞紙上ニ表ハレタル電報ニ依レバ袁總統ハ親日ニ関スル訓令ヲナシタル処アリタリト果シテ之レアリタリトスレバ之レ袁一流ノ慣行手段ニシテ歐洲戦乱終熄ノ曉ハ袁ハ必ズヤ独、米兩國ニ頼ルハ従前ノ政策ニ依リテ炳然タレバ我政府ハ今ニ於テ南方ニ今少シク力ヲ傾ケ置カンコトヲ我国家ノ為メニ希望スル次第ナリ云々

五六三 九月十一日 加藤外務大臣ヨリ
在中国日置公使宛

中国亡命者取締ニ関スル在本邦中国公使覺書
送付ノ件

附屬書 九月九日在本邦陸中国公使松井外務次官ニ手交セル覺書

政機密送第三〇〇号

九月九日在本邦支那公使來省別紙写ノ通りナル亡命者問題覺書ヲ松井次官ニ手交致候右ハ先頃小幡代理公使ニ申通シ置キタルモノナル趣ニ付キ貴電第五五一号ノ事實ヲ指スモノカトモ思考被致候ヘ共同電所載ノ外交部覺書トハ内容相違致シ居リ候ニ付何等カ他ニ御心当リノ事實無之ヤ至急御

(右和訳文) (日本外務省作成)

先日小幡代理公使ニ手交セル条件左ノ如シ

(一) 日本政府ハ中国重要ノ乱党即チ孫黃陳李及ヒ曾テ逮捕ヲ指名セル人ニシテ日本ニ寄寓スル者ニ対シ正式ニ放逐スルコトヲ発表シ永遠ニ日本国境内及其属地ニ居留スルコトヲ許サス其正式ニ日本ヲ退去スル者ニハ再ヒ上陸ヲ許サス未タ日本ニ在ラサル者ニハ一切日本ニ來ルコトヲ拒絶スルコト

(二) 乱党ノ徒衆ニシテ日本ニ於テ中国ニ反対スルノ行為アル者ニ対シ中国政府ヨリ請求スルトキハ日本政府ハ法律ニ依リ之ヲ懲罰スヘク刑事事ヲ犯スノ証拠アリテ中国政府ヨリ引渡ヲ請求スルトキハ日本ハ直ニ之ヲ引渡スコト

(三) 日本ニ在ラサルノ乱党ニシテ日本人ト秘密共謀ノ挙動アルトキハ日本政府ハ(日本人ヲ) 厳密ニ取締リ且ツ法律ニ依リ懲罰スヘク日本人カ日本又ハ日本以外ニ在ル乱党ヲ庇護又ハ援助スルトキハ日本政府ハ均シク禁止ヲ実行スヘク又日本居留地及租借地ニ転住スルノ乱党ニ対シ中国ヨリ引渡ヲ請求スルトキハ日本政府ハ直ニ之ヲ引渡スコト

取調ノ上何分ノ義御回報相成度御參考ノ為訳文相添ヘ此段申進候也

(附屬書)

九月九日在本邦陸中国公使松井外務次官ニ手交セル覺書

日前面交小幡代理條件如左

(一) 日本政府對於中国重要亂黨如孫黃陳李及曾有令指捕之人之寄居日本者一概正式宣布放逐永遠不准居留日本境内及其屬地其正式退去日本者不准再行登岸未在日本者一概拒絕來日

(二) 日本政府對於亂黨之徒衆如有在日本作反對中國之行爲經中國政府之請求即應按律懲辦其有犯刑事證據經中國請求引渡者日本應即引渡

(三) 不在日本之亂黨如與日本人有秘密合謀舉動日政府應嚴密取締並按律懲治日本人如有庇護或援助在日本或日本外之亂黨日政府均應實行禁止其遷居日本租界及租借地之亂黨經中國請求引渡日政府即應交出

以上三項内酌量實行則於中政府此次助日亦可表示日政府眞誠互助之意

以上三項ノ内酌量實行スレハ則チ中国政府ニ於テ今回日本ヲ助クルニモ亦日本政府カ眞誠互助ノ意ヲ表示スヘシ

五六四 九月十四日 警視庁ヨリ
外務省宛

中国亡命者張嘉卿等ノ第三革命計画ニ関スル件

乙秘第一八二九号 九月十四日 (九月十五日接受)

支那革命運動ニ関スル件

支那革命者張堯卿、劉芸舟ノ兩名ガ去ル十一日夜牛込区加賀町二ノ五日本産業株式會社社長辻嘉六方ヲ訪問シ軍資金ノ調達并ニ銃器ノ周旋方ヲ懇願シタル件ハ既報(本月十二日乙秘第一八二〇号)スル処アリシガ尚ホ内偵スル処ニ依レバ前記兩名ハ既報ノ通り陸軍後備特務曹長財部尚吉(本姓ハ島村ト称スル由ニテ数日前大阪方面ヨリ上京目下麴町区内幸町一ノ四旅人宿玉木屋ニ投宿中)ナル者ノ紹介ニテ辻ニ会见シタルモノニシテ兩名ハ辻ニ対シ刻下ノ時機ハ支那革命ニ取リテハ逸スベカラザル好機ナルヲ以テ余等同志ハ愈々近々旗ヲ挙クル事ニ決シ其ノ準備モ略ボ整ヒ目下在米ノ黃興ヨリ軍資二百万円ヲ送金シ來ル事ニナリ居タレトモ

歐洲戦乱ノ起リタルタメ手違ヒヲ生ジ目下ノ所ニテハ其調達モ意ノ如クナラズ從ツテ余等ノ計画ニモ多少ノ頓挫ヲ来シタリ就テハ貴下ノ御尽力ニ依リ日本政府ナリ又タ民間ノ有志ヨリナリ資金三十萬元ト銃器五、六万挺ノ貸与ヲ受ケタシトノ申出ナリシ由ナルガ辻ハ之レニ対シ成程目下ノ時局ハ革命ニ取リテハ好機ナルニ相違ナキガ參謀本部ナリ其他ニ対シ尽力ノ勞ヲ採ラサルニハアラサレトモ唯タ革命ト云フ漫然タル事ニテハ力ヲ尽シ難キニ依リ貴下等ノ準備整ヒタリト言ハルル点ヲ具体的ニ聞クコトヲ得バ幸ナランガト言ヒシニ兩名ハ第三次革命ハ最初ハ孫、黃等ノ首領モ協同シテ事ヲ挙クル計画ナリシモ其後意見ニ齟齬ヲ来シ唯今ノ処ニテハ各自ニ事ヲ挙クル様ノ姿トナリ居レリ自分等ハ黃興ヨリ革命ニ関シ委任状ヲ受領シ居レリトテ之ヲ示シテ(左記ノ如シ)且ツ今回挙ゲントスル革命ノ計画ナリトテ江蘇省方面ニハ詹大悲(湖北軍政分府)劉毅(前南京第五師團長)何成濬(前南京警備軍司令官)湯成慶(前南京要塞司令官)雷洪(前黎元洪処參謀長)瞿鈞(前南京五十六旅團長)岳相如(前安徽團長)

広東省方面ニハ黎薈(前広東旅長)趙璧(同上)蔡懿恭(前

別レタル趣ナルガ辻ハ右ノ事柄ヲ知己ナル東京憲兵隊長高山大佐ニ相談セシニ同大佐モ強テ之レヲ阻止スルガ如キ模様ナカリシトカノ趣ニテ尚ホ此ノ上ハ林田衆議院書記官長ヲ通シテ明石陸軍參謀次長ノ意向ヲ聞糺シ其如何ニ依リ彼等ノタメ勞ヲ執ルヤ否ヤヲ決スル意向ナリト云フ

左記

黃興ノ委任状

委任状

今委任劉藝舟爲東北討袁軍司令官此状

黃興(印)

中華民國二年七月 日

辻ニ渡セシ書面左ノ如シ

對於江蘇方面已成熟之軍隊及退伍軍人可以尅期定希討袁之豫備

淮安府阜甯縣黨魁

藏再興 約黨界一萬一千人

方三 有銃三十年式五千挺子彈不足

另有雜鎗一千七八百枝

海州黨魁

広東都督府參謀)任鶴年(前広東北伐軍司令)李貞(前広東第五師團參謀)吳文華(今年広東黃岡起義司令官)等アリテ運動ニ從事シ居リ広東、広西、湖南、山東、江蘇、安徽ノ各省ハ聯絡完全ニ付キ居リテ此方面ニハ目下ノ処ニテモ約七万余ノ同志ハ今日ニテモ一令ノ下ニ直ニ矛ヲ執リ起ツ事出来得ル様ナリ居レルガ此方面ハ自分同志ノ勢力範圍ナリ御尽力ニ預リタキ銃器五、六万挺ト軍資三十萬元ハ此方面ニ使用スル者ニシテ雲南、貴州ノ兩省ハ李烈鈞ノ勢力範圍ニ屬シ浙江省全部ハ孫文、陳其美等ノ勢力範圍内ニ屬セシムル計画ナリト述ベ尚ホ左ノ如キ書面ヲ辻ニ渡セリト云フ

張、劉兩名ハ尚ホ辻ニ対シ日本政府ハ膠州灣攻撃ニ付キ山東、江蘇ノ兩省ハ最モ必要ノ地点ナランモ中立地帯ノ事故動兵上非常ナル不便ヲ感スルナランガ此際日本政府ハ五六百ノ兵士ヲ此方面ノ革命軍ニ加ヘラルル事ヲ得バ革命軍ニ取リテハ非常ナル利益ニシテ且ツ日本ノ為メニモ尽ス事ヲ得ルヲ以テ日本政府ニ於テモ大ニ利益ナラン云々ト述ベタリト云フ

以上ニ対シ辻ハ暫時熟考ノ上諾否ノ答ヘヲ致サント答ヘ相

仲八

約七千人 雙筒(二字不明) 各半
有銃三千枝 逸利夏

徐州代府黨魁

臚三傑

約八千人
有銃三千五六百枝

大湖黨魁

黃新泰

約五千人
有銃一千八百餘枝子彈不足

軍隊運動可以響應者

江陰

一團

鎮江

兩營

并要塞

楊州

一營

兩連

丹陽

兩連

南京城内

一營

響應

吳淞

水師

三營

蘇州

一營

盤門外兩連

五六五

九月十七日

警視庁ヨリ
外務省宛

張堯卿等ノ第三革命計画ニ関スル件

乙秘第一八五〇号

九月十七日

(九月十六日接受)

支那革命運動ニ関スル件

支那亡命者張堯卿、劉芸舟等が過般日本産業株式会社社長辻嘉六ヲ訪問シ第三次革命ニ要スル軍資金并ニ銃器等ノ借入方ヲ依頼セシ件ハ既報スル処アリシカ同人等ハ何海鳴一派ニ属スル革命派ニシテ聞ク所ニ依レバ同派ニ属スル一派ハ別紙ノ如キ革命計画ヲ立テ此際是非日本政府又ハ民間有志ノ裏面的援助ヲ受ケ蹶起セントテ奔走中ナリト云フ

追テ孫文一派ノ革命ニ於テハ何海鳴一派ハ真ノ革命志士ニアラズ一種ノ無頼漢ニシテ殊ニ張、劉ノ如キハ第二次革命ノ際ヨリ其行動ニ疑ハシキ点アリ或ハ袁政府ヨリ買収サレ居ルニアラズヤト思ハル彼等ハ黃興ヨリ討袁ニ関スル委任状ヲ受ケ居レリト至ル所之レヲ吹聴シ居ル由ナルモ黃興ハ決シテ彼等ノ如キ腐腸漢ニ委任状ヲ交付シ居ラズ若シ之レヲ所持シ居レリトセバ彼等ニ於テ何等カ為メニスル所アランガタメ偽造シタルナラン又タ彼等カ此際事ヲ挙ゲントテ運動シ居ルハ名ヲ革命運動ニ藉リ不正ノ利得ヲ獲ンガ為メニシテ真ノ運動ニアラズ縱令真ノ運動ナリトスルモ彼等ニ於テ何事ヲカ為シ得ンヤト一笑ニ付シ居レリ

其実ヲ語ラス引続キ其所在ヲ内査中一昨夜同家ノ雇人河本久吉ハ柳行李ヲ携ヘ京都駅ニ至リ其挙動不審ニ付取調ヲナシタルニ拳銃洋服長靴短靴等在中シ本人ハ主家ノモノヲ窃取逃走ノ途中ナリト云フモ信ヲ措キ難キ点アリタルニヨリ調査ヲ進メタル処種々不実ノ陳述ヲナシタル末漸ク主人岡崎藤吉郎ガ大阪市東区東雲町在住何海鳴方ニ立寄居ル為メ持行ク処ナリト申述セルニヨリ在否内査中ナリ而シテ岡崎方ニ付取調ヲナシタル処別紙写^(註、省略)ノ通り義勇隊内則及義勇隊志願者第三師団歩兵第三聯隊歩兵特務曹長岩田訓雄外二十三名ノ人名表ヲ発見セリ本書類ハ在留禁止前作製セシモノト認メラル

追テ本件ハ京都憲兵隊ト協力内査中ニ属ス
右及内報候也

京都府知事 大 森 鐘 一(印)
外務大臣男爵 加藤高明殿

内報先 内、外各相 大阪府岡山県各知事

関東都督府警視総長

五六七 九月三十日 警視庁ヨリ
外務省宛

一四 中国革命党関係者ノ動靜ニ関スル件 五六七 五六八

註 別紙討袁計畫書省略

五六六 九月十九日 大森京都府知事ヨリ
加藤外務大臣宛

中国革命党関係邦人ノ行動ニ関シ報告ノ件

高秘別第六九七号 (九月二十一日接受)

本籍岡山県児島郡宇野村大字宇野

九百六十二番地国三郎長男

当時京都市下京区九条町字横町四番地

(自称退職陸軍歩兵特務曹長勲六等功六級)

岡 崎 藤 次 郎

明治十六年五月廿八日生

右ハ本年六月廿二日桜橋会滿洲支部長ヲ囑托セラレ大連ニ於テ御即位式ニ関係アル図書ノ販売ニ従事シ居リタル処支那革命黨員何海鳴ノ一派ナル邱不振等ト氣脉ヲ通シ本年七月二十日本邦人無頼ノ徒十七名ヲ引辛シ鉄嶺ニ至リ掠奪ノ謀議ニ参加シタル廉ニヨリ八月廿八日ヨリ向フ三年間同地方ノ在留ヲ禁止セラレタルヲ以テ帰来ノ有無ニ注意中本月五日夜陰窃ニ帰宅シタルノ風評アルモ家人等ハ口ヲ緘シテ

孫文等ノ米國大使館訪問ニ関スル件

乙秘第一九五三号 九月三十日 (十月一日接受)

孫文等ガ昨廿九日及本日本米國大使館ヲ訪問セシ要件ヲ聞クニ右ハ既報(本月廿三日乙秘第一八九四号)スル所アリシ如ク支那革命黨員ガ南洋ニ於テ発行シ居ル新聞紙ガ過般袁總統ノ国民党ニ対シテ加ヘシ迫害并ニ同總統ノ罪惡ヲ完膚ナク掲載シ袁政府ノ施政ヲ攻撃シタル事アル由ニテ袁政府ハ之レヲ米政府ニ訴ヘタルタメ同政府ハ右新聞紙ノ発行ヲ禁止シ且ツ其記者ヲ拘禁シ目下審理中ノ由ニテ本事件ノ弁護士ヨリ米國大使館ニ対シ目下在京中ナル革命党ノ首領株ニ右新聞紙ニ掲載セシ記事ノ事実有無調査方依頼シ来リシヨリ過般同大使館ヨリ孫ニ対シ問訊スル所アリタル為メ孫ハ袁總統ノ罪惡及ヒ国民党ニ対シ加ヘタル惡辣手段ヲ一々実例ヲ挙ケタル証言様ノモノヲ「タイプライター」ニテ印刷シ昨日大使館ニ持参シタルモ大使及参事官等不在ナリシタメ本日更ニ之レヲ持参提出シタルニ在リテ他ニ何等ノ意味アル訪問ニアラズト云フ

五六八 九月二十四日 警視庁ヨリ
外務省宛

中国革命黨員柏文蔚等ノ行動ニ関スル件

乙秘第一九〇九号 九月廿四日 (九月二十五日接受)

支那革命黨員柏文蔚、譚人鳳、白逾桓、謝介僧、謝復ノ五名ハ昨廿三日午後二時ヨリ日本産業株式会社長辻嘉六(牛込区加賀町二ノ五、本月十二日乙秘第一八二〇号同十四日乙秘第一八二九号ヲ以テ既報ノ者)ヲ訪問シ約二時間会見セシガ今会談ノ内容ヲ聞クニ前記五名ハ池田群蔵(大阪ノ造船業者ニシテ上海ニ居住シ居レリト云フ過般上京麴町区内幸町一ノ四旅人宿玉木屋ニ止宿シ居レリ)ナル者ノ案内ニテ辻ヲ訪問シ過般同志ナル張堯卿、劉芸舟ノ兩名ヨリ貴下ニ懇願シ置キタル軍資金ト銃器ノ借入レ方ニ付キ是非共此際至急尽力ヲ仰キタシト云フニ要ハアリタル者ノ如クシテ辻ハ之レニ對シ先般張、劉ノ兩氏ヨリ目下陸軍部内ニ對シ人ヲ介シ運動中ナルガ貴下等ノ計畫モ張、劉兩氏等ノ計畫ト同一ナルヤト尋ネシニ柏文蔚ハ余等革命派ハ此際旗ヲ挙クルト云フ事ニ就テハ何レモ一致シ居レトモ其執ル手段方法等ニ付テハ支那各省ノ事情各異ナルニヨリ多少意見ヲ異ニシ居ルヲ以テ余等ノ計畫モ從ツテ張、劉等ノ計畫ト異ナル所アリ又タ計畫ハ今日定メ置クモ支那内地ヨリノ

- 一、重砲 二台
- 一、手槍 五百枝 遂槍子彈各二百粒
- 一、槍彈 八百萬粒
- 一、砲彈 一萬粒

(各蘇州上海等處)

以上器械係初次舉兵必需者、若已將揚子江下游第一階段佔領必須增加三個師團爲攻取南京安慶之準備此時須得三個師團之器械

右ニ對シ辻ノ語ル所過般張堯卿、劉芸舟ノ兩人ヨリ相談ヲ受ケタル林田衆議院書記官長ヲ通シ明石參謀次長ノ意向ヲ探リ見ント思ヒタレトモ林田ハ内田康哉ト親交ノ間柄ナルヲ以テ同人ニ話セバ必ズ之レヲ内田ニ洩シ内田ハ之レヲ外務省及ヒ大隈伯ニ伝ヘルノ虞レアルヲ以テ之レヲ見合セ或人(氏名ヲ語ラサレトモ同志会中ノ有力者ノ一人ナル者ノ如シ)ヲ介シ陸軍省及參謀本部内ノ意向ヲ探リタルニ大島陸軍次官ハ革命黨ニ對スル意見立チ居ラズシテ其意向ヲ知ルヲ得ス明石參謀次長ハ革命黨ニ對シ最モ熾烈ナル同情ヲ持チ居ル者ノ如クシテ銃器ノ如キモ陸軍部内ニテ都合出来得ル模様ノ如ク又タ軍資金ニ至リテモ彼等ノ要求シ居ル如キ少額ナレバ方法ノ如何ニ依リテハ出シ得ザル事ナキ様子

情報ニ依リ變更セサルヲ得サル事アリ支那革命ハ是非日本政府ノ援助ヲ受クルニアラサレバ絶対ニ目的ヲ達スル事ヲ得サルヲ以テ貴下ノ尽力ニ預リ日本政府ノ援助ヲ受ケ差向キ軍資金五十萬元ト別記(別記ハ柏文蔚ガ資金ノ使途ト銃器ノ種ヲ書シ辻ニ渡セシ者)銃器ノ貸与ヲ受ケタシ云々ト云フニアリタル由ナルガ辻ハ之レニ對シ目下陸軍省及參謀本部ニ對シ運動中ナレバ可成の貴下等ノ目的ヲ達スルコトニ尽力セント答ヘ相分レタリト云フ

別記(原文之儘)

- 經營揚子江下游之經費 由安慶起至上海止
- 一、海軍之運動費約十五萬元
- 一、敵軍之運動費約二十萬元
- 一、退伍將士之召集費約五萬元
- 一、南軍之聯絡費約五萬元

以上之費皆係未舉兵之先必需之款而器械不在此内

軍械之需數

- 一、步械 五千枝 三十年式
- 一、械關槍 五十台
- 一、山砲野 各十八台

ナレバ自分モ愈々彼等ノ依頼ニ応シ尽力ヲナシ遣ル決心ヲナシ目下奔走中ナルガ軍資金ニシテ若シ陸軍部内ニ於テ出来得サレバ民間ニ於テ五十ヤ六十万位ノ事ナラバ自分ノ手ニ於テモ出来サル事ハ無キ様思ヘドモ銃器ニ至リテハ今回露国ヨリ百五十万挺ノ注文来リタル模様ナレバ差間ヲ生スルニアラサルカト思ハルレトモ革命黨ニテハ三十年式ニテ事足ル様子故差間ヘヲ生スルガ如キ事ナシト信ズ彼等革命黨員ハ余ニ示セシ計畫書ヤ又タ本日柏文蔚ガ余ニ渡セシ資金ノ使途ニ関スル書付等ガ外務省ノ手ニ入ルヲ非常ニ恐レ居レリ云々

五六九 九月二十五日 警視庁ヨリ 外務省宛

本溪湖拳事ノ顛末ニ関スル陳中孚談話ノ件

乙秘一九一七号 九月廿五日 (九月二十六日接受)

過般支那本溪湖ニ於テ革命ノ旗ヲ拳ケシ首領陳中孚ハ既報ノ如ク本月十九日入京目下赤坂区田町二ノ一六旅館對翠館ニ投宿中ナルガ本溪湖ニ於テ革命ノ烽ヲ拳クルニ至リシ顛末ニ付キ左ノ如ク語レリ

一、自分ハ本年六月中旬孫文及陳其美ノ命ヲ受ケ大連ニ至

リ夫レヨリ奉天ニ移リ同所ニ根拠ヲ置キ新民屯、本溪湖、撫順、法庫門、土門子等ノ間ヲ奔走シ各方面ニ互リテ革命ヲ起ス計画ヲ立テ先第一新民屯ニ起リ法庫門ニ次ハ本溪湖又ハ撫順ト順次蜂起スル手筈ニテ殊ニ本溪湖ハ四方山嶽ニ圍繞サレ居ルヲ以テ之レヲ侵略スルハ容易ナリシガ計ヲス自分ノ部下宇某ナルモノ本月四日同所ニ於テ革命運動中同地警察署ニ拘禁セラレタルヲ以テ不得已同地ニ革命ヲ起サザルヲ得ザルニ至リ約三百名ノ黨員ニテ支那官衙ヲ襲ヒ一時優勢ナリシモ日本守備隊ト警察官ノ為メ鎮圧セラル、ニ至レリ又一方新民屯方面ノ革命運動ハ同所ニ於テ蜂起シ官軍ト交戦セシモ革命党ノ彈丸欠乏シタル為メ之レガ補充方ヲ自分ニ申来リタルニ依リ之レガ求メニ応セントセシモ革命黨員ノ銃ハ総テ独逸銃ニ引替ヘ露國銃丸ハ何程ニテモ補充シ得ラル、モ独逸銃丸ハ自分ノ許ニ一彈モ備ヘナカリシガ為此ノ求メニ応ズル事ヲ不得為ニ新民屯ノ革命黨員ハ官軍ニ對抗スル事ヲ得ズシテ僅カ六回官軍ト交戦シタルノミニテ敗逃スルノ止ムナキニ至レリ自分ハ此際ハ奉天ニアリテ總テヲ指揮シ居タルモ奉天警察署ハ更ニ之レヲ知ラザリシガ如クニ

グル計画ナリシヲ以テ之レガ予定ノ行動ヲ採リ得ハ素ヨリ南滿洲ノ活動ニ重キヲ置クモノニ非ラズ又成功覚束ナキハ覺悟ノ上ニテ南滿地方ニ於ケル革命ヲ助クルノ牽制策ニ過キサルノ運動タリシモ案外ニモ日本ノ軍隊ノ干涉ヲ受ケテ迫解散ヲ命セラレタル為目的ヲ達スルヲ得サリシ又一方南滿革命黨員ノ蜂起セサリシハ軍資金ニ行違ヲ生シタル為ニシテ南北相応スル事能ハザルニ終リシハ革命ノ時期未タ到ラザルモノナル可ト察セラル云々ト語レリ

五七〇 九月二十五日 警視庁ヨリ
外務省宛

孫文ト郡司大尉トノ対談ニ付報告ノ件

乙秘第一九一九号 九月廿五日 (九月二十五日接受)

一、本月廿三日午後一時郡司成忠ハ孫文ヲ訪問左ノ問答ヲナセリ

郡司曰ク当所ニ孫先生ノ居ラル、ハ知り得タルモ別段要件ナキ為メ今回迄訪問セサリシ近頃歐洲戦乱ニ対シ先生ノ所感ヲ聞カント欲シテ本日来レリ云々

孫文答ヘテ曰ク別ニ所感ト云フヘキ事ナキモ我々ノ運動

一四 中国革命党関係者ノ動靜ニ関スル件 五七〇

テ本溪湖警察署ヨリ電話有リテ始メテ其騷擾ノ根拠地ハ奉天ニテ総指揮者ハ自分ナル事ヲ知りタル者ノ如クニシテ非常ニ狼狽シ一面関東都督府ニ不取敢報告シ其他關係官署ニ交渉協議ノ結果出デシ者ノ如ク自分等以下重ナルモノ十有余名ハ警察署ニ拘束セラレ遂ニ都督府名義ニテ革命党ニ大ニ同情ヲ表シ居ラルル大嶋滿洲守備隊長ヨリ解散ヲ命ゼラルルト共ニ同地ノ退去ヲ命セラレタリ依ツテ余等一行十八名ハ不取敢日本ニ来リシモ之等一行中ニハ何等ノ要ヲ為サザル人物多キヲ以テ之レガ処置ニ苦シミ門司上陸後之等一行ハ同地ニ留メ置キ之レガ善後策ヲ講センガ為メ自分一人ノミ上京セシ次第ナリ尚ホ自分等ガ以上ノ如ク滿洲方面ニ革命ヲ起スノ計画ハ単ニ同方面ニノミニテ活動スルニ非ラスシテ奉天ヲ中心トシ其附近ニ於テ事ヲ拳グル場合ハ必ズヤ張作霖部下ノ兵ヲシテ討伐ニ向ハシムルモノナランガ之レハ反ツテ余等革命黨員ノ望ム処ニテ張作霖部下ノ兵ハ孰レモ革命ニ加担スルノ氣脉ヲ通シ居ルヲ以テ一層ノ勢ヒヲ得新民屯、昌圖興隆店其他ノ軍隊ヲシテ革命ニ下ラシムルハ容易ナルト同時ニ孫文ノ直接指揮シツ、有ル広東組モ南清ニ於テ事ヲ拳

ニ対シ日本政府ハ兎角惡感情ヲ持チ居ル模様ナリ何カ耳ニシタルコト無之哉同タシ云々

郡司曰ク自分ハ久敷現政府ノ者ト対談シタルコトナキヲ以テ更ニ判明セス云々

孫文曰ク我々ノ革命運動ニ関シ郡司先生ノ所感ヲ伺ヒタシト云ヒタルニ対シ

郡司答ヘテ曰ク我々ノ考ヘハ孫先生ノ方針ノ那邊ニ存スルヤヲ疑フモノナリ何トナレハ第一革命ノ當時ハ革命者モ之カ鎮圧者モ共ニ幼稚ナリシモ革命ノ不成功ニ終リタルハ一ハ人才ニ乏シキト其方法ノ不完全ナリシ為メナルハ何人モ認ムル所ナリ尚ホ第二革命當時ニ於テモ公明正大正々堂々ト事ヲ拳ケンシタルタメ衰ヲ刺殺スルコトヲ得サリシナリ左ナクバ其目的ヲ達シタルナランニ事茲ニ出テサリシハ其真意ノアル処ヲ察知スルヲ得ス云々又第三次革命ニ於テモ既ニ夫々計画準備等モ成リ居ルナランモ自分ノ考トシテハ從來ノ如キ手段ニ拠ラスシテ揚子江下流ノ島嶼ニ革命ノ根拠地ヲ置キ各國ノ干涉ヲ受ケサル地点ヲ撰ブ必要アリ勿論此根拠地ハ開港場ニ近クシテ

「ジャンク」ヲ用キス陸地ニ往復シ得ラル、処ヲ尤モ適當ノ場所ト信ス如何トナレハ外国ノ干涉ヲ受クル個所ハ革命ノ成功尤モ困難ナルノミナラス到底成就ノ見込ナシ故ニ右ノ如キ地点ヲ撰ビ活動ヲ開始セハ必ス成功スヘク又之レカ人員ヲ集ムル手段ハ夫々ノ方法モアルナランモ先ヅ第一革命成功ノ曉ハ百人ヲ引卒シタル者ニハ百町歩ノ土地ヲ与ヘ千人モ亦然リト云フカ如ク賞ヲ厚フスルノ方法ヲ取ラハ忽チ革命ニ来リ投スル者多数ヲ得ルハ明ナリ、目下我々ノ部下千四百名ノ如ク北海ノ漁業ニ従事スル（ラツコ）者モ日米条約ノ為メ向十五ヶ年間ハ徒食ノ状況ナリ然レトモ国家ノ為メナル以上已ムヲ得ス（暗ニ革命ノ方法宜敷ヲ得ハ千四百名ヲ加担セシムヘシトノ意ヲ洩ス）孰レニスルモ革命ヲ起サントスルニハ現今ノ場合借款等ニ奔走スルハ愚ノ極ナリ宜敷根拠地ト人物ヲ撰フヲ以テ必要トス云々

其後両者ハ革命ニ関スル談話ヲ為シ午後四時五十分郡司ハ辞去シタリ其談話ノ終リニ臨ミ孫文ハ本月上旬陳中孚カ本溪湖及奉天ニ革命ヲ挙ケンツタルニ日本官憲ノ干涉ニ依

リ退去ヲ命セラル、ノ止ムナキニ至リタル旨不平ラシク語リタルニ対シ郡司ハ何ヲ答フル処ナカリシト

五七一 九月二十六日 警視庁ヨリ 外務省宛

孫文一派ノ革命運動計画ニ関スル件

乙秘第一九二五号 九月廿六日 （九月二十八日接受）
支那革命黨員等ガ刻下ノ時局ニ際シ事ヲ挙クルコトニ決シ目下奔走中ナルコトハ数次報告スル所アリシガ今孫文一派ノ計画ナリト云フヲ聞クニ其ノ順序ヲ三段ニ分チ居ル者ノ如シ先ヅ第一ニ過般孫文ヨリ旅費ヲ与ヘ帰国セシメタル革命黨員ヲシテ既報ノ如ク支那各省ニ於テ革命熱ヲ鼓吹セシメ而シテ革命軍ノ根拠地ヲ可成の離レタル各省ニ於テ小動亂即チ土匪ノ如キ者ヲ蜂起セシメ以テ南方ノ牽制策トナシ第二ニ長江沿岸ノ各地ニ於テモ亦タ同様小動亂ヲ起シ南京其他ニ於ケル政府ノ軍隊ヲ此ノ方面ニ向ハシメ以テ根拠地（革命軍）方面ニ於ケル軍隊ノ力ヲ削ラシムルト同時ニ又タ一面ハ支那政府ハ陰曆ノ節会ニハ全国軍隊ノ兵士ニ酒代ヲ交付セサルヲ得ザル例ナレトモ目下ノ袁政府ハ財政空乏シ居レバ之レヲ下賜スル事ヲ得ザルノミナラズ併セテ軍隊

ヲ動かスニハ尠ナカラサル金ヲ要スレトモ以上ノ次第之レ不可能ナル事ハ明カナレバ兵士ハ一層袁政府ヨリ心ヲ離シ

之レヲ恨ムニ至ルハ必然ナレバ此機ニ乘シ種々ノ謠言浮説ヲ放チ以テ人心ノ惑亂ニ努メ膠州灣陥落ノ時期ヲ以テ第三段トシテ茲ニ愈々真ノ革命旗ヲ挙グルノ計画ナルガ如シ

革命ニ就イテハ彼等ハ日本政府ノ援助ヲ受ケタキハ万々ナルモ目下ノ事情ニ於テハ絶対ニ不可能ナリトテ断念シ居ル者ノ如シ軍資金ニ就テハ既報ノ如ク南洋方面ニ於テ相当ノ調達ハ出来居ル由ナレバ目下銀相場ノ立タサルタメ今直チニ之レヲ手ニスル事ヲ得ズ米國方面ヨリハ時々一万、二万ト云フガ如キ少額ノ金ハ送り来ル模様ナルモ之等ハ旅費其他ノ費用等ニ充テ居リテ此際是非最少限度トシテ百万円位ノ資金ヲ得ル必要ヲ認メ目下頻リニ苦心シ居レリ此資金ニシテ調達シ得バ支那軍隊ヲ買収スル事易々タレバトテ銃器ノ如キハ軍資金ノ如ク左程苦心シ居ラサル者ノ如シ
目下革命軍ノ根拠地ハ上海ニ置キアリテ各省ニ亘リ総テノ指揮ト連絡トハ同地ヨリナシ居レトモ支那内地ノ交通不便ノタメ指揮意ノ如クナラズ又タ加之ルニ目下同地ト日本ノ間ニハ暗号電報ヲ使用スルコト能ハサル為メ郵書ノ往復ヲ

ナサマルヲ得ズ之レガ為メ時機ヲ失スルコトアリテ非常ニ不便ヲ感シ居レルガ如シ

革命ニ就テハ是迄屢々失敗ヲ重ネ居レバ今次挙ケンツタル革命ニ就テハ万全ヲ期センガ為メ各方面ニ涉リ周密慎重ナル態度ヲ執リ居レリト云フ

五七二 九月三十日 在漢口瀨川總領事ヨリ 加藤外務大臣宛

揚子江方面ニ於ケル革命党ノ動靜ニ関シ報告

ノ件

機密第九六号 （十月九日接受）

大正三年九月三十日

在漢口

總領事 瀨川 浅之進（印）

外務大臣男爵 加藤高明殿

先般海軍總長劉冠雄ノ揚子江方面各地ヲ巡視シタル表面ノ理由ハ近時歐洲ノ戦亂勃発以來日英独仏ノ軍艦何レモ長江筋ヨリ撤退シ若クハ武装ヲ解除シタルヲ以テ爾来支那軍艦ヲシテ諸外国居留民保護ノ任ニ当ラシメ居ルカ故ニ海軍總長ハ其職務上右等ノ狀況ヲ実地ニ就キ視察セントスルモノ

ナリトノコトニ有之候処劉総長ハ此機会ヲ利用シテ所謂ル革命派即チ袁政府ヲ顛覆セント企画セルモノ、動靜ヲモ併テ探查スルノ用務ヲ帶ヒ居タルモノト相見エ此頃來新聞紙ノ伝フル所ニ拠レハ劉ハ北京ニ帰任ノ上長江一带ニハ目下革命党勃発ノ憂ナシトノ事ヲ復命シタル由ニ有之候

当地附近革命党ノ事ニ関シテハ種々ノ謠言アリテ常ニ人心ヲ動揺セシメ居ルヲ以テ支那当局者ニ於テ絶ヘス警戒致シ居ル次第ニ有之候処当地地方ノ人民ハ最早前年来ノ革命ニ懲リ此地カ再ヒ擾乱ノ中心ト為ランコトヲ恐レ居ルノミナラス幾回政府ヲ顛覆スルトモ到底理想的完全ナルモノヲ建造シ得ヘキモノニアラサルカ故ニ成ルヘク此儘ニシテ無事平穩ナランコトヲ希望シ且ツ支那政府ニ於テモ当地ハ第一革命成功ノ土地ナレハ殊更注意ヲ加ヘ特ニ袁大總統ノ信用最モ厚キ段將軍ヲ撰拔シ駐紮セシメ之ニ附スルニ北方ノ諸兵ヲ以テシ万一ノ際官兵ヲシテ叛徒ニ与スルカ如キコトナカラシメンコトヲ期シ居ル次第ニテ革命党ノ予防ニ関スル政府側ノ注意ハ頗ル周到ヲ極メ居候

目下亡命者ト為リテ日本ニ客居セル革命一派ノモノハ常ニ当地地方ノ革命党ト氣脉ヲ通シ或ハ白狼ニモ内通シ或ハ湖北

孫黃一派ノ信用モ昔日ノ如クナラサルヲ以テ第一革命成功ノ紀念地トシテ著名ナル武漢ノ地ハ今後中支那地方ニ於ケル商工業ノ中樞要地トシテハ益々發達繁盛ニ至ルヘキ望十分ナリト雖モ此地ニ於テ再ヒ政治的の革命ノ運動ヲ為シ其成功ヲ期スルハ蓋シ難事ト存候
右御参考マテ及具報候也

写送付先 在支那公使

五七三 十月二日 警視庁ヨリ
外務省宛

孫文等ノ板垣伯訪問ニ関スル件

乙秘第一九六七号 十月二日 (十月三日接受)

孫文ハ客月廿二日戴天仇、菅野長知ノ兩名ヲ伴ヒ板垣伯ヲ訪問シ支那革命ニ関シ現内閣ノ援助ヲ受ケントシ其幹旋方ヲ乞フ所アリシモ伯ノ意見孫等ノ希望ト一致セザル処アリテ要領ヲ得ルニ至ラズシテ退出セシガ其後孫ハ尚ホ戴天仇ヲ同伯邸ニ派シ重ネテ其幹旋ヲ乞ハシメタルニ伯ハ之レニ答ヘテ曾テ大隈首相ニ懇談セシモ首相ヨリ確タル答ヲ得ルニ至ラザリシヲ以テ此ノ上ハ革命党關係日本人側ノ重立者ノ意見ヲ纏メタル上ニテ一考スベシトノ事ナリシ由ニテ戴

一四 中国革命党關係者ノ動靜ニ関スル件 五七三 五七四

軍隊ノ一部ヲ買取シ居ルカ如クニ伝説スルモノモ有之候処支那人側ノ觀測ニ依ルトキハ現ニ日本ヲ始メ新嘉坡及欧米各地ニ散在セル革命党ノ首領株ハ何レモ各人各自ノ意見ヲ有シ其統一ヲ欠ケル上支那内地ノ革命派トモ満足ナル聯絡ノ保タレ居ラサルヲ以テ今日ノ如キ有様ニテハ到底何等大事ヲ成就スルコト能ハサルヘシトノコトニ有之候又翻テ当地ニ於テ有力ナル支那商人等ノ言ヲ聞クニ袁世凱ノ始メテ大總統ト為リシ時ニ於テハ当地地方ノ人モ袁政府ニ對シ頗ル嫌焉タルモノアリシモ今日ニ於テハ袁ノ信用モ漸次恢復シテ支那刻下ノ難局ニ當リ錯雜セル国政ヲ調理スルニハ袁ノ外適當ノ人物ナキカ故ニ現政府ヲ繼續セシムル外良策ナク且ツ孫黃ノ徒ニ至リテハ単ニ自己アルヲ知リテ国家アルヲ知ラス今日ニ於テハ已ニ人心モ離反シ居ルカ故ニ彼等ハ最早支那内地ニ於テハ何事モ為シ得ヘキモノニアラス況ンヤ夫以下ノモノニ於テヲヤト

目下長江一带各樞要ノ地ニ配置セラル、文武大官中ニハ袁ノ股肱多クシテ近來政府反對者ヲ物色スルコト頗ル嚴密ナル上ニ当地方一般ノ人心モ前ニ述フルカ如ク業已ニ革命ニ鑿キ擾乱ニ懲リ只管地方ノ平穩無事ナランコトヲ望ミ且ツ

天仇ハ昨一日孫文ニ其趣ヲ復命シタル結果同日戴ハ頭山満、寺尾亨、海妻猪勇彦等ニ会見伯ノ意見ヲ告ゲ相談スル処アリシガ一面板垣伯ハ同日の野半介ヲ自邸ニ招致シ右ト同一ノ意味ヲ伝ヘラレタル趣ニテ的野ハ頭山、寺尾等ト相談シタル結果昨夜午後六時ヨリ赤坂三河屋ニ左記人名ノ者会合相談スル所アリテ同九時過ギ散会シタルガ其相談ノ内容等ハ目下内偵中ナリ

会合者

頭山満、寺尾亨、的野半介 外四名

五七四 十月十日 在本邦中国公使館ヨリ
外務省宛

中国革命党ノ運動計画ニ関シ密報ノ件

亂黨最近全局作亂計畫密報

日本主要人物

元山大尉現在青島接洽參謀本部某要人 水目陸軍少尉

松本 秋田 福田 瀧川以上皆海陸軍人

中國主要人物

張堯卿湖南人青幫魁首現厲神田

譚人鳳 柏文蔚 季雨霖 白逾桓 詹大悲 劉藝舟

洪兆麟 冷遜 章梓

與日本密約條件

甲 從日本郵船會社貸款三百萬圓 五年還清 八厘分息 內五十萬圓爲現金其餘代購軍火內計野砲六尊攻城大砲二尊山砲十六尊機關槍三十枝子彈若干萬作兩期交貨左龍口引受

乙 中國將來照約履行條件 (略)

(注意) 此合同係劉藝舟通譯於九月廿六日在精養軒議
會密定二十八日簽字

進行計畫

甲 以膠濟路輸送軍火北與津奉南與津浦路線聯絡一氣日兵撤去肩章變換衣服混入華黨一致進行

乙 進行以擾亂爲目的若遇商埠不妨焚掠預先聲明賠償擾亂所至之地日本仗義執言進兵保護代爲平亂

一 譚人鳳已將公債票十五萬押與大倉洋行在上海交給軍火柏文蔚公債票五萬抵押於三井洋行

一 張堯卿與日本各藥房收買仁丹及丸散等藥五十萬圓作三折換買并託日本人各處賣藥以備偵查

(欄外註記)

「大正三年十月十日孫公使館秘書官持參本官ニ手交 (小池政務

乙 中国カ将来約ノ如ク履行スヘキ条件

(注意) 此契約ハ劉芸舟ノ通訳ニテ九月廿六日精養軒ノ宴會ニ於テ秘密ニ取極メ二十八日調印セリ

進行計画

甲 膠濟鉄道ヲ以テ軍器彈藥ヲ輸送シ北ハ天津奉天線、南ハ天津浦口線ト聯絡シ日本兵ハ肩章ヲ撤去シ衣服ヲ變換シ支那黨員間ニ混入シ一致進行スルコト

乙 進行ハ擾亂ヲ以テ目的トナス商埠ニ至ラハ焚掠スルヲ妨ケス予メ賠償ヲ声明ス擾亂至ル所ノ地ニ日本ハ義ニ仗テ言ヲ執リ兵ヲ進メテ保護シ代テ乱ヲ平グト為スコト

一、譚人鳳ハ已ニ公債票十五萬元ヲ大倉組ニ抵当トシ上海ニ於テ軍器彈藥ノ受渡ヲナシ柏文蔚ハ公債票五萬元ヲ三井物産会社ニ抵当トセリ

一、張堯卿ハ日本各藥店ヨリ仁丹及丸藥散藥等五十萬元ヲ三割ニテ買入レ日本人ニ託シ各処ニ藥ヲ売ラシメ以テ探偵ニ備ヘタリ

五七五 十月十九日 警視庁ヨリ
外務省宛

一四 中国革命党関係者ノ動靜ニ関スル件 五七五

局長花押)

(右和訳文) (日本外務省作成)

最近乱党カ全局ニ乱ヲ起スノ計画密報

日本主要ノ人物

元山大尉 (現ニ青島ニ在リ)

參謀本部内某要部ノ人

水目 (陸軍少尉)

松本 秋田 福田 滝川

(以上皆海陸軍人)

中国主要ノ人物

張堯卿 (湖南人青幫魁首ニシテ現ニ神田ニ寓ス)

譚人鳳 柏文蔚 季雨霖

白逾桓 詹大悲 劉芸舟

洪兆麟 冷遜 章梓

日本ト密約ノ条件

甲 日本郵船会社ヨリ三百万円ヲ借款ス (五年ニ還済、利息八分) 内五拾万円ヲ現金トシ其他ハ軍器彈藥ヲ代購ス即チ野砲六門攻城大砲二門山砲十六門機關銃三十挺彈藥若干發二回ニ分チ竜口ニ於テ引渡スコト

中国第三革命計画ニ関シ日本在郷軍人募集ノ件

件

乙 秘第二一〇二号 十月十九日 (十月二十日接受)

支那革命ニ関シ在郷軍人募集ノ件

亡命者陳其美、許崇智及ビ陸軍予備大尉一之瀬斧太郎 (目下在上海) 等ガ支那第三次革命ニ関シ日本陸軍在郷軍人募集ノ件ハ曩ニ数次報告スル処アリシガ其後陸軍在郷軍人ノ募集ハ革命ニ関係ヲ有スル日本人側ノ進言ニ依リ之レヲ中止シ第一次革命ノ際ニ於ケル經驗ニ鑑ミ長江筋ニ於ケル海軍ヲ革命派ノ手ニ入レ置クニアラズンバ万事ニ付キ不便ヲ感シ活動意ノ如クナラサルヲ以テ先般來孫一派ノ革命派ハ支那海軍ノ懷柔ニ着手シ既ニ支那軍艦中五艘ハ革命派ノ藥籠中ニ歸シタル趣ニテ陳其美ハ此等ノ軍艦ハ主トシテ日本人ヲシテ操縦セシメンガ為メ王統一 (元、海軍參謀) ニ命シ日本海軍予備軍人ノ募集ニ当ラシメ王統一ハ之レヲ知己ナル海軍休職大尉富永竜太郎 (本籍千葉県匝瑺郡豊巢村四〇番地当時麻布区筭町一八〇王統一方同居) ニ謀リ兩人協議ノ上目下富永ノ手ニ於テ人ヲ各地方ニ派シ各地ニ於テ秘密ニ在郷海軍々人ノ募集ニ奔走シ居レリト云フ

追テ支那軍艦ノ乗組員中艦長及其他上級軍人中ニハ多少北京側ノ者有レトモ大部分ハ福建省出身者ナルヲ以テ之等ノ者ヲ革命派ニ加担セシムルハ比較的容易ナリト云フ

五七六 十月二十日 警視庁ヨリ
外務省宛

対支聯合会五百木良三中国第三革命計画ニ関

シ談話ノ件

乙秘第二〇一八号 十月廿日 (十月二十一日接受)

対支聯合会ノ五百木良三ハ支那革命ニ就キ或者ニ対シ左ノ談話ヲナセリト云フ

余等同志ハ刻下ノ時局ヲ利用シ支那ニ於テ最モ有利ナル利権ヲ獲得セント種々計画中ナルガ一面目下我国ニ流浪中ナル孫逸仙ヲ始メ其他多数ノ亡命者等ハ此時機ニ於テ第三次革命ヲ起スニ最モ適當ナル時期ナリトシ種々焦慮ノ上各方面ノ有志ニ謀リ近ク旗竿ゲヲナサント運動怠リナキ由ナルガ如何ニモ之レガ軍資金ヲ得ルニ困難ナル趣キニシテ今ニ孫逸仙及陳其美等ハ我国ニ潜ミ運動シツ、アリ去リトテ又タ荏苒日ヲ送ルヲ許サバルヲ以テ余等同志ハ革命派ノ指揮ニ当ラシムル目的ニテ先頃約十名位ノ

在上海革命党夏之麒ニ属シタル革命黨員十余名十月二十二日当地ニ於テ逮捕セラレ取調ノ結果八名ハ二十三日死刑執行セラル当地ニ於ケル取締ハ極メテ嚴重ニテ引續キ搜索中市場ハ格別影響ナク人心平靜ナリ

五七八 十月二十八日 在杭州額上領事館事務代理ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

浙江省当局者ヨリ革命党荷担ノ日本人ノ来浙

禁止方申越ニ付請訓ノ件

第三四号

拙電第三三三三号ニ関シ今日ニ至ル迄約三十名ノ革命黨員逮捕セラレ二十七日更ニ五名死刑ヲ執行セラル

二十八日当地將軍及民政署長ヨリ十月二十一、二十二日当地ニ於テ逮捕シタル乱党ノ申立ニ依ルニ日本人中西小林水田外二名彼等ト行動ヲ共ニシ同シク危險物ヲ携帯セシカ発覚セルヲ識リ逃亡セリト向後斯カル日本人ノ来浙ヲ禁止アラシコトヲ請フ旨ノ意味ノ照会ニ接セリ之ニ対シ本官ヨリ何等カ特別回答ヲナスノ必要アレハ至急何分ノ御電訓アリタシ

北京、上海へ転電シタリ

予後備ノ軍人ヲ上海方面ニ送リタリ革命派ニ於テハ軍資金ノ調達出来ザル今日他ニ適當ナル手段方法ナキヲ以テ事ヲ拳クルニ当リ差向キ馬賊的ニ掠奪ヲ行ヒ之レヲ以テ軍資金ニ充テ以テ時局ヲ大スル手段ヲ採ル外途ナク支那ノ動乱ハ多ク之レニ依リテ起サシメント余等同志ハ目下専ラ次革命ハ之レニ依リテ起サシメント余等同志ハ目下専ラ支那内地ニ於テ之レガ計画中ナリ我政府ハ革命戦ノ裡面ニ我邦人ノアルヲ非常ニ恐ルルモ多少ノ日本人ガ混ジ居タリトテ差シタル対支外交ノ妨碍トナルモノニアラズ然ルニ我政府ガ之レヲ恐レツ、アルハ甚ダ遺憾ノ次第ナリ然レトモ我政府ハ革命党ガ自己独力ニ依リ動乱ヲ起ス事ニ就テハ歡迎スル者ノ如キ意向ナルモ斯ル都合ノ善キ事ノミヲ望ミ居ル時ハ時機ヲ失シ何事ヲモ為シ能ハザルハ恰モ燎原ノ火ノ如ケレバ余等同志ガ如上ノ運動計画ヲナシツ、アル次第ナリ云々

五七七 十月二十五日 在杭州額上領事館事務代理ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

杭州ニ於テ中国革命黨員八名処刑サレタル件

第三三三号

五七九 十月二十六日 在本邦中国公使館ヨリ
外務省宛

中国革命党関係日本人ニ関シ密報ノ件

關於亂黨之密告要旨

河原林櫻一郎現充三井物産會社石炭部主任通英獨語略能參中國話素與亂黨有密接之關係曾於第一次革命時私售軍火獲利鉅萬第二次革命時由黃興託河原林定購大宗鎗彈未及發送亂黨事敗至今急欲將此項鎗彈售去以補損失詎有新聞記者某窺破情由向河原林迫索金錢致被警察訪悉在山口縣小門地方搜出該項軍器現拘獲日本人一名諸威人一名及送檢事局尚未提起公訴時有石橋長太郎託該局檢事之友某設法運動打消此案並紹介該日人至小倉暗福岡縣大富豪伊藤傳右衛門伊藤者係代議士與貝島太助兩人有日本礦山大王之目以石炭關係與河原林交誼甚密河原林之供給亂黨武器皆由伊藤貸與資本故伊藤亦重託該日人爲之設法該日人以事司法即行謝絕今此案因土地及人之關係已移交管轄裁判所矣

日本人東丸某與其弟退伍陸軍少尉東丸兼吉在鹿兒島代亂黨募集萬餘人前赴山東輔佐起亂伊藤傳右衛門云據伊所知近日亂黨入已活動時期大約由黃興在美洲籌得軍資現正募集日本

退伍軍人着手進行九州方面殆不下萬人其中一部分已抵山東某處云本月中旬於西京停車場拘獲形迹可疑者一人携有亂黨募集軍人之委任狀十九日長崎日々新聞載下關來電柏文蔚亦在門司運動豫後備陸海軍人云々

十月二十六日

(欄外註記)

「大正三年十月二十七日孫秘書官ヨリ接手」

(右和訳文)(日本外務省作成)

乱党ニ関スル密告ノ要旨

河原林櫻一郎ハ現ニ三井物産会社石炭部主任ニシテ英独語ニ通シ略々支那語ヲ操リ從來乱党ト密接ノ關係アリ曾テ第一次革命ノ時軍器ヲ私売シ鉅万ノ利ヲ獲タルカ第二次革命ノ時黃興ハ河原林ニ多数ノ銃器彈藥ヲ注文シタルモ發送スルニ至ラスシテ乱党ノ事敗レタルヲ以テ今ニ至リ急ニ此銃器彈藥ヲ売却シ損失ヲ補ハントシタルニ新聞記者某之ヲ知リテ河原林ニ対シ金錢ヲ強要シタルカ警察ハ之ヲ探知シ尋テ山口県小門地方ニ於テ該軍器ヲ発見シ日本人一名諾威人一名ヲ拘引シテ検事局ニ送付シタルモ未ダ公訴ヲ提起スルニ至ラサリシ時石橋長太郎ナル者該局検事ノ友人某ニ託シ

十月廿六日

五八〇 十月三十日

在杭州瀬上領事館事務代理ヨリ
加藤外務大臣宛

杭州ニ於ケル中国革命黨員逮捕並処刑ニ関シ

詳報ノ件

附屬書 右詳報

機密第三六号

(十一月九日接受)

大正三年十月三十日

在杭州

領事館事務代理 瀬上恕治(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

本件ニ関シテハ拙電第三三号及ビ第三四号ヲ以テ不取敢及御報告置候処其後今回ニ於ケル事端發生ヨリ本日ニ至ル迄本件ニ関連セル事項左記ノ通り取調べ候間御報告供御参考候 敬具

(附屬書)

革命党(乱党) 陰謀露見

上海ニ根拠ヲ有スル革命党夏之麒一派ニ属スル同黨員ノ多数ガ過般米続々当杭州方面ニ潜入シ何事カノ陰謀ヲ企テツ

一四 中国革命党関係者ノ動靜ニ関スル件 五八〇

法ヲ設ケテ運動シ本件ヲ採消シ並ニ該日本人ヲ小倉ニ於ケル福岡県ノ大富豪伊藤伝右衛門ニ紹介セリ伊藤ハ代議士ニシテ貝嶋太助兩人ト日本礦山王ノ名アリ石炭ノ關係ヲ以テ河原林ト交誼甚厚ク河原林ノ乱党ニ供給スル武器ハ皆伊藤ヨリ資本ヲ貸与セルモノナルカ故ニ伊藤ハ亦重ネテ該日本人ニ託シ方法ヲ講セントシタルモ該日本人ハ司法ニ關係スルヲ以テ之ヲ謝絶シタリ今本件ハ土地及人ノ關係ニ因リ已ニ管轄裁判所ニ引継カレタリ

日本人東丸某ハ其弟タル退役陸軍少尉東丸兼吉ト鹿児島ニ於テ乱党ニ代テ一万余人ヲ募集シ山東ニ送り乱ヲ起スヲ輔佐セシメントセリ伊藤伝右衛門ノ知ル所ナリト云フヲ聞クニ近日乱党ハ已ニ活動時期ニ入り多分黃興ハ米國ニ於テ軍資ヲ調達シ得タルニ因リ現ニ日本ノ退役軍人ヲ募集中ニシテ着々進行シ九州方面ニテ殆ント一万人ヲ下ラス其中一部分ハ已ニ山東某処ニ至レリト云ヒ又本月中旬西京停車場ニ於テ疑フヘキ形迹アル者一人ヲ拘引シタルカ其者ハ乱党カ軍人ヲ募集スル委任狀ヲ携帯セリトイヒ又十九日ノ長崎日々新聞ニ記載セル下關來電ニ依レハ柏文蔚ハ亦門司ニ於テ予後備陸海軍人ニ運動中ナリトイフ

、アリトノ風説切リニシテ当地支那官憲ノ之レニ対スル警戒モ一層嚴重ヲ加ヘタル模様ナリシガ果然右噂ハ事実トシテ現ハレ其陰謀ハ遂ニ露顯シ本月二十一日深更当城ノ内外ニ潜伏セル同黨員十数名ハ当地憲兵隊守備隊及ビ警察官ノ為メ數刻ヲ出ズシテ逮捕セラレ訊問ノ結果本人ノ自白ト証拠充分ナリシトニ依リ夫々処罰セラレ内八名ハ本月廿三日十二時当地清波門外ニ於テ死刑(銃殺)ニ処セラレタリ

朱興武將軍ガ前記死罪者八名ニ対シ宣布セル

罪状

過般来当地軍警密偵等ノ報告ニ依レハ上海ヲ根拠トスル乱党首領タル偽都督夏之麒及ビ偽總司令官夏爾嶼ハ密カニ決死ノ黨員ヲ当杭州方面ニ派遣シ陰謀ヲ企テツ、アリトノ事ナリシヲ以テ充分ノ警戒ヲ加フルト同時ニ其逮捕方ニツキテハ夫々嚴重ナル命令ヲ下シ置キタルニ果セル哉忽チ彼等ノ陰謀発覺シ本月廿一日我軍警協同ノ下ニ城隍山、金剛寺巷、登雲橋及ビ停車場附近ニ於テ多数ノ乱黨員ヲ緝獲シ同時ニ任命状委任状志願書及ビ爆藥等多數ノ証拠物件ヲ搜出セリ逮捕セル黨員中訊問ノ結果何子祥、何振漢、王文揚、薛如軒、周開木、李友儀、張延南及ビ熊飛ハ何レモ逆黨員

夏之麒ノ命ヲ受ケ来杭暴逆ヲ企テタル事明白ナルヲ以テ廿三日死刑ヲ宣告シ同日十二時清波門外ニ於テ死刑（銃殺）ヲ執行ス

革党ノ計画

彼等ノ自白ト当地支那官憲ノ話ヲ綜合スルニ孫文、黃興及ビ陳其美等ノ同党首領株ハ歐洲戦乱特ニ青島ニ於ケル日独交戦ヲ以テ機逸ス可カラズトナシ上海ニ根拠ヲ構ヘ黨員ヲ各省ニ分派シ先ツ江蘇浙江ヲ擾乱ノ手初トシ続テ安徽福建広西湖北湖南ノ各省ニ於ケル黨員前後呼応事ヲ起スノ計企ハリシガ如ク過般来密カニ潜入セシ数十名ノ黨員ハ十月廿二日深更当地重ナル官庁ヲ焼打シ同時ニ珠寶巷、清何坊（城内ニ於ケル目抜ノ場所）等ニアル大商舖ヲ掠奪シ軍資ヲ獲得シ先ツ当方面ヲ其勢力範圍トシ続テ各省ニ及ボサン計企ナリシガ如シ

逮捕ノ概略

十月廿一日檢挙ニ着手セシ以来今日迄約八十名ヲ逮捕シ死刑執行十三名ニ及ビ取調ベノ結果釈放セラレタルモノ十二三名其他目下取調中ノモノニテ一二有罪女犯アリト而シテ逮捕セラレタル犯人某ノ申立ニ依レバ日本人中西小林水田

級將校下士及ビ兵丁ニシテ当地第六師某步兵大隊ノ下士及ビ兵卒タリシ者二三名アリタリト云フ

夏之麒及ビ夏爾嶼ノ略歴

夏之麒、（目下上海ニアリ浙江都督ト称ス）浙江省旧処州青田県人、前清時代江西某軍隊ノ標統、同省講武学堂々長共和宣布後南京某要職ニ任セラレタリ
夏爾嶼、之麒ノ実弟、前清時代安徽省武備学堂正提調、共和宣布後某聯隊長

中央統率辦事処ヨリノ警報

朱興武將軍宛来電——密偵ノ報告ニ拠レハ過般来蔣介石、徐仁士、夏次崔等ハ切りニ浙江第六師ノ軍隊ヲ煽動シ杭州ヲ擾乱シ続テ同省衢州ニ根拠ヲ構ヘ江西省安徽省等ニ及ボサントノ計企中ナリ警戒ヲ要ス云々

各処ノ防衛

今回ノ事件後当省各方面ニ於ケル防備ハ更ラニ嚴密ヲ加ヘ特ニ上海ト当杭州間陸海両交通路ニ対スル取締ハ一層ノ嚴重トナレリ朱興武將軍及ビ屈巡按使ハ所属各軍警知事等ニ宛テ此際乱党禍根ヲ断ツニ勉ムベキ様ノ敕命ヲ下シタリト云フ

（松田トモ云フ）外二名ハ彼等ト始終行動ヲ共ニシタルモノニテ爆薬其他危險物ヲモ携帯シ居タリトノ事ナルモ事成ラザルヲ覚知セルモノニヤ数日前何レヘカ走避シタリト

第二回目ノ死刑執行

十月廿七日張璧森、金砥候、張耀、詹順昌、馮惠哉ノ五名ハ死刑（銃殺）ニ処セラレタリ（罪状等ハ総テ前八名ト同ジ）

目下取調中ノ重要犯

当城羊壩頭滌園茶店ニ於テ逮捕サレタル曾義順（別名曾榮）ハ革命党首領闕玉麒一派ニ属シ西岐山北路統領ノ名義ニテ来杭当地軍隊（第六師）ヲ煽動ノ大目的ヲ有シタリト鳳山門外ニ於テ緝獲セラレタル繆祥福（別名阿祥）ハ第二次革命事件發生ノ際ハ陳其美配下ニシテ上海機器ヲ攻撃セシ小隊長タリシガ事敗レ漢口ニ逃往シ湖北湖南ヲ来往シ居レルガ今回更ラニ闕玉麒ノ命ヲ受ケ来杭セルモノナリ

来杭黨員ノ前職業

今回来杭セルモノ、多クハ曾テ軍人タリシモノ多キガ多ク鈕永建ノ部下タリシ者南京第八師附タリシ者王金發ノ部下タリシ者及ビ各省ニ於テ曾テ軍籍ニアリシ者多ク何レモ下

今回ノ事件ニ関スル賞与

朱將軍屈巡按使ノ今回ノ措辦ハ極メテ敏捷ニシテ前後ノ防備亦甚ダ周到ナルハ深ク嘉獎スル処ナリトテ事件ニ關係アル軍警其他ノ功勞者ヘ対スル賞金壹萬元送来セリ（大總統ヨリ）

朱將軍屈巡按使ハ更ラニ二千元ヲ増加シ功勞ヲ三等二分チ夫々賞与ノ分配ヲナサシメタリ

革党ト杭州

当地一般人民ハ第二次革命發生後特ニ革党ニ対スル憎惡甚シキニ至リ何レモ同党ヲ呼ブニ乱党若クハ匪類ヲ以テスルニ至レリ当地方面ニ於ケル青幫紅幫及ビ共進会匪中多少革命党ニ意ヲ通ズルモノナキニアラザルモ既ニ昨年ノ失敗ニ鑒ミ容易ニ事ノナラザルヲ知レルヲ以テ進シデ之レニ投スルモノ殆ンドナク寧ロ之レヲ利用酒食ノ料ヲ得ルニ勉メ革命党事ヲ挙グルニ至ラバ機ニ乘シ富豪ヲ掠奪シ私囊ヲ肥スベク期待スル状態ナルヲ以テ到底彼等率先事ヲ起スガ如キ事ナカル可シト思考セラル

第六師

朱興武將軍ハ第二次革命事變發生後特ニ軍隊取締ヲ嚴重ト

ナシ且ツ其監部ハ腹心ノ将弁ヲ以テ満タシ下級將校下士卒ノ如キモ充分ノ注意ヲ以テ編成ヲナシ居レルヲ以テ第六師ヲ煽動シ擾乱ヲ醸スハ中々容易ノ事ナラザルベシ惟師団各監部ガ余リニ將軍腹心者ヲ以テ充タサレタルト其任免ニツキ多少公平ヲ欠グノ点アリトテ下級將校下士卒ノ一部ニハ大ニ之レヲ快シトセザル向キナキニアラザルヲ以テ場合ニ依リテハ多少ノ脱營者ヲ出スハ或ハ免レ難キ事ナラン

五八一 十一月六日 在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛

大連ニ於ケル中国革命党取締方ニ関シ外交部
申越ノ件

附屬書 十月二十八日附外交部節略
大連ニ於ケル革命党取締方ニ関シ照会ノ件

機密第四九八号 (十一月十六日接受)

大正三年十一月六日

在支那

特命全權公使 日 置 益(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

大連ニ於ケル乱党取締方ニ関スル外交部申越

案既據該匪供稱以大連爲根據地並指出各人姓名及所居地址應請

貴公使轉電大連

貴國官吏嚴行查究並分別將案內劉玉山等引渡交由中國地方官懲辦其助匪之韓人日人亦請查明按律治罪以昭擾亂友邦治安者之戒實切睦誼即希
見復爲荷

孫寶琦 十月廿八日

(右和訳文)(日本外務省作成)

覚 書

奉天本溪県ニ於ケル乱匪ノ搶擾事件ニ付テハ已ニ本部ヨリ覚書ヲ具シテ貴館ニ照会シ置キタルカ今般吉林省ニテ捕獲セル此事件ノ要犯陳起玉ノ口供ニ拠ルニ此度ノ本溪搶擾ハ実ニ大連ヲ以テ根拠地ト爲シ何海鳴ハ朝鮮人劉玉師日本人遙西達山及姓名ノ知レサル日本人六名ヲ引連レテ暗ニ本溪ニ赴キ匪徒ヲ結合シテ事ヲ起シタリ現ニ遙西達山劉喜太等ハ何レモ大連ノ四海旅館内ニ在テ仍ホ人ヲ各省ニ分遣シ擾乱ヲ準備ストノ趣按スルニ此事件ハ該匪ノ口供ニ拠リ大連ヲ以テ根拠地ト爲シ並ニ各人ノ姓名及住所ヲ指出セリ依テ

一四 中国革命党関係者ノ動靜ニ関スル件 五八二

ノ件

過般奉天省本溪湖ニ於ケル暴動ニ關係セル陳起玉ナルモノ此程吉林省官憲ノ手ニ捕ヘラレ訊問ノ結果這般ノ暴動ハ大連ヲ根拠トスル何海鳴カ日本人遙西達山外六名及朝鮮人劉玉師等ト共ニ本溪湖ニ至リ醸成セシモノニシテ現ニ遙西及劉喜太等ハ大連四海棧内ニ住シ同地ヲ根拠トシテ人ヲ各省ニ派遣シ擾乱ヲ企テツ、アル旨供述シタル由ニ付同地日本官憲ニ於テ支那人犯人ハ之ヲ支那地方官憲ニ引渡スト共ニ日鮮人ニ就テハ相当処罰ニ附セラル、様取計アリ度旨別紙写節略ノ通り外交部ヨリ申越候ニ付委曲右ニテ御査閱ノ上何分ノ儀御回示相成候様致度此段申進候也

本信写送付先 在奉天總領事

(附屬書)

節略

亂匪搶擾奉天本溪縣一案業經本部備具節略知照貴館在案現據吉林省呈獲此案要犯陳起玉一名訊供此次搶擾本溪實以大連爲根據地何海鳴帶同朝鮮人劉玉師日本人遙西達山暨不識姓名日本人六名暗赴本溪結匪起事現遙西達山劉喜太等均在太連四海棧内仍預備派人分赴各省擾亂等情查此

請クハ貴公使ヨリ大連ノ貴國官憲ニ打電シテ嚴重ノ取調ヲナシ並ニ夫々此事件内ノ劉玉山等ヲ中國地方官ニ引渡シテ之ヲ処罰シ其匪ヲ助ケタル韓人日本人モ亦タ調査ノ上法律ニ依テ之ヲ治罪シ以テ友邦ノ治安ヲ擾乱スルモノ、戒ヲ明カニセラレナハ実ニ睦誼ニ感スヘシ尚ホ直チニ御回答アラソコトヲ希望ス

五八二 十一月十日

在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛

浙江方面ニ於ケル中国革命党關係邦人取締方
ニ関シ外交部ヨリ照会アリタル件

附屬書 民国三年十一月六日附外交部節略
浙江方面ニ於ケル革命党關係日本人取締方ニ関スル件

機密第四九九号 (十一月十八日接受)

大正三年十一月十日

在支那

特命全權公使 日 置 益(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

中支那地方ニ於テ邦人カ乱党ニ關係セリトノ

件ニ関シ外交部ヨリ照会ノ件

外交部ヨリ十一月六日附覽書ヲ以テ今回浙江ニ於テ乱党ノ機關ヲ破獲シ乱党多數ヲ捕縛セル処右ニ関シ地方官ヨリノ報告ニ犯人ノ供述ニ拠レハ日本人中西小林水田等ヨリ拳銃爆彈ノ供給ヲ受ケタリトノ趣ニテ又探報ニ拠レハ上海虹口密勒路六号ニ居住セル日本人齋藤恒ナル者自ラ日本參謀部調査員ト称シ支那ノ党人ト聯合シ居レルカ軍器彈藥ヲ沿江沿海ニ運送シ又ハ軍艦ヲ以テ党人ヲ護送スルコトハ彼レニ於テ取計ヒ得ヘシト称シ居又屢膺大悲等ト会飲シ極力聯絡ヲ謀リ居レリトノ趣ナリ査スルニ該乱党等ハ密ニ海外ヨリ本国ニ帰還シ擾乱ヲ企テントシツ、アルモノニテ盜匪ト毫モ異ナラス然ルニ貴国人中西小林水田等ヨリ爆彈等ヲ供給スルカ如キ假令個人ノ行為ナリトハ云ヘ実ニ兩國ノ国交ヲ害スルモノニ付速ニ貴公使ヨリ查明ノ上嚴重禁止セラレ度次ニ齋藤恒ナル者既ニ自ラ貴國參謀部調査員ナリト称スル以上ハ更ラニ一層不都合ニ付此亦貴公使ヨリ查明禁止セラレ且ツ相当処分ヲ加ヘ以テ党人ト結托シ邦交ヲ害スルモノノ戒メトシ度トノ旨別紙写ノ通り申越シ有之候間事實御取調ノ上何分ノ儀御回示相成候様致度卑見ニ拠レハ齋藤少佐

貴政府查明禁止及予以相當之懲罰以爲勾結黨人爲害友邦者之戒并盼
見覆爲荷

曹 汝 霖代

十一月六日

五八三 十一月十二日 在広東赤塚総領事ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

広東ニ於テ革命党騷擾ノ件

第四一号

十日夜革命党仏山ヲ襲ヒ十一日朝迄同地官兵ト戦ヒ双方共数名ノ死傷ヲ出シタル後革命党ハ其ノ附近ニ引揚ケタリ竜済光ハ十一日午後二時応接ノタメ陸軍二營ヲ差向ケタリ革命党ハ數百ニ過キス直ニ鎮庄ノ見込ナリ又昨夜巡按使署附近ニテ又々爆裂彈ヲ發見シ人心動揺ス
北京電済

五八四 十一月十二日 警視庁ヨリ
外務省宛

第三革命ニ関スル戴天仇談話ノ件

乙秘第二二五五号 十一月十二日 (十一月十三日接受)

一四 中国革命党関係者ノ動靜ニ関スル件 五八三 五八四

ニ於テハ右様輕卒ノ挙動ハ無之筈トハ存シ候ヘ共万一ニモ詹大悲等ト屢々往来シ支那側ノ猜疑ヲ招クカ如キ事實アルニ於テハ既ニ屢次支那側ヘ声明セル我方ノ革命党取締ノ趣旨ニモ相反スル儀ニテ事態甚タ好マシカラスト存候間其筋ヨリ相当注意ヲ与ヘ置カル、様致度此段報告旁申進候也

本信写送附先 上海総領事

(附屬書)

節略

此次浙江破獲亂黨機關肇獲亂黨多名據地方報告該犯等均供有日本人中西小林水田等在内手槍炸彈係由日人供給等語又據探稱有日本人齋藤恒者住上海虹口密勒路六號自稱係日本參謀部調査員伊本民黨願與中國黨人聯合爲運送軍火至沿江沿海及派兵輪護送黨人伊可辦到并迭請詹大悲等會飲極力聯絡各等情査該亂黨潛回内地希圖擾亂實與盜匪無異乃

貴國中西小林水田等竟有供給炸彈情事雖係簡人行爲實於兩國邦交有碍應請

貴公使轉電查明嚴行禁阻至齋藤恒既自稱係

貴國參謀部調査員尤爲不合亦請

貴公使轉電

支那亡命者戴天仇ハ革命ニ関シ左ノ談ヲ為セリ

余等同志ハ膠州灣陷落ハ早クトモ本月廿日以後ナラント思ヒ同灣ノ陷落ト同時ニ旗ヲ挙ゲント大体ノ計画ヲ立テ居リタルモ同灣ノ陷落意想外ニ早カリシト又タ先般杭州ニ於ケル同志ノ運動ヲ袁政府ノ為メニ覺知セラレ運動ノ水泡ニ帰シタル為メ大体ノ計画ニ一小頓挫ヲ来シタル姿トナリ居レトモ支那内地殊ニ長江沿岸一帶ニ於テハ日増ニ革命ノ氣勢吾党ニ有利ニシテ軍隊トノ連絡モ一層有望ニ進ミツ、アルモ如何セン革命ニ要スル軍資金未ダ意ノ如クナラズ且ツ日本政府ノ援助ヲ得ル事能ハズ之レ余等ノ最モ心痛ニ堪ヘザル所ナリ聞クガ如クンバ日本陸海軍部内ノ或人達ハ革命党ニ對シ青島陷落迄ハ決シテ輕率盲動スル勿レト鎮撫シ居タリトノ事ナレバ青島陷落ノ今日日本政府ハ今後如何ナル方針ヲ執ラルルニ至ルベキ乎余等同志ハ目下日本政府ノ態度ノ如何ニ変移スル乎心窃カニ窺ヒツ、アリ

余一個ノ見地ヨリスレバ青島陷落セシ今日ニ於テハ支那政府ハ必スヤ日本ニ對シ山東省ニ駐屯スル軍隊ノ撤去ヲ要求スルナラン之ノ要求ノ背後ニハ必ズヤ独米兩國ノ潜在シ居ルコトヲ思ハサルベカラズ日本ニシテ之ノ要求ヲ容レサル

ニ於テハ必然米國ハ表面ニ立チ抗議ヲ提出スルニ至ルナラ
ンガ斯クナリ日本モ山東省ヨリ大部分ノ軍隊ヲ撤退スルハ
大ニ苦痛トスル処ナルベキヲ以テ自然駐兵ノ口実ヲ他ニ求
メサル可カラズ或ハ如斯場合ニ於テ日本政府ハ余等革命党
ヲ利用スルノ策ニ出ツルニアラサルナキ哉之レ余等ノ望ム
所ニシテ又タ革命ノ目的ヲ達シ得ルノ時ナリト信ス云々

五八五 十一月三十日

警視庁ヨリ
外務省宛

中国亡命者同志ノ紛争ニ関スル件

乙秘第二四〇二号 十一月卅日

(十二月一日接受)

昨廿九日午後一時半頃小石川区茗荷谷町五十六番地亡命者
劉承烈方ニ同シ亡命者等廿六名程押シ寄せ来リ其言フ処ニ
依レハ劉承烈ハ第二革命ノ際湖南省ノ公金約三万円ヲ携帯
日本ニ亡命シ金五千元ヲ支出シ妾ヲ貯ヘ其他華美ノ生計ヲ
為シ我等ノ窮セルニ目モ呉レザルハ甚タ不都合故是非該金
ヲ提出セヨト云ヒ一方劉承烈ハ三万円云々ハ彼等ノ造リ事
故一銭タリトモ出金スヘキ義務ナシト主張シ双方言論ヲ戦
ハシタル結果廿六名ノ者ハ動モスレハ粗暴ノ行動ニ出テン
トスルヨリ劉ハ所轄大塚警察署ニ保護ヲ願出テタル為メ同

於テ綿密ニ調査ヲ遂ケタル結果一応別紙写ノ通り回報アリ
タルニ付帝國外務省ハ右ノ趣不取敢在本邦支那公使館ニ通
報スルノ光荣ヲ有ス

(別紙)

写

一、第一次革命ノ当時上海電信局ニ奉職シタリト自称セル
氏名不詳諸威人三十四五年位ノ者汽船「ビルト」号ニテ
渡来シ門司、下関、小倉、若松等ニ於テ銃器類ノ買入ヲ
為サントシタルモ不成功ニ終リ大阪方面ヘ立去リタル形
跡アリ然レトモ同人ニ対シテハ拘引云々ノ事実ナク又伊
藤伝右衛門河原林樫一郎等之ト關係シタル事実ヲ認メス
二、革命黨員輔佐ノ目的ヲ以テ九州地方ノ退役軍人一万余
人募集云々ノ件ニ関シ取調ヘタル処曩ニ村部某ナルモノ
九州地方ニテ義勇兵募集ノ運動ヲ試ミ居ル模様ナリシモ
応募者モ至テ少ナク村部某ニ於テモ到底成功ノ見込ナシ
ト認メタルモノ、如ク遂ニ該運動ヲ中止シタリ前記退役
軍人一万余人募集云々ノ件ハ右村部某ノ行動ヲ誇大ニ吹
聴シタルモノニアラサルカト思料セラル

三、革命党一派カ日本郵船会社ヨリ三百万円ヲ借款云々ノ

一四 中国革命党関係者ノ動静ニ関スル件 五八六

署ニ於テハ私服巡查ヲ派シ鎮撫中何海鳴、劉芸舟其他二三
名馳セ来リ警戒巡查ニ向テ種々ナル事情ノ伏在スルニ依リ
我等ニ於テ一切引受ケ解決スヘケレハ警察力ノ行使ハ暫ラ
ク見合セアリタシト述べ双方斡旋ノ勞ヲ採リタル結果大正
四年一月三十日迄ニ金五千元ヲ湖南省公義団ニ提供スヘキ
契約ニテ相談纏リ翌前〇時三十分無事解散シタリ

五八六 十二月一日

外務省ヨリ
在本邦中国公使館宛

中国革命党ニ関スル在本邦同国公使館ヨリ外

務省宛覚書ニ対シ照復ノ件

附記

十一月十八日附安河内警保局長ヨリ小池政務局
長宛来信写

中国革命党ニ関スル同国側覚書ニ付調査ノ結果
通報ノ件

機密送

覚書

帝國外務省ハ十月十日及同月二十七日在本邦支那公使館ヨ
リ本邦ニ於ケル支那革命運動ニ関スル覚書ニ通提出アリタ
ルヲ以テ当該官憲ニ移牒取調方依頼シ置キタル処同官憲ニ

件ハ全然無稽ノ浮説タルニ過キス且劉芸舟ハ本年九月九
日大阪ヨリ入京シタルモ同月十九日帰阪セリ從テ九月二
十六日精養軒ニ於テ密会セル事実ナシ

四、柏文蔚ハ本年八月九日長崎ヨリ入京十月十二日帰崎シ
譚人鳳ハ同月十六日京都ヨリ入京十月十八日帰洛セリ而
シテ滯京中劉芸舟、張堯卿等ト共ニ軍資金及兵器ノ供給
ヲ得シカ為所々ニ奔走シタルハ事実ナルモ譚人鳳ハ公債
票十五萬元ヲ大倉組ニ抵当トシ云々並ニ柏文蔚ハ公債票
五萬元ヲ三井物産会社ヘ抵当トシ云々ト云フカ如キ事実
ハ全ク之ナシ

五、張堯卿ハ日本各藥店ヨリ仁丹及丸藥散藥五十萬元ヲ三
割ニテ買入云々ノ件ハ信ヲ措クニ足ラス但大阪市ニ於テ
亡命者ト連合シ天中其他二三ノ売藥類ヲ販売シ生活費ニ
充テントスルノ協議ヲ試ミタル二三ノ日本人アルカ如シ
註 右別紙ハ中国公使ニ送付スル為十一月十八日附警保局長来
信ヲ訂正シタルモノナリ

(附記)

十一月十八日附安河内警保局長ヨリ小池政務
局長宛来信写

拒絕シ夫レヨリ種々交渉ヲ重ネタル末近々ノ内金千円ヲ劉ヨリ提供スル事ニ議纏リ証拠金トシテ即座ニ金三十円外ニ時計(価四十五円)金指環二個(価一個ハ三十円一個ハ十五円)及ヒ水晶印一個ヲ渡シタリ

又タ劉ノ宅ニ押寄セタル者等ハ日夜二、三名宛劉宅ノ附近ヲ徘徊シ同人ノ逃亡ヲ防クタメ見張ヲナシ居レリ

因ニ劉承烈ガ亡命ノ際携帯シ来リシ三万円ノ金ニ付キ陳其美ノ談ニ依レバ同人ガ亡命ノ際三万円ノ金ヲ携帯シ来リシハ事実ナレトモ該金ハ公金ヲ掠奪シ来リシ者ニアラズシテ同人ガ湖南ヲ出ツル際同省ノ都督ヨリ在日本ノ亡命者ニ配分スル目的ニテ貰受ケ来リタルモノナリト云フ

五八八 十二月八日 警視庁ヨリ
外務省宛

中国亡命者同志ノ紛争落着シタル件

乙秘第二五二二号 十二月八日 (十二月九日接受)

支那亡命者劉承烈(小石川区茗荷谷町五六番地)ト湖南省出身在京亡命者間ニ金錢分配上ノ事ニ関シ紛議ヲ生シ交渉中ナリシ事ハ過般来屢次内報スル処アリシ昨七日仲裁者タル周震麟、何海鳴、王天鵬、陳墨西、張自雄ノ五名ト外ニ

易象、鄭永成、唐支憂、楊宜誠、文近年、江東流、馬応勛、雷鈞、魏政ノ九名劉承烈方ニ会合種々談判ヲ遂ケタル結果終ニ劉ヨリ金二千元ヲ提出(一千元ハ本月中残り一千元ハ来一月中)スルコトヲ確実ニ契約シ茲ニ初メテ数日来紛議一先ゾ解決ヲ告ゲタリ御参考マテ

五八八 十二月十五日 在上海有吉総領事ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

杭州事件ニ関係アリタル日本予備軍人ノ取扱

ニ付請訓ノ件

第九九号

最近杭州事件ノ裏面ニ我予備軍人ノアリタル事実ハ彼等間ノ内訌ノ結果当館ニ於テ偵察サルルニ至レリ関係者ハ歩兵大尉一瀬斧太郎歩兵中尉小室敬次郎同篠田庄太郎同山路成雄歩兵少尉柏原勳一同広岡善一特務曹長近藤某等ニシテ何レモ九、十月中当地着十月二十日彼等ハ杭州ニ至リ師団全部内応ノ約アルヲ頼ミニ將軍衙門ヲ襲ヒ朱將軍誕生日ニ事ヲ挙クルタメ機ヲ窺ヒ居ル内支那偵探ハ支那側一名ヲ羅致銃殺未だ然ニ彈圧セラレタルモノニシテ偵探ハ此等軍人連ノ内情ヲ探知シ得ルニ至ラス偶々商用ノタメ同地ニ在リタル

総領事 有 吉 明(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

杭州動乱ニ日本軍人関係事実ニ関スル件報告

中西歐医等ヲ匪徒ト誤認報告セルモノト認メラレ彼等ハ右失敗再起ヲ企テ機ヲ得ス旅費欠乏等ヨリ内訌ヲ始メ遂ニ当館ニ偵察セラレタルモノニシテ彼等ノ言ニ依レハ東京ニ於テ陳其美等ト関係ヲ有シ之レカ媒介ハ内田良平大竹貫一等ナリトノコトニテ多少根底ヲ有スルモノト認メラレ彼等ニ對シテハ御訓令ノ趣旨ニヨリ一律ニ在留禁止ヲ命シタキ希望ナル所杭州事件ハ支那側ニ於テモ我方ニ嫌疑ヲ掛ケツ、アルハ御承知ノ通りニ付彼等ノ処分ニ依リ新聞紙等ニ内情暴露等ノコトアリテモ如何カトノ懸念モナキニアラス依テ為念一応取扱振御訓示ヲ仰キタク秘密ヲ可トスルニ於テハ論旨退去ヲ命スルモ一法カト考フ

在支公使へ転電セリ

五九〇 十二月二十八日 在上海有吉総領事ヨリ
加藤外務大臣宛

杭州ニ於ケル革命党騒擾ニ日本軍人関係ノ事

実ニ関シ報告ノ件

機密第一三〇号 (大正四年一月四日接受)

大正三年十二月二十八日

在上海

以テ其ノ所在ヲ嚴査セシメ居タル処今回漸ク其ノ關係ノ真相ヲ發見スルニ至レリ

今本件關係者ノ供述ヲ綜合シ其ノ事實ヲ叙述センニ本年九月中旬東京府荏原郡平塚村字戸越六百四十四番地陸軍騎兵大尉市瀬斧太郎ハ伊東直行ト偽稱シ宮城県刈田郡円田村字平沢四十五番地歩兵中尉小室敬次郎、新潟県北魚沼郡蕨生村字木津二百九十九番地歩兵中尉篠田庄太郎、鹿兒島県人歩兵少尉柏原勲、新潟県人歩兵少尉広岡喜一ヲ伴ヒ近江丸ニテ当地ニ来着シタリ此ノ際市瀬ハ第二革命ノ当時旅団長ノ職ニ在リタリト云フ支那人周応時ヲ同伴シ一行何レモ變名ヲ用ヒ仏租界烏竜路魚陽里四号ニ居ヲ構ヘタルモ外界ト全ク交通ヲ絶チ非常ノ警戒ヲ加ヘテ潜伏シ居タル趣ニテ右市瀬ハ内田良平、大竹貫一等ヲ經テ陳其美一派ト密議ノ末杭州ニ於テ動乱ヲ企テシテ計畫ニテ渡来シタルモノナリトノ事ナリ

市瀬斧太郎ノ友人ニ東京市牛込区市谷谷町十八番地予備歩兵大尉山井利男及騎兵大尉小幡某ナル者アリ彼等ハ本年九月中旬東京国民新聞及やまと新聞等ニ退役陸軍將校下士卒二百名ヲ高給ニ採用ス希望者ハ証拠書類又ハ軍隊手帖ヲ持

相当スル一ヶ月分ノ現金ヲ支給サレ之レニテ洋服等ヲ買求メ旅裝ヲ調ヘ九月下旬某料亭ニ於テ陳其美、許崇智、宋振等ノ支那人モ列席シ離宴ヲ張リ其行ヲ壮ニシ十月十八春日丸ニテ上海ニ来着シタルモノナリ市瀬ハ九月下旬同行ノ者ヨリ二名又ハ三名ヲシテ支那人革命匪徒ト共ニ杭州ニ赴カシメ地理ノ踏査及必要ナル準備ヲ為サシメ置キタルカ前項山井大尉ノ募集ニ係ル山路等八名（応募者九名ノ内中尉佐久間某ハ手当金ヲ受取リタル儘逃亡シタル由）及歩兵大尉石田二郎木村友藏ノ来着ト共ニ十月二十二日ノ夜杭州ニ於テ事ヲ挙クルノ計畫ヲ定メタリ

其ノ方略ハ始め杭州駐屯ノ師団全部内応ノ盟約成立シアリテ同夜々陰ニ乘シ支那人ヲ以テ組織セル決死隊ヲ以テ將軍衙門ヲ襲撃シ將軍朱瑞ヲ屠リ上海ニ於テ購入シタル火薬ヲ用ヒ兵器処ヲ破壊シ師団ノ加担スルト同時ニ南京ニ於テモ之レニ策応シ反乱ヲ起シ一挙中清ノ根拠ヲ定ムルニ在リタル由ナルカ市瀬等ハ之ノ企図ヲ遂行スル為十月二十日当地出發市瀬柏原ハ杭州停車場前車站旅館ニ広岡、篠原、小室ハ城内第一清泰旅館ニ山路、藤田ハ第二清泰旅館ニ投宿シ他ノ日本人ハ上海ニ在リテ市瀬ノ指揮ニ依リ第二線トシテ

參スベシトノ意味ヲ以テ募集廣告ヲ為シタルニ之レニ応シ指定場所牛込区土官学校裏ナル某空家ニ參集シタルハ予備歩兵少佐本田某以下三百名ニ達シタリ山井ハ各兵科ヲ通シ希望者ノ申込ヲ受ケ且ツ九月二十四日更ラニ新橋演芸館ニ集合スヘシト申渡シタル処所轄警察署ノ干渉スル所トナリ中止セシメラレタルモ山井及小幡ノ兩人ニ於テ密ニ申込ヲ受ケ採用ノ約束ヲ為シタルハ東京市麴町区飯田町六丁目二十五番地歩兵中尉山路成雄、東京市京橋区弥右エ門町十五番地歩兵特務曹長近藤卯太郎、山梨県中巨摩郡竜王村字新町四百四十三番地騎兵曹長小宮山繁、鹿兒島県鹿兒島郡谷山村大字上福本五百七番地砲兵軍曹入佐諭吉、岡山市内山下町九番地歩兵少尉水野秀雄、砲兵少尉藤田末吉、歩兵中尉笹森某、工兵曹長森田甚三、歩兵中尉佐久間某ノ九名ニシテ其ノ任務ハ上海ニ来リ既ニ渡来セル歩兵大尉市瀬斧太郎ノ指揮ヲ受ケ第三革命運動ニ対シ各自軍事上必要ナル援助ヲ為スニ在リテ又タ其ノ手当ハ中尉一箇月百五十円、少尉百三十円、特務曹長百二十円、曹長百円、軍曹八十円、伍長六十円、上等兵五十円、卒三十円ト定メ戦死傷病ノ際ニ於ケル支給ハ別ニ定ムルコトトシ前掲九名ハ其ノ官等ニ

杭州ニ赴援スルカ又ハ南京ニ到ルヘキ命ヲ受ケ機ノ熟スルヲ待チツ、アル間ニ支那偵探等ハ支那人匪徒ノ内ニ多クノ間諜ヲ放チ形勢ノ切迫セルヲ知リタルヨリ勃發ニ先チ支那人ノ匪徒ニシテ杭州城内ニ潛匿セルヲ嚴査シ多數ノ嫌疑者ヲ羅織シ其ノ若干ヲ銃殺シ動乱ヲ未前ニ彈圧シ得タルモ前述市瀬等日本軍人ノ加担セル真相ヲ發見スル能ハス当時偶然營業用ノ為城外ノ支那旅館ニ在リタル中西等ヲ匪徒共謀ノ邦人ト誤認シ上司ニ報告シタルモノ、如シ

如斯シテ十月二十二日夜事ヲ挙ケンシタル企画ハ全然失敗ニ歸シタルモ市瀬等ハ尚ホ第二ノ腹案ヲ有シタルモノ、如ク再度杭州ニ赴キタル由ニテ其際市瀬ノ言ニ第一線成功シタルトキハ上海杭州ノ鉄道及電信ヲ破壊スベキニヨリ錢塘湖ヨリ溯航來援セヨト命令シタル由ナルモ此ノ計畫ハ着手ノ機ヲ失シタル趣ナリ

於是市瀬ハ当分再挙ノ見込ナキモノト決定シタルモノ、如ク同志ノ軍人ニ対シ解散ヲ言渡シタルカ一方山路成雄等ハ帰國セントスルモ旅費ナキヨリ市瀬ニ嚴談シタルモ同人モ亦所持金ナキヲ口実トシ之レカ支給ヲ為サス荏苒時日ヲ經過スル内十月下旬当地料理亭ニ於テ市瀬ハ近藤卯太郎ニ三

十元ヲ渡シタルカ後チ金主ナル支那人周応時ヨリハ二百元ヲ受取り内百七拾元ハ着服シタルコト暴露シ一悶着ヲ演シタルモ結局第二回ノ来航者八名ニ対シ二百四十元ヲ交付シタルヲ以テ近藤等四名ハ一先ツ帰京シ山井等ニ談判シ手当金ノ請求ヲナス為帰京シ第一ノ来航者中柏原勲ハ市瀬ノ感情ヲ害シ市瀬カ兵器局夜襲ノ際之レカ実行ヲ命シ故意ニ死地ニ陥レタルヲ忿リ争論ノ上一時ハ刺殺スベシト迄公言シ居リタルカ是又若干ノ金員ヲ交付セラレ広岡喜一郎ト共ニ帰京シ市瀬モ次イテ東上シ木村友藏ハ大連ニ向ヒタル由ナリ右ノ如クニシテ当地ニ残留シタルハ小室敬二郎、篠原庄太郎、山路成雄、入佐諭吉、小宮山繁、水野季雄ニシテ外ニ近藤卯三郎ハ本月十二日女婿夫婦ヲ伴ヒ商用ノ為メト称シ再度来航シタルモノニシテ計七名ナルカ何レモ金員欠乏ヲ告ケ其ノ日ノ糊口ニモ差支ヲ生スルニ至リタル結果市瀬ノ股肱トシテ會計方ヲ担任セシ小室敬二郎ニ対シ嚴談ヲ試ミ暴行ニ訴フルカ如キ有様ニ立至リタリ而シテ市瀬ハ近藤卯太郎カ再度渡来ニ際シ目下東京ニ於テモ金策困難ナレバ約定ノ手当ヲ送付スルコト能ハサルモ下宿料位ハ送金スル筈ニ付今暫時上海ニ在リテ時機ヲ俟ツベシト伝言シタリト

調査ノ上匪徒ト通シ不穩ノ企ヲ為スノ惧レナキ場合ハ諭示退去ヲ猶予スル見込ナリ

尚ホ近藤卯太郎ノ言ニ拠レハ同志ハ各自変名ヲ用ヒ互ニ機密ノ洩レンコトヲ警戒シ居レル故其ノ姓名ハ知ラサルモ杭州事件ト前後シテ数名ノ軍人広東ニ向ヒタル由ナリ右及報告候 敬具

本信写送付先 杭州、南京領事館

広東総領事館

北京公使館

附 在本邦中国留学生問題

五九一 一月二十三日

在天津窪田総領事ヨリ
在中国山座公使宛

中国留学生海外派遣中止ノ事情ニ関シ報告ノ

件、

(写)

北機第三号

大正三年一月廿三日

云フ

大略叙上ノ次第ニシテ現在当地ニ残留セルモノハ何レモ今後ノ動乱勃発ノ機ヲ觀望シ之レニ参加セントスルノ意志ヲ懷抱スルノ疑ヒアルノミナラス糊口ニモ窮セル結果邦人軍人連ノ追求ヲ免レン為所在ヲ晦マシ居ル匪徒周応時其他ノ支那人ノ潜伏処ヲ突キ留メ之レニ強要スルトキハ調金セシムルノ見込アリトナシ狂奔シツ、アル如キ狀況ニテ彼等同志間并ニ支那人匪徒ノ間ニ悶着ヲ生スル結果過敏ナル視線ヲ放チ居レル支那探偵ノ覺知スル所トナリ遂ニ此等日本軍人カ匪徒ト通シ支那ノ安寧秩序ヲ紊乱セント企テツ、アリトノ事實公表セラル、ニ於テハ日支兩國々交上ノ利益ノ結果ヲ生スルニ至ルノ惧ナシトセス依テ上記七名ニ対シ本月十八日諭示退去ヲ命シタルニ篠原庄太郎ハ翌十九日ヲ以テ山路成雄、入佐諭吉、小宮山繁、水野季男ハ二十二日ヲ以テ何レモ出發シタリ小室敬二郎ハ同志間確執ノ為同船シ難キ事情アルニ依リ二十六日以内ノ便船ニテ出發スヘク誓言セリ

近藤卯太郎ハ再度渡来ノ際女婿夫妻ヲ同伴シ且ツ雜貨商品千余円ヲ輸入シ在留商業ヲ営ミタキ旨申立ツルニ依リ事實

在天津

総領事 窪田 文三

在支那

特命全權公使 山座円次郎殿

留学生海外派遣差止ニ関スル件

本件ニ関シ客月十二日附機密第四八号ヲ以テ大臣宛機密第四三二号往信写添付取調回答方御申越ノ趣敬承当地ニ於ケル情況取調候処留学生海外派遣ニ関シテハ中央ニ於テ之ニ関スル規則ヲ目下制定中ニシテ右制定ノ上追テ何分ノ命令アル迄海外派遣ヲ見合スベキ旨嘗テ訓令ニ接シ居リ日本及他ノ各国共總テ派遣ヲ見合ハセ居ルモ一面当省ノ財政狀態ハ仮令中央ノ訓令ナシト雖モ目下ノ処到底官費派遣ヲ許サザル有様ナル趣ニ有之候又從來ヨリ派遣中ノモノニ関シテ如何処理スベキカ問合候処右ニ関シテハ目下留学生費用トシテ従前ノ八割ヲ送付シ居リ期限満期ニ至ラバ全部帰朝セシムルコトニ内定シ居ル由ニ有之候將又本件ニ關聯シ当地都督府副官長楊文愷ノ語ル処ニ依レバ在日本ノ陸軍留学生ノ内第二亡命者ト氣脈ヲ通シ居ルモノアルヲ以テ中央政府ニ於テハ右取調ノ為メ陸軍大佐呂外二名ヲ日本ニ派シ其事